



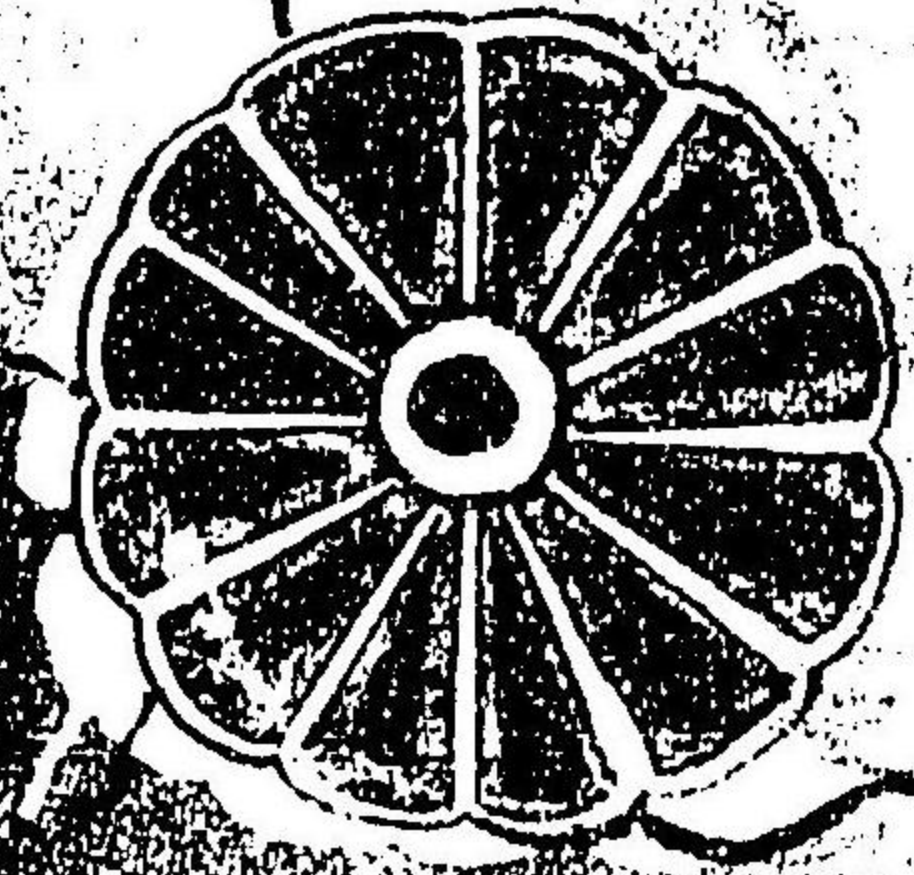
内寨川旭

最近

98

205

景佐之潭古成神



自序

旭川は將來北海の都府たるべく現時は國家の干城たる第七師團の存在せる新天地なり元來此地たるや滾々たる石狩川の碧流を以て圍繞せる渺茫際りなき肥沃の荒野にして羆熊空しく寒雲に叫び稍々巢くの鷲鷹徒らに人を驚かふる人跡殆んど稀れなり去處なりき然るに置道以來僅かに三十有餘年殊に明治三十三年以後頓に戸口増殖を札幌と反比例の趨勢を以て目下の繁盛を觀るに至る何んぞ夫れ長足の進歩なる豈に由來を所なからんや矣蓋旭川の迅速なる開發進歩は將來北海の都府たるべき天然固有の山河形勢と沃野廣漠農業適切の地なるに由來をならんも畢竟るに本道十一州の中心となて百五十万民の安危を双肩に擔ひたる第七師團の設置せられたるに起因するや大なり故に北海道を以て社會に紹介せんと欲せば須からく旭川を以て劈頭とせざる可からざる之れ茲に最近旭川案内なるものを發刊したる所以

なり矣若夫れ世人を志て輒そく旭川の新天地を知らぬめんに
 は最も趣味ある最も巧妙斬新なる一編を著述志て一覽お供する
 に如かざるも予の不敏杜撰なる到底讀者を満足せざるものと
 完成するや難を然れども専心緻密の注意を加へ特に最近なる實
 地真相を網羅を坐からに志て其の全体を知得るに苦まざらん
 ことを期せんとするに勉めたるものなり、
 要するに吾人が本編を草志たるは百聞一見如かきの反對を以て
 苟も世人が旭川の實地真相を知悉せんと欲せば徒らに貴重の日
 子と足勞とを費やを唯た皮相の光京を眺めんより寧ろ本編を坐
 右に置き風雨の餘暇を以て一覽せば坐がらに志て實地と真相と
 を知るに易々たるなり今や北海の天地秋高く馬肥ふるの時日露
 の交戦局を結び天下靜肅和氣靄然紫雲夕陽に隸びくの頃怡と志
 て此稿を了す、

明治三十八年中秋

北総 天涯居士

目次

地勢山川	一頁
面積人口	一頁
區分	二頁
沿革	二頁
官衙	八頁
公吏、辯護士	九頁
教育	十頁
神社	十六頁
宗教	十七頁
衛生(病院、醫院、産婆、旭川愛生會、衛生組合)	二十頁
獸醫、蹄鐵	二十四頁
勝地名所	二十五頁
銀行	二十八頁
目次	一

なり矣若夫夫世人を去て輒そと旭川の新天地を知らぬものに
 は最も趣味ある最も巧妙斬新なる一編を著述して一覽に供する
 に如かさるも予の不敏杜撰なる到底讀者を満足せむるものと
 完成するや難を然れども専心緻密の注意を加へ特に最近なる實
 地真相を網羅を坐からに去て其の全体を知得るに苦まざらん
 ことを期せんとするに勉めたるものなり、
 要するに吾人が本編を草をたるは百聞一見如かきの反對を以て
 苟も世人が旭川の實地真相を知悉せんと欲せば徒らに貴重の日
 子と足勞とを費や去唯た皮相の光京を眺めんより寧ろ本編を坐
 右に置き風雨の餘暇を以て一覽せば坐がらに去て實地と真相と
 を知るに易々たるなり今や北海の天地秋高く馬肥ふるの時日露
 の交戦局を結び天下靜肅和氣靄然紫雲夕陽に翳びくの頃怡と去
 て此稿を了す、

明治三十八年中秋

北総 天涯居士

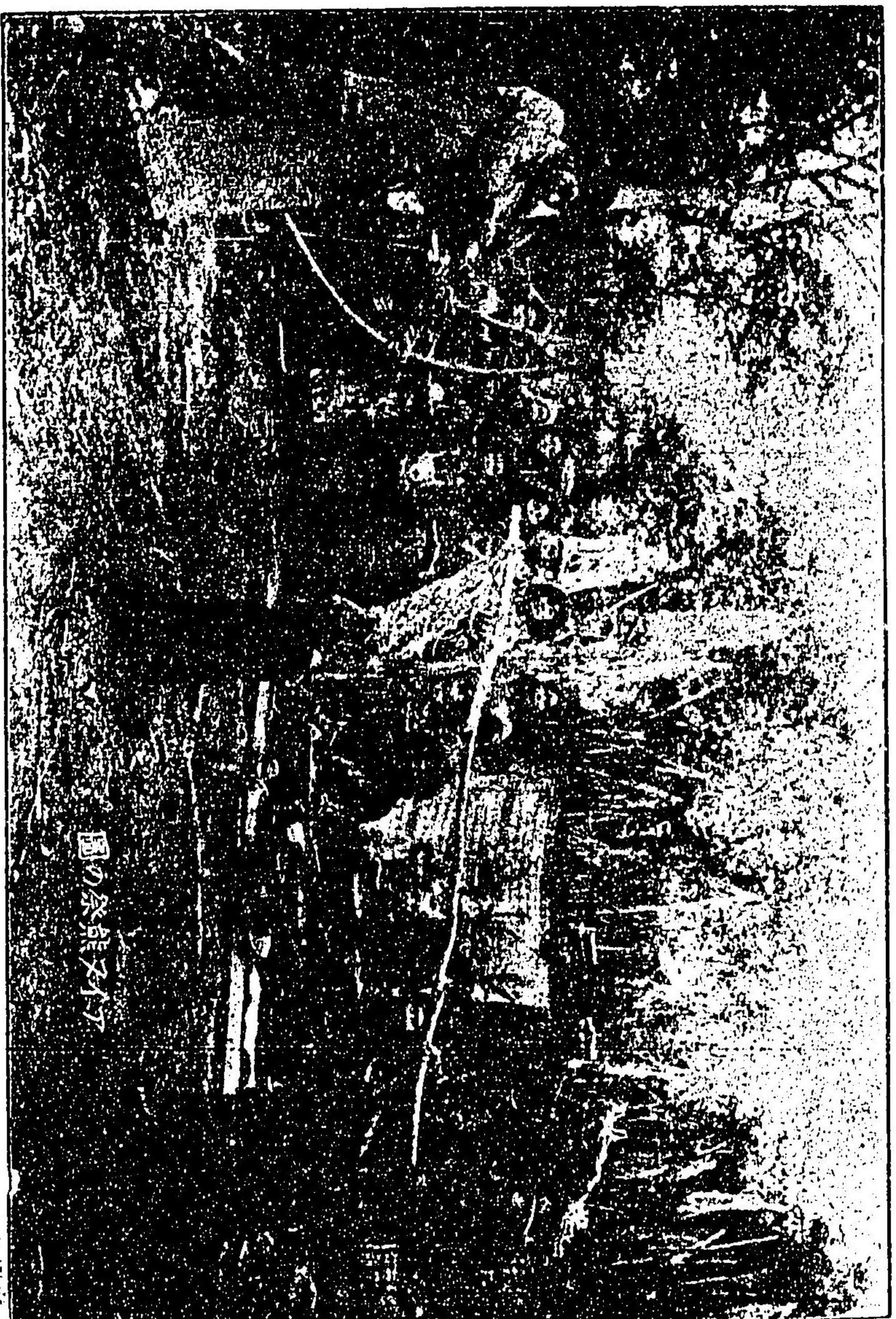
目次

地勢山川	一頁
面積人口	一頁
區分	二頁
沿革	二頁
官衙	八頁
公吏、辯護士	九頁
教育	十頁
神社	十六頁
宗教	十七頁
衛生(病院、醫院、産婆、旭川愛生會、衛生組合)	二十頁
獸醫、蹄鐵	二十四頁
勝地名所	二十五頁
銀行	二十八頁
目次	一

目次

二

會社(醸造部)酒造、味噌、醬油	三十二頁
製造所	五十一頁
商店	五十三頁
農牧場	六十二頁
新聞、雜誌	六十八頁
裁縫家	七十二頁
旅館	七十五頁
料理店	八十頁
娛樂場	八十四頁
雜之部	八十六頁
北海道拓殖銀行旭川支店	九十頁



土人熊祭ノ景



神居古潭ノ風景



京 別 川 釣 籠

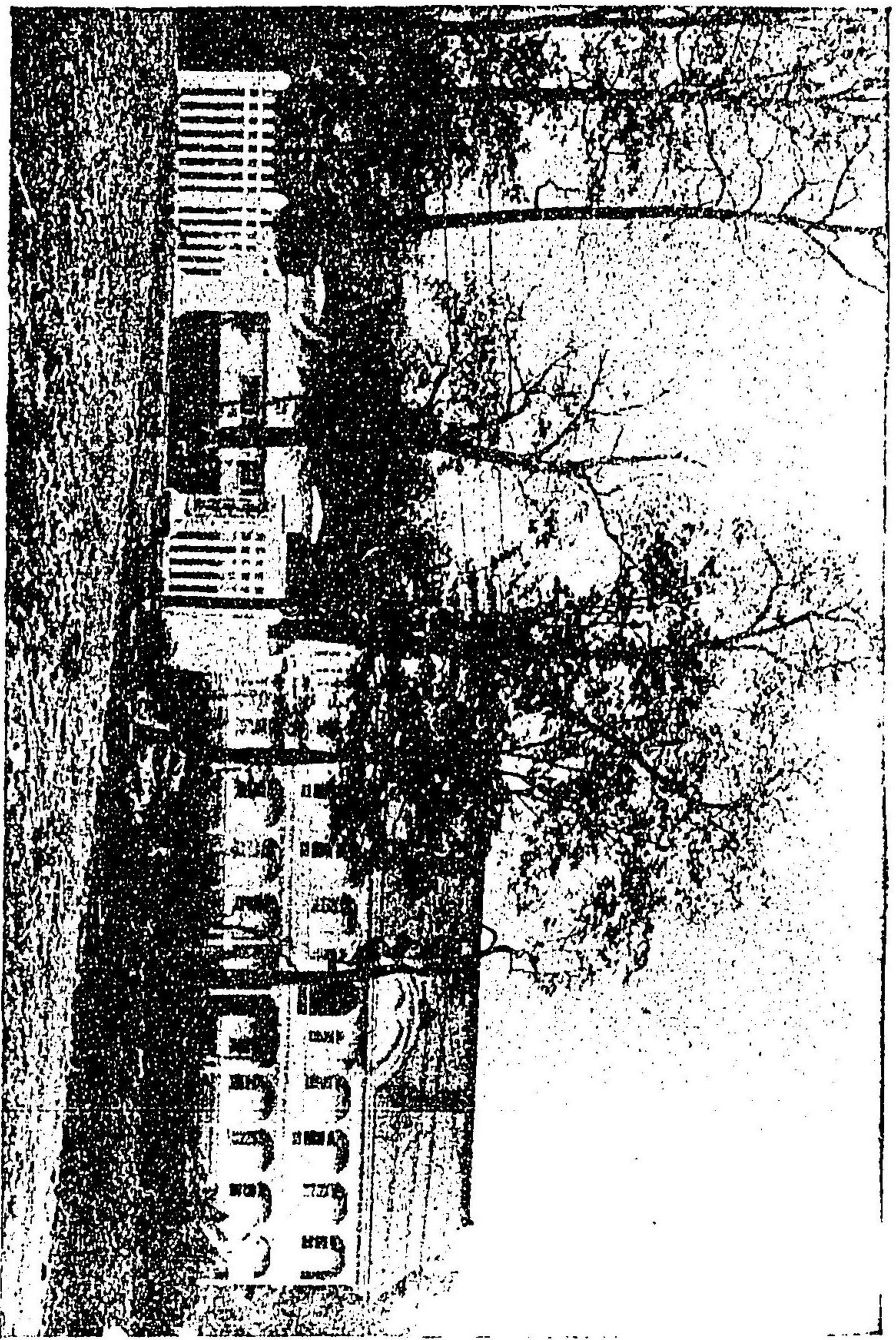


常盤橋ノ景

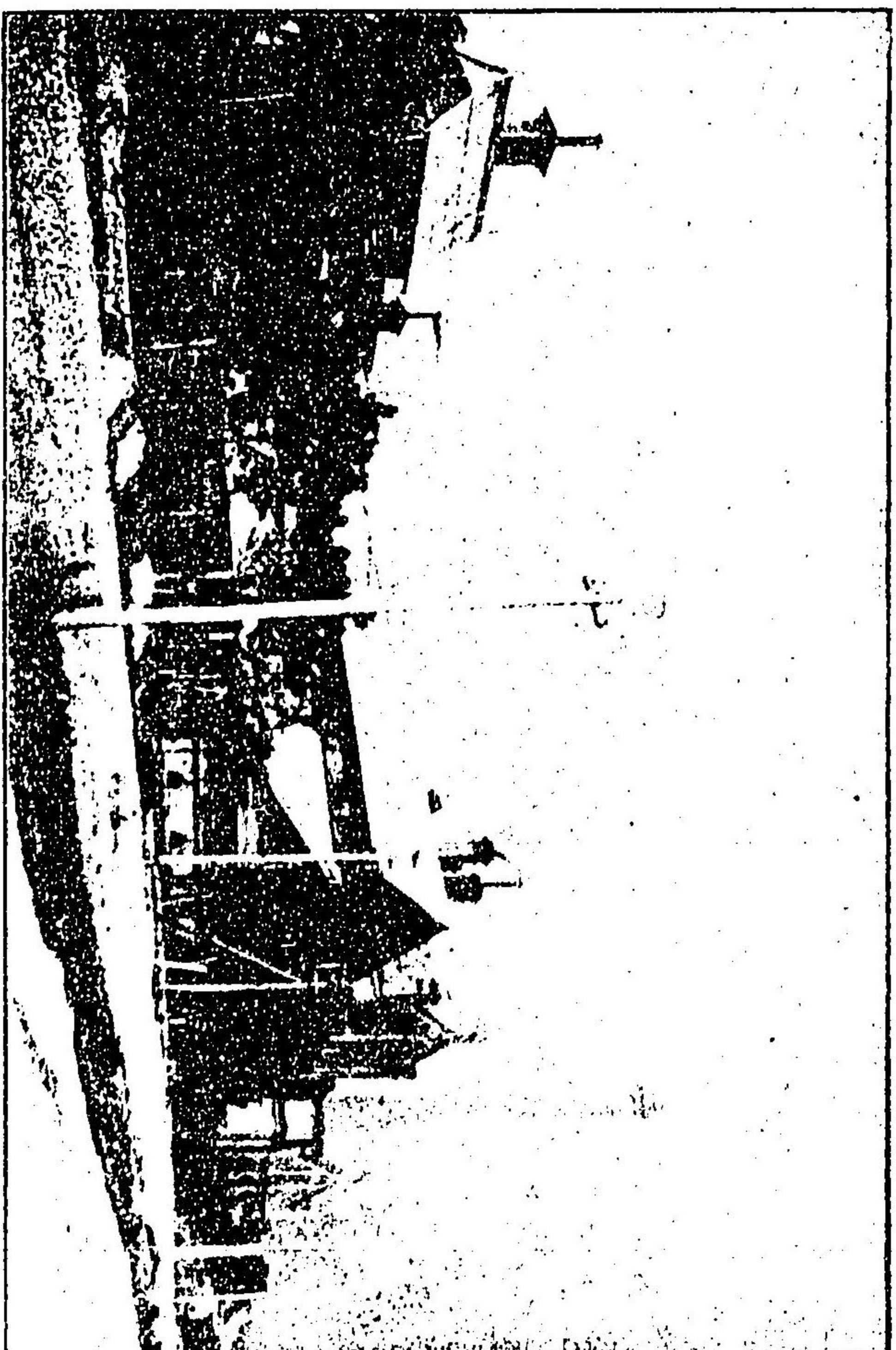
6



石狩川ヨリ近文山ヲ望ム



北京帝國飯店

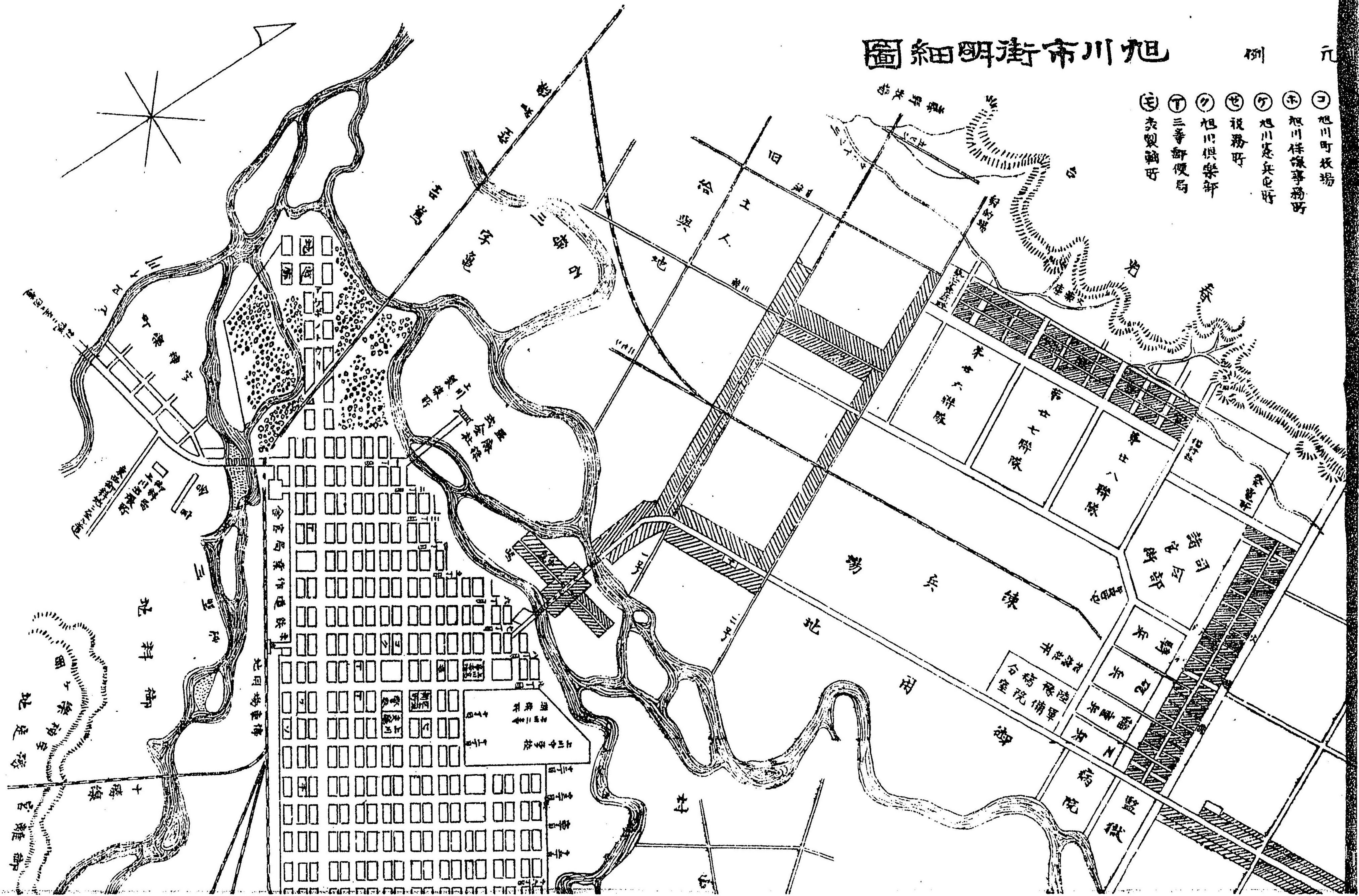


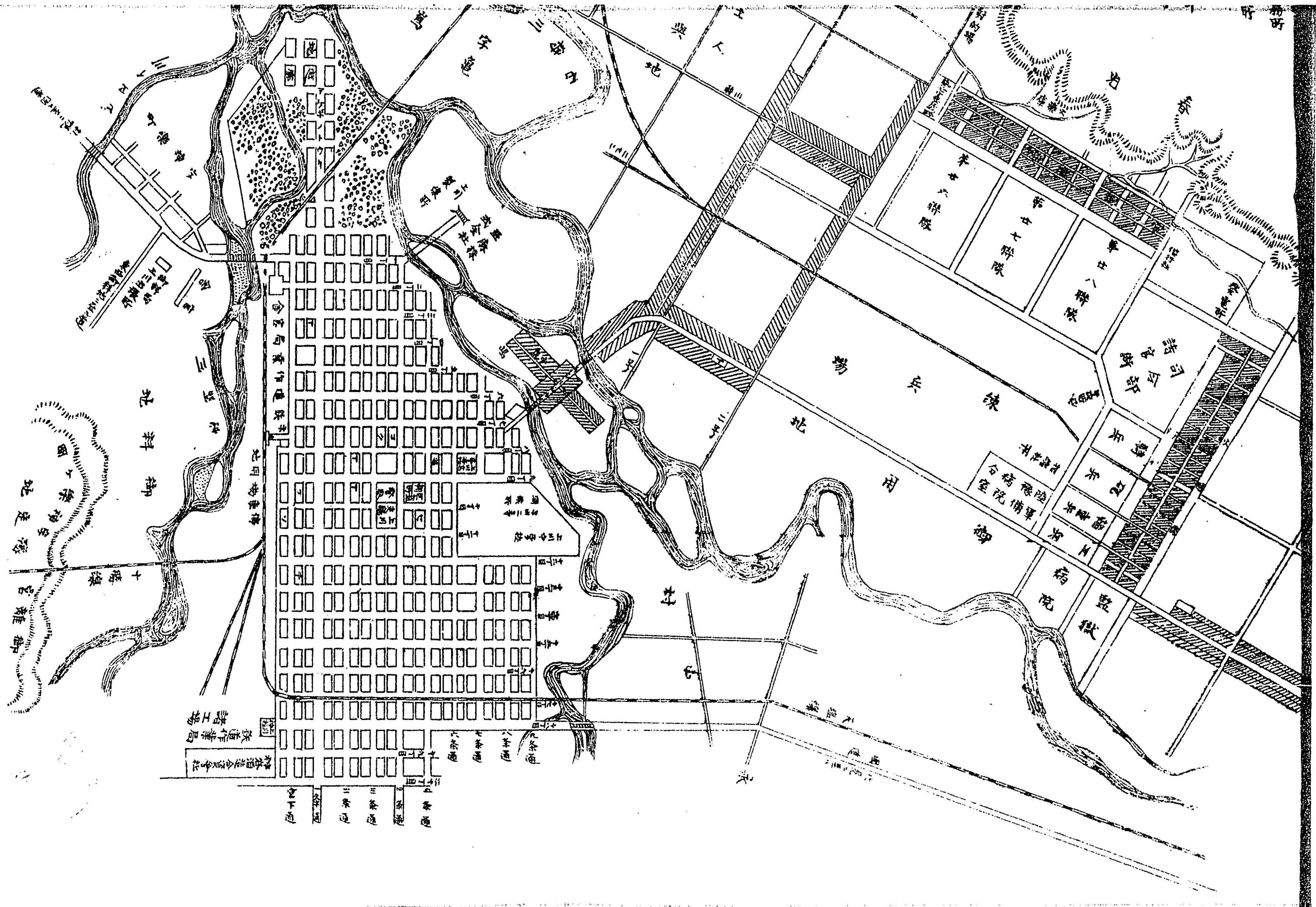
札幌會社酒樓

旭川市街明細圖

例 元

- ① 旭川町役場
- ② 旭川保健事務所
- ③ 旭川憲兵屯所
- ④ 税務所
- ⑤ 旭川俱樂部
- ⑥ 三等郵便局
- ⑦ 赤製靴所





最旭川案内

地勢山川



地勢は平坦にして街路廣く石狩川及び忠別川町内を貫流し海面を越くと四百尺の高
度にわが仰げば連山巖々として雲霞の間に隠現し雲耶山耶を疑ふ、俯せば森々たる
石狩川の碧水或は急に或は緩に潺々として流れ心神自から仙ならしむるの観あり春
は旭ヶ岡の花色濃く淡く競ひ咲きて人目を奪ひ秋は常盤橋の月を賞し冬は玉姫軽く
舞ひて庭樹不時の花を開き四望階々一の目に遮るものなく其光景亦た愛するに足る

面積人口

旭川町の面積は(近支新入地を合せ)千七百三十六町九反七畝二十七歩五合にして廣

袤東西は一里二十町六間南北一里二十九町四十一間餘なり
戸數 四千八百七十一(三十七年十二月三十一日現在)
人口 二万〇七百五十七(同上)

區分

市街の區劃は整然として基板の目の如く南北を一條通より九條通まで宮下通りを併せ十筋とす、東西は一丁目より二十丁目に至る左右各間口六間奥行二十七間(百六十二坪)のもの各十戸とす市内の最も繁華なるは一條通り二條通三條通りにして師團道路を中心として三八九の三丁なり常盤通りは師團通行唯一の線路なれば車馬人車の通行尤も頻繁なり

沿革

昔時上川は石狩連上屋の所屬にして石狩忠別美瑛三川の岸に沿ひ所々に散點して土人の部落あり其勞働に堪ゆる男子は年々運上屋の使役する處となり石狩川に於て

漁に従事し其報酬として少許の米噺酒等を得るを以て唯一の目的とせり、明治初年の頃鈴木龜吉と稱するもの土人の患直にして酒を好むを奇貨とし獸皮鹿角等と酒類と交易の目的を以て初めて上川に來り巨額の利益を得たるより爾來年々往復するを常とせり後明治十年に至り今の旭川町の西方新廓附近石狩川の中洲に移住し依然として交易を爲るの傍はら自己の野菜等を栽培せり之れ實に内地人の來往せし嚆矢にして此中洲を龜吉嶋と稱するも偶然にあらざるなり後明治十九年に至り市來知より旭川町まで二十二里の間假設道路開鑿せられ稍や交通の便を得たれども其の當時は流車電信等の便は夢想たも及ばず冬は積雪十數尺險阻凹凸通路を識別する能はず春夏は荆棘繁茂熊能横行人畜を害し其の危険なる今より追想し能はざるなり明治二十年忠別太に上川二等測候所を設置し次て二十一年九月一條通り三丁目上川農事試作場を設け其の結果に依り移住者を奨励したり、同二十二年に至り本道路始めて竣成し大に交通運輸の便を得たり、同二十三年岩村長官永山將軍兩氏の計畫を以て旭川市街宅地の區劃をなす、同年五月旭川町外二ヶ村を新設せらる。當時月形戸長役場の管轄なりき。

同二十四年八月永山村に戸長役場を新設せられ本田親美氏戸長より當時たり本村は同役場の所管に屬せり。

同年市街宅地貸下となり貸下許可者は一ヶ年以内の家屋を建設せば土地を付與せらるゝ規定なり然れども同年中に家屋建設のもの少數にて同年末の戸數は僅か四十九人口二百二十三人(男一一二)(女一一一)に過ぎざりけり。

同二十五年に至り前に永山屯田に移住せしもの本村字「ウシシユベツ」に屯田兵移住せしより俄かに活氣を呈し、嶺南市街の形勢を一變し侵々乎として發達の機運に向ひたり。

同二十六年旭川に戸長役場を新設し本田親美氏戸長に任ぜらる。

同二十八年議會協賛を経て官設鐵道を敷設するととなり空知太より工事に着手し多數の官民一時に入込みたるを以て人氣頓に一變し宅地の價格非常に暴動せり。

是より前さ北海道官設鐵道敷設案、議會に上や豫て殖民鐵道籌策中の淺羽某は星小室等と密謀し種々の手段を盡して之れが妨害の策を回らし豫算委員會に於て否決するの悲運に至らしむ然れども本問題の可否決如何は實に旭川の消長に關する

重大事件なるを以て忠實熱情なる志士は焉んぞ此儘にて已むべきか忽然有志は東奔西走寢食を忘れて同情の士と協力し特に熱情なる近衛公爵、對馬嘉三郎、望月右内、坂東勘五郎諸氏の盡力を以て復活通過するととなれり此當時上京委員より(只今復活せり安心せよ)の打電ありし際は旭川の天地一時に快晴歡呼の聲野外に響きたるの觀ありき之れ偏に有志熱情の致す處なり。

同三十年七月一條通十一丁目の民家を以て上川郡役所を當町に設置せられ次て三條通十一丁目に新築し磯部正勝氏郡長に任ぜらる、同年十一月郡役所を廢し、上川支廳と改む林顯三氏支廳長たり。

同三十一年八月空知太より旭川間の鐵道工事竣成開通せり以來交通運輸の便備より隨つて文物日に月に進み駘々乎として其の止まる處を知らざるの勢を來せり。

同三十二年第七師團を近文に置の議確定し同時に敷地買上げ工事着手の發表せらるゝや全道の視線一時に旭川に傾注し奸商官負人等は勿論一攫千金を得んとするの諸輩東より西より南より北より踵を續ひて集まり日に數十戸の増殖を觀るの好況を呈するに至る此年戸數の増加は實際六百を超へたり。

同三十五年四月自治制を實施せられ、本田親美氏町長に舉られ、貞光公明氏助役に
 奥田千春氏收入役に推選せらる、第一回町會議員としては友田文次郎、堀井民三、
 井内豊次、花輪富太郎、矢嶋宇八、越川百一郎、立野庄吉、辻榮藏、柳橋力藏、岡
 本一之助、大谷岩太郎、後藤慶治、鹽野谷辰藏、藤島芳藏、池田彌吉、田中敬造、
 澤井兵次郎、武市清行、石神庄之助、渡邊七三郎の(二十名)諸氏なり是より前き明
 治三十四年八月本道會議員の選舉あり第一回名譽議員として左の兩氏選舉せらる。
 友田文次郎氏、竹市清行氏、

同三十七年八月道會議員改選左の兩氏當選、中島民次郎氏、濱田和三郎氏なり。
 同年二月二日(本田町長辭職)奥田千春氏收入役より町長に榮任せり。
 同年八月十一日(奥田氏の後任)吉野平次郎氏收入役に選任せらる。
 同三十八年一月二十六日(貞光公明免職)上野良夫氏助役に推選せらる。
 同年六月町會議員改選左の諸氏(再(新)當選せり)。

- 武市清行 杉谷卯衛門 後藤善八
- 堀井民三 池田彌吉 澤口善助

- 福井榮太郎 吉村多門 矢島宇八
- 越川百一郎 立野庄吉 友田文次郎
- 中原茂助 辻榮藏 荒井初一
- 吉川留吉 佐藤音次 宮下愷太郎
- 後藤慶治 花輪富太郎

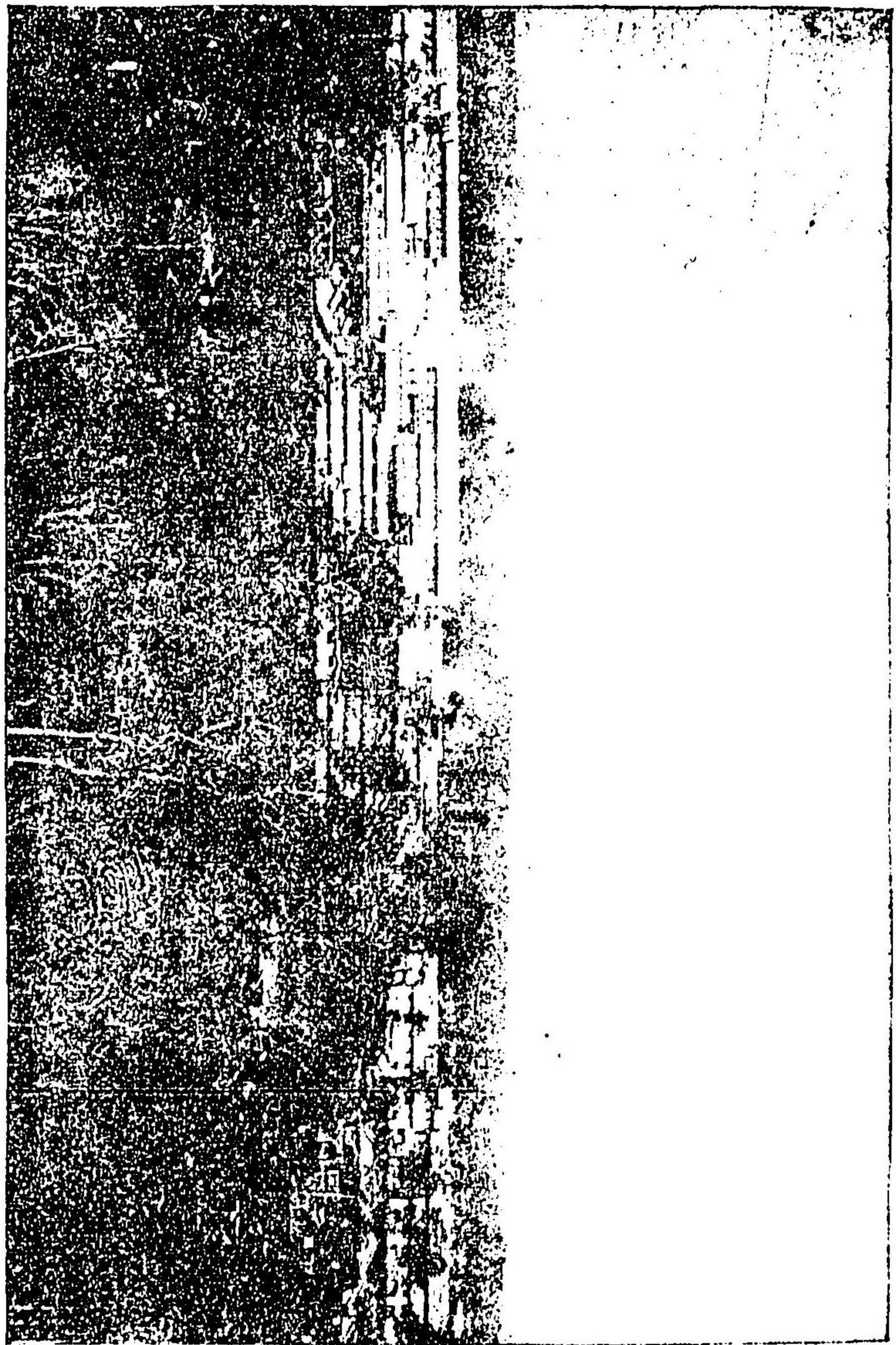
◎旭川町の盛況を來したる由來は明治三十三年第七師團の移轉せられしに依るも爾
 來世の流行語たる不景氣なる嘆聲と共に多少人氣沈鎖の傾きなりしが日露の内訌端
 なく破綻し遂に露露一聲宣戰の詔勅を下し賜はるに至り之れと同時に動員令を發せ
 られ幾万の勇將猛卒第七師團の下に召集せし爲め人氣直ちに引き立ち昨日の不景氣
 は今日の盛況と變じ一時は其の雜踏繁昌殆んど筆紙に盡し難きの觀なり然れども
 盛況は長く持續する能はず今や再び不景氣の嘆聲を聞くに至る之れ畢竟するに何等
 に起因する流行語なるか新開の天地として實に忌はしき惡聲なり。



官 衙

旭 川 案 内

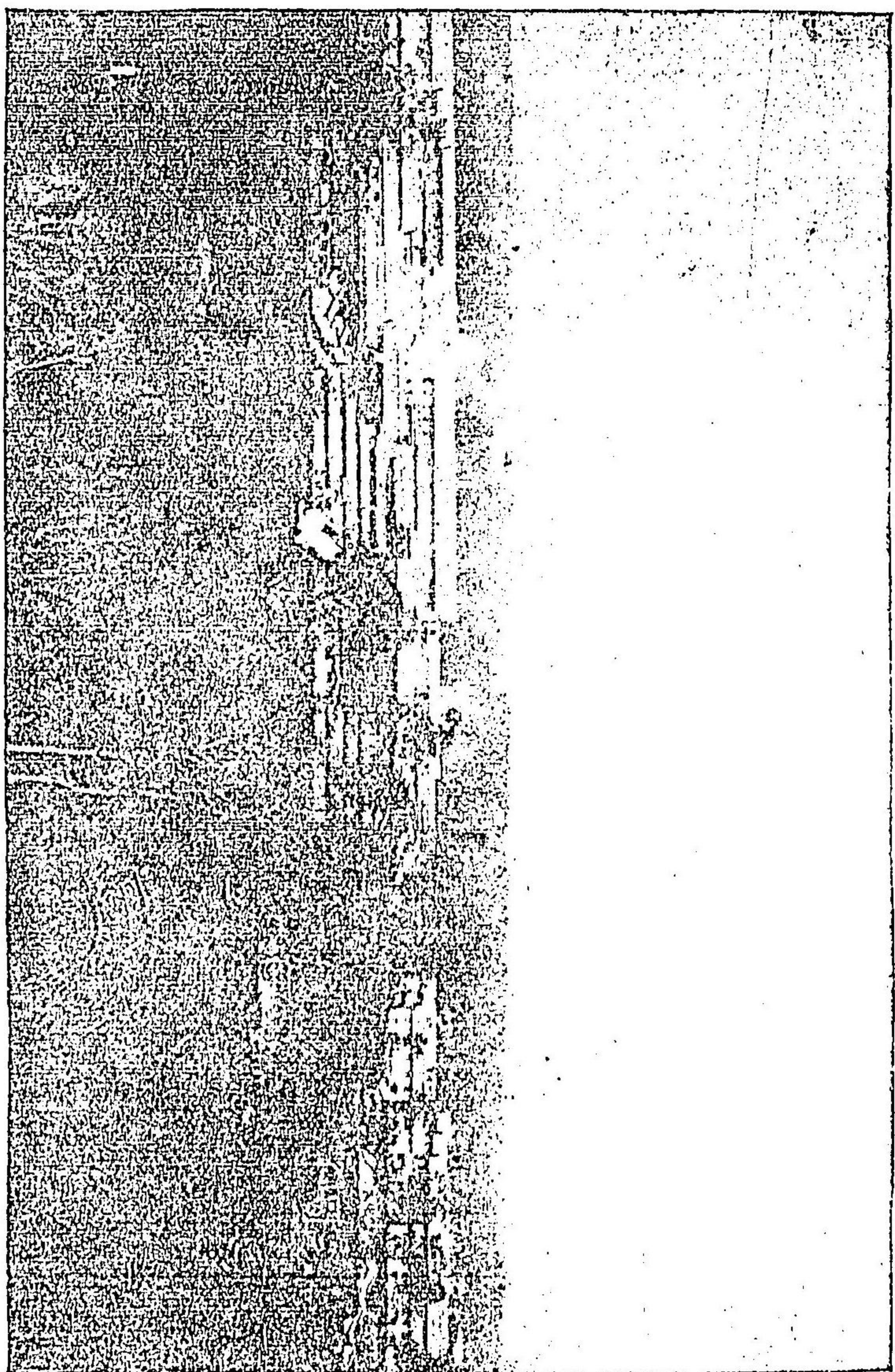
- ◎第七師團各幹部官衙は近文にあり(各幹部長は時々交替するを以て特に記入せず)
- ◎上川支廳は三條通十一丁目にあり 現在支廳長は安食高保氏なり。
- ◎上川稅務署は五條通十一丁目にあり 當署長は野口陳吉氏なり。
- ◎旭川區裁判所は五條通十一丁目にあり 現任監督判事は野田英三氏なり。
- ◎旭川警察署は三條通十丁目にあり 當署署長は齋觀鳥越定氏なり。
- ◎旭川郵便局は一條通十一丁目にあり 當局長は尾崎守人氏なり。此他三等郵便局は左の如し。
- △二條通十丁目局長 石神庄之輔氏。
- △一條通四丁目局長 下村長藏氏。
- △六條通八丁目局長 小林直次郎氏。
- △近文一線一號局長 吉田民治氏。
- ◎旭川憲兵分隊旭川町分遣所は宮下通十丁目所長憲兵特務曹長山本元次郎氏なり
- ◎北海道廳第五部林務上川派出所は四條通十一丁目にあり所長は下宮松樹氏なり。



第七師團案内

官 衙

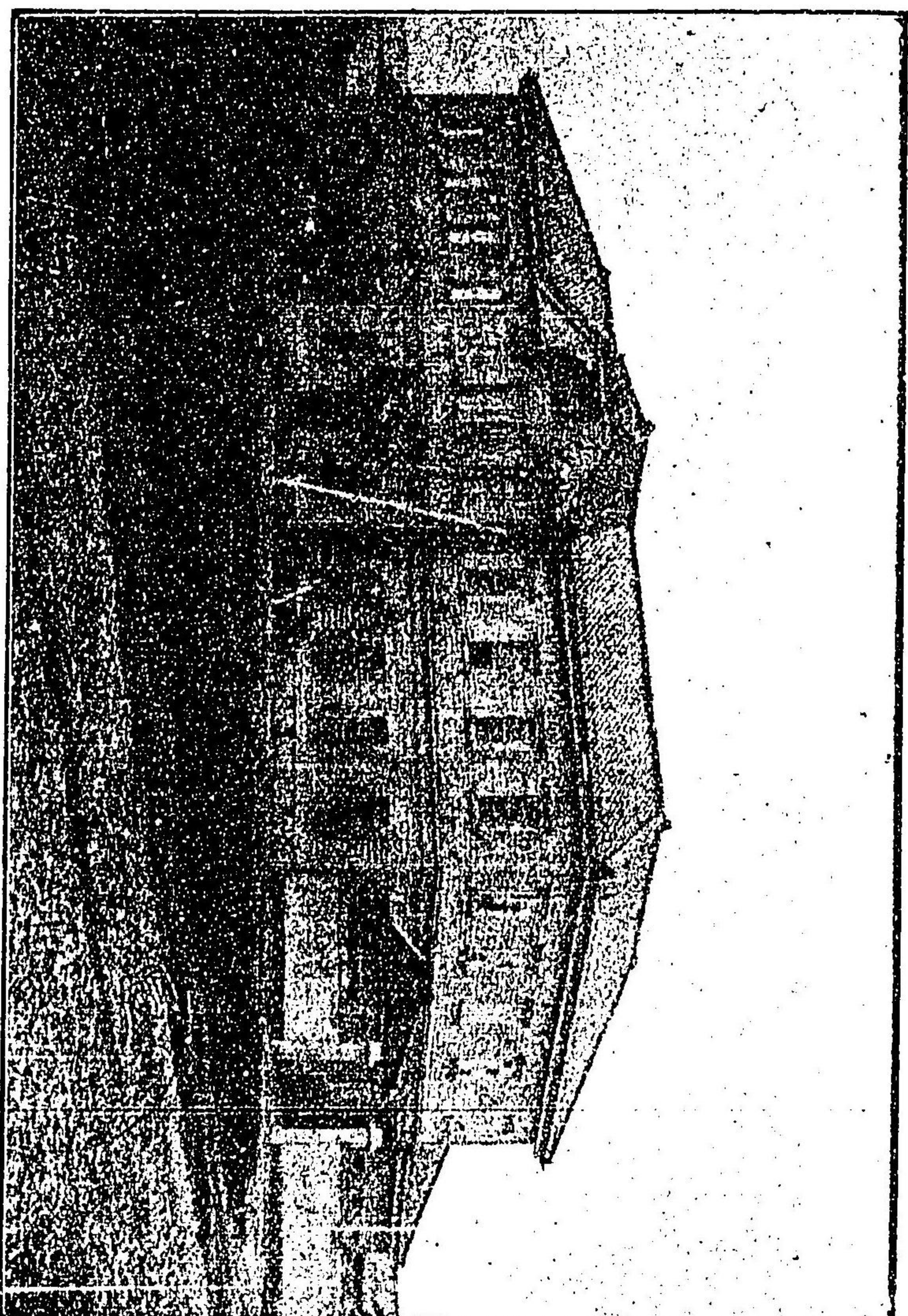
- ◎第七師團各幹部官衙は近文にあり(各幹部長は時々交替するを以て特に記入せず)
- ◎上川支廳は三條通十一丁目にあり 現在支廳長は安食高保氏なり。
- ◎上川稅務署は五條通十一丁目にあり 署長は野口陳吉氏なり。
- ◎旭川區裁判所は五條通十一丁目にあり 現任監督判事は野田英三氏なり。
- ◎旭川警察署は三條通十一丁目にあり 當時署長は瀧崎鳥越定氏なり。
- ◎旭川郵便局は一條通十一丁目にあり 當局長は尾崎守人氏なり。此他三等郵便局は左の如し。
- △二條通十丁目局長 石神庄之輔氏。
- △一條通四丁目局長 下村長藏氏。
- △六條通八丁目局長 小林直次郎氏。
- △近文一線一號局長 吉田民治氏。
- ◎旭川憲兵分隊旭川町分遣所は宮下通十丁目所長憲兵特務曹長山本元次郎氏なり
- ◎北海道廳第五部林務上川派出所は四條通十一丁目にあり所長は下宮松樹氏なり。



景空ノ圖師七第



旭川區裁判所



知 川 鐵 道 車 庫



鐵道作業旭川工場ノ景

旭川町役場は三條通八丁目にあり。

町長

奥田千春氏

助役

上野良夫氏

収入役

吉野平次郎氏

旭川保線機關運輸事務所は宮下通四丁目にあり。

旭川二等測候所は六條通十丁目にあり。

地方農事試験場は六條通十一丁目にあり。

上川中學校は五條通十一丁目にあり校長には小林滿三郎氏新設當時より繼續して其任に當り大ぬに好評あり。

鐵道部旭川工場は宮下通り十六丁目にあり規模の大なる工場の廣壯なる蓋し本道第一ならん。

公吏、辯護士

公証人役場、三條通十丁目にあり公証人は小平元勞氏なり。

●執達吏役場、四條通九丁目あり執達吏は渡邊彦人氏なり。

●辯護士濱田和三郎氏法律事務所は四條通九丁目あり正實誠意克く其の責務を全ふし眞に辯護士として有爲の人物なり、氏は昨三十七年大多数の得點を以て道會議員に舉げられ名譽亦噴々たり。

●二條通十丁目辯護士龍野二郎氏の法律事務所あり氏は其の職に忠にして能く諸氏の依頼に應ず。

教育

●小學校
普通教育の普及如何は國家盛衰存亡の岐るゝ處なれば都鄙の別なく其の發達進歩を計らざるべからず而して旭川町に於ける小學校は左の如く變化發達して今日の盛況を示すに至れり。

旭川は既に沿革の頃既に於て述べたる如く明治二十四年末戸數漸やく四九人口二二三に過ぎざる未開の地なりして以て小學校の設備等も隨つて晚く明治二十六年九月十

七日旭川、神居、神樂の三村にて忠別尋常小學校を設置せしを初めとす當時入學生四七人同年十二月に至り六六人となれり校舍坪數五十七教室二なりき。

同二十七年四月十八日 兩陛下の御聖影を下賜せらる。

爾來戸口の増加に従ひ入學兒童の數日に月に倍徒し教室の狹隘を觀るに至り或は假

教場を設け或は分教場を置き尙ほ三十年十月高等科を併置し忠別尋常高等小學校と改稱す當時兒童百五十九なり。

同三十一年より三十四年に至る間益々長足の發達を以て入學兒童の數を増加したり

故に教室を増築せしこと三回民家を借りて教場に充てたること二回然れども尙ほ愈々發達の速歩を高め到底前年の校舍にては狹隘を感ずると共に高等尋常獨立の必要を認め一時宮下通り十四丁目民屋を借り假校舍とせしが更に六條通り九丁目六百萬五十坪の一大校舍を新築し假校舍を廢せり同年末在學兒童千三百〇七名、

當時本校設立に盡力して經營の難局に當りしは戸長仁科養氏及校長石井勘吾氏なり

同三十五年六月尋常高等を分割し左の通り改稱せり、當時在學生千四百八十六人、

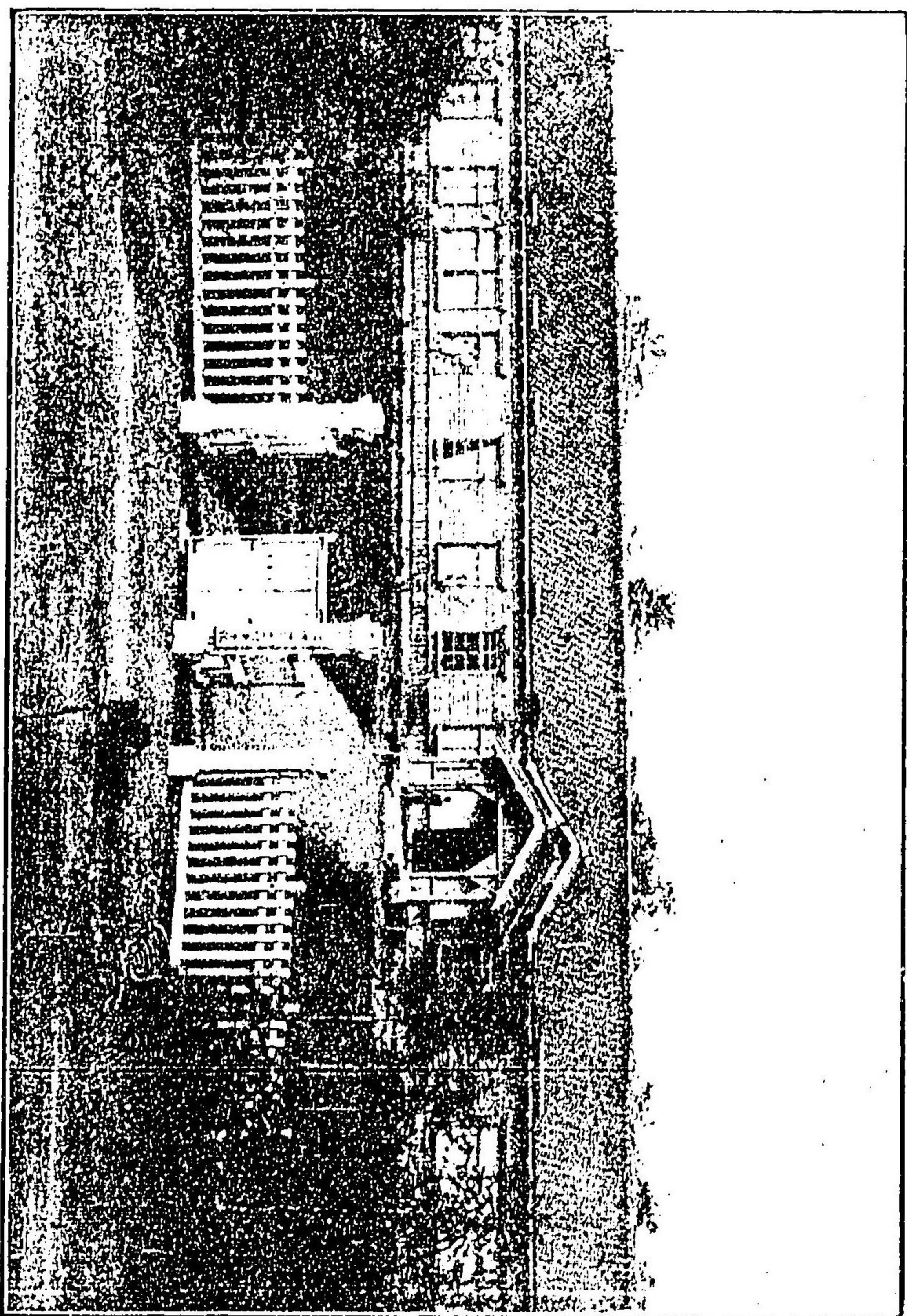
同三十六年七月第一尋常小學校を六條通五丁目新築し九月落成移轉す。

六條通五丁目：上川第一尋常小學校：校長：大谷運八氏。
 六條通十四丁目：上川第二尋常小學校：校長：那須正夫氏。
 六條通九丁目、上川高等小學校：校長：石井勘吾氏。
 同年四月一日町制施行と共に近文の一部を旭川町に割取せられ同時に近文第五尋常小學校を改稱して。

近文二線一號：上川第三尋常小學校：校長：中川彌惣治氏。

爾來旭川町の發達と共に教育の程度益々昂進し到底普通教育のみを以て甘んずべきにあらざるより自然の結果として中學設立の機運に至れり而して三十八年七月三十一日現在の各尋常高等小學校兒童男女數左の如し。

- 上川第一尋常小學校 〔男三九五〕計七六四
〔女三六九〕
- 上川第二尋常小學校 〔男四〇五〕計八二〇
〔女四一五〕
- 上川第三尋常小學校 〔男二二五〕計四三〇
〔女二〇五〕
- 上川高等小學校 〔男四九二〕計七五〇
〔女二五八〕



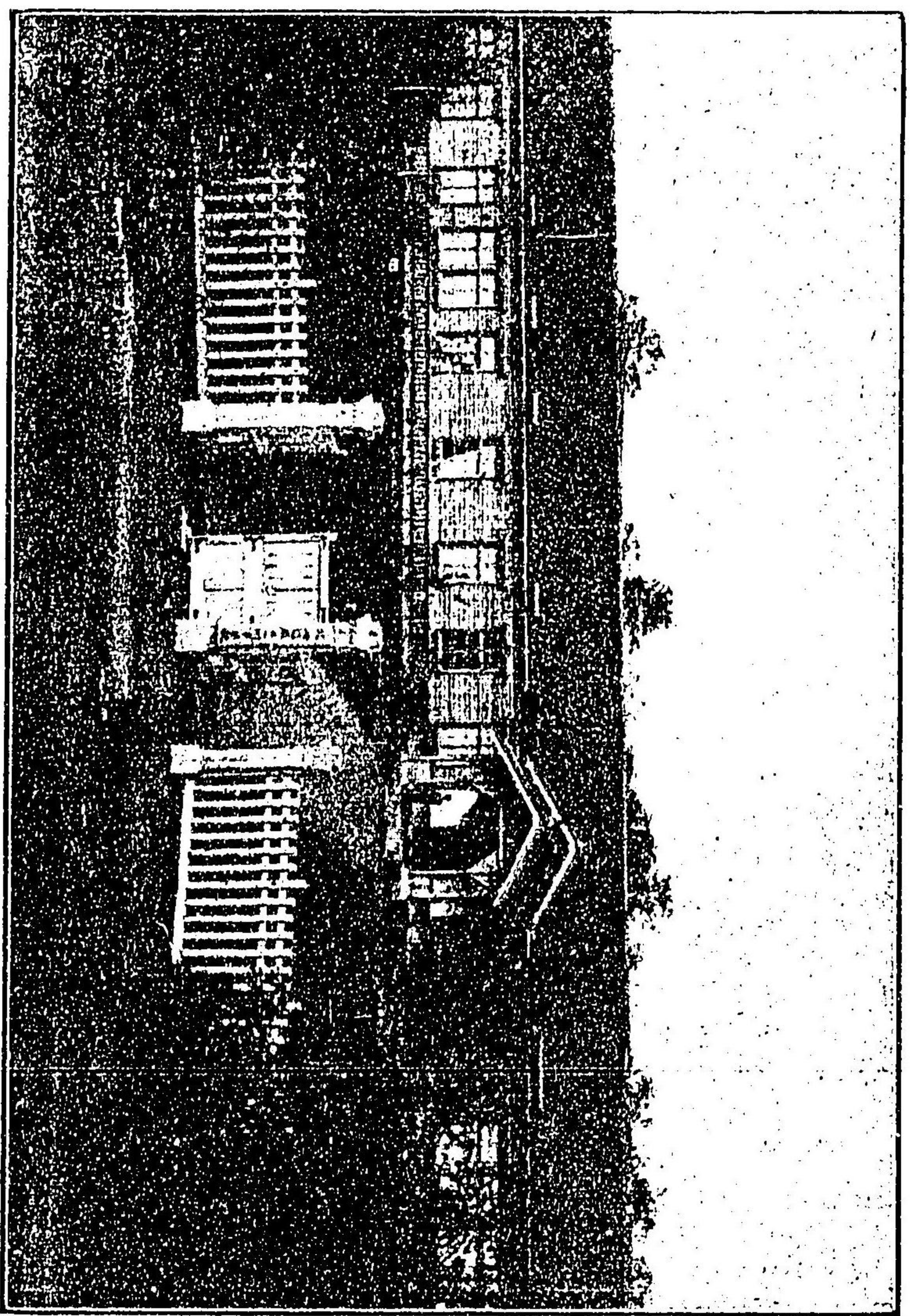
旭川第一尋常小學校

六條通五丁目：上川第一尋常小學校：校長：大谷運八氏。
 六條通十四丁目：上川第二尋常小學校：校長：那須正夫氏。
 六條通九丁目、上川高等小學校：校長：石井勘吾氏。
 同年四月一日町制施行と共に近文の一部を旭川町に割取せられ同時に近文第五尋常小學校を改稱して。

近文二線一號：上川第三尋常小學校：校長：中川彌惣治氏。

爾來旭川町の發達と共に教育の程度益々昂進し到底普通教育のみを以て甘んずべきにあらざるより自然の結果として中學設立の機運に至れり而して三十八年七月三十一日現在の各尋常高等小學校児童男女數左の如し。

- 上川第一尋常小學校 男三九五 計七六四
女三六九
- 上川第二尋常小學校 男四〇五 計八一〇
女四一五
- 上川第三尋常小學校 男三二五 計四三〇
女三〇五
- 上川高等小學校 男四九二 計七五〇
女二五八



上川中學校

合計〔男一、五一七〕〔女一、二四七〕總計二、七六四

私立北嶺尋常高等小學校は第七師團敷地内(旭川町近文)にあり明治三十四年二月の創立にして第七師團軍人軍属の子弟教育を目的とし旭川借行社の私立せしものにて他地方人の入學を許さざる趣きなり現校長としては松岡四方一氏其任に當り専心誠意能く校務を處理し益々發達の形勢なり而して目下の就學児童數は

男 八〇 女 八七 計 一六七

中等教育

◎普通教育發展の結果として中等教育の必要を認むるは社會一般の人情なり茲に於て有志奔走道會の決議を経て三十六年五月中學校開設の運びに至れり。
校舎は一時六條通十三丁目上川農會事務所を借用し同時に六條通十一丁目農事試験場内に新築同九月落成開校せり當時校長小林滿三郎氏教員四名事務員一名にて一年生百名を限り募集せり爾後戸口の増殖及び教育發達の結果として現在職員生徒の數斯く多きに至れり。

職員、校長小林滿三郎氏外十二名事務員二名
 生徒、第一學年、九十八名、第二學年、七十七名、第三學年、六十三名
 總計二百三十八名

●私立學校

私立旭川裁縫專門學校

本校は女子として欠くべからざる技藝の裁縫を教授し併せて女子の節操を保育するの目的を以て本邦固有の修身及家庭學の一端と其他一二の學科を教授し將來一家の内政を司り良妻賢母として世に懋色なきものを養成せんと欲する趣旨より創立せしものなり。

●場所 旭川町四條通十二丁目

●創立 明治三十一年十一月

●創立者 澤井兵次郎氏

本校は創立以來殆んど收支相償はず時に或は有志の贊助を仰ぎたることなきにあらざりしも校主の熱心なる自から私財を抛ち辛苦經營せし結果今日の盛況を觀るに至

りしなり創立の當時は名譽校長外裁縫教授二生徒五なりしが現在は校主兼校長(澤井兵次郎氏目下出征不在)外職員三名の多きに至り殊に毎日午後二時より中學校職員中篤志者四名にて修身、家庭、唱歌、算術の四科を各一時づゝ教授することゝなれり裁縫科は和服専門にて如何なる上等品に至るも差支なく裁縫し得る程度まで教授す月謝は一年生、五十錢、二年生、六十錢、三年生、七十錢なりと云ふ現在生徒數百二十名。

私立上川實業學校

本校は中等教育及び商業農業に關する學術を授け主として實用に適する人物を養成する目的を以て創立せしものなり。

●場所 宮下通十四丁目

●創立 明治三十八年四月

●創立者 藤本本藏氏

本校學科の程度は中學校と殆んど均一にて只だ其目的を異にせるものなれば中等教育より以上の學科を修むる望みなく直ちに實業に向つて其の會得せし學力を應用せ

んと欲するには却つて簡便の學校なり然れども創立日淺く未だ盛況を觀るに至らずして憾みとする所なるも今後實業發達と共に生産的の事業に注目するもの多きに至らば其隆盛を來すや必然ならん而して本校修業年は幾きに三ヶ年なりしを今回改めて豫科一年を加へ四ヶ年卒業とせり現在職員生徒數左の如し。

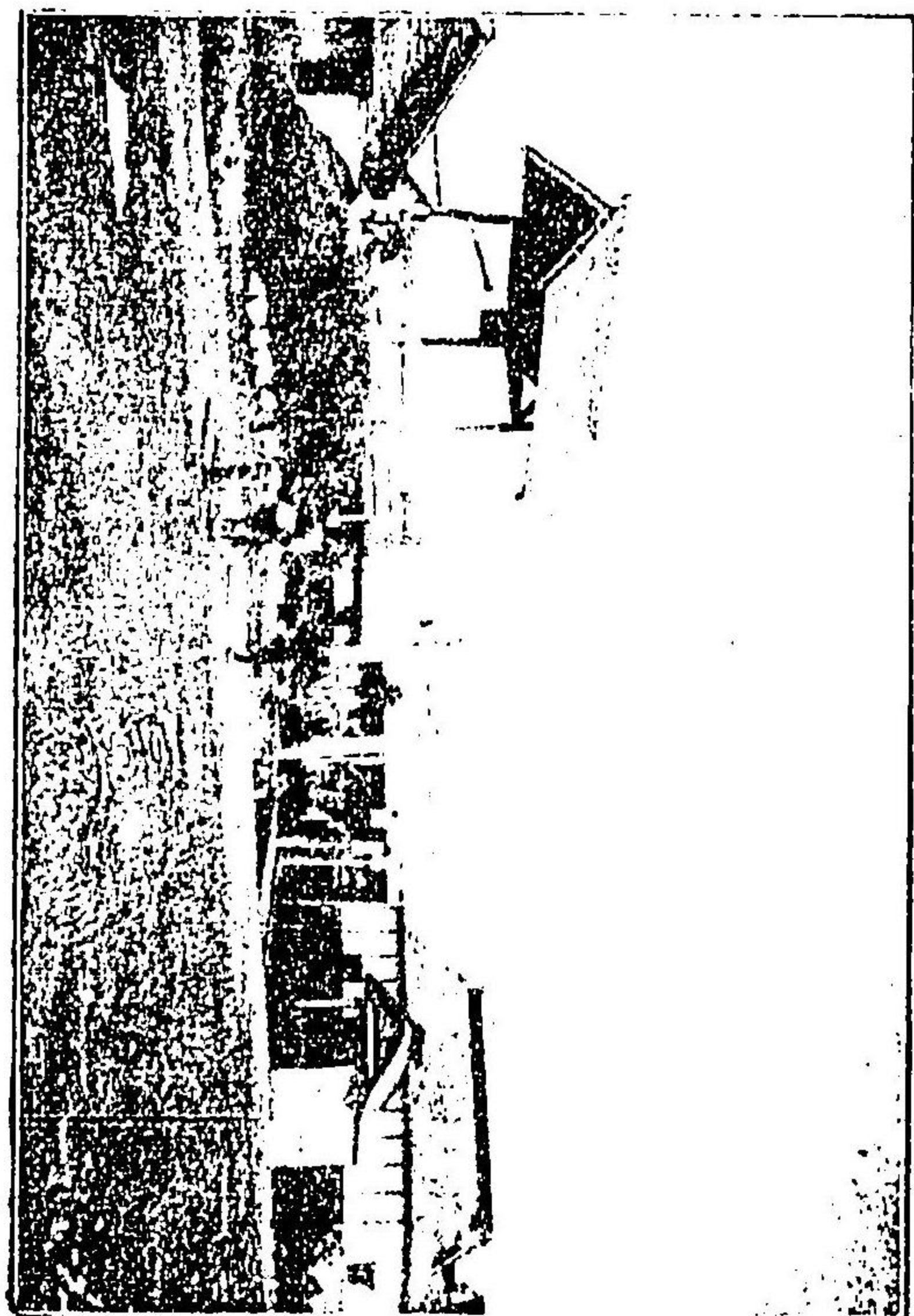
坂東幸太郎氏、小唄大慈氏、北條秀太郎氏、松家陰次郎氏、高橋吉松氏。
生徒數、三十名。

附記す月謝は一人金一圓五十錢の規定なるも在學生少數なるを以て收支相償ふに至らず爲めに職員中篤志的教授の任に當るものありと聞けり。

神社

●上川神社は郷社にして宮下通二十丁目の先きあり始め五條通八丁目奉祀せられしが明治三十六年現在地に移祀し目下縣社に申請中との説あり該所は平坦なる低地にて神社敷地としては不適の憾なきを得ず。

●三吉神社は五條通十一丁目あり



寺 殿 誠 寺

んと欲するには却つて簡便の學校なり然れども創立日淺く未だ盛況を觀るに至らずして憾みとする所なるも今後實業發達と共に生産的の事業に注目するもの多きに至れば其隆盛を來すや必然ならん而して本校修業年は曩きに三ヶ年なりしを今回改めて豫科一年を加へ四ヶ年卒業とせり現在職員生徒數左の如し。

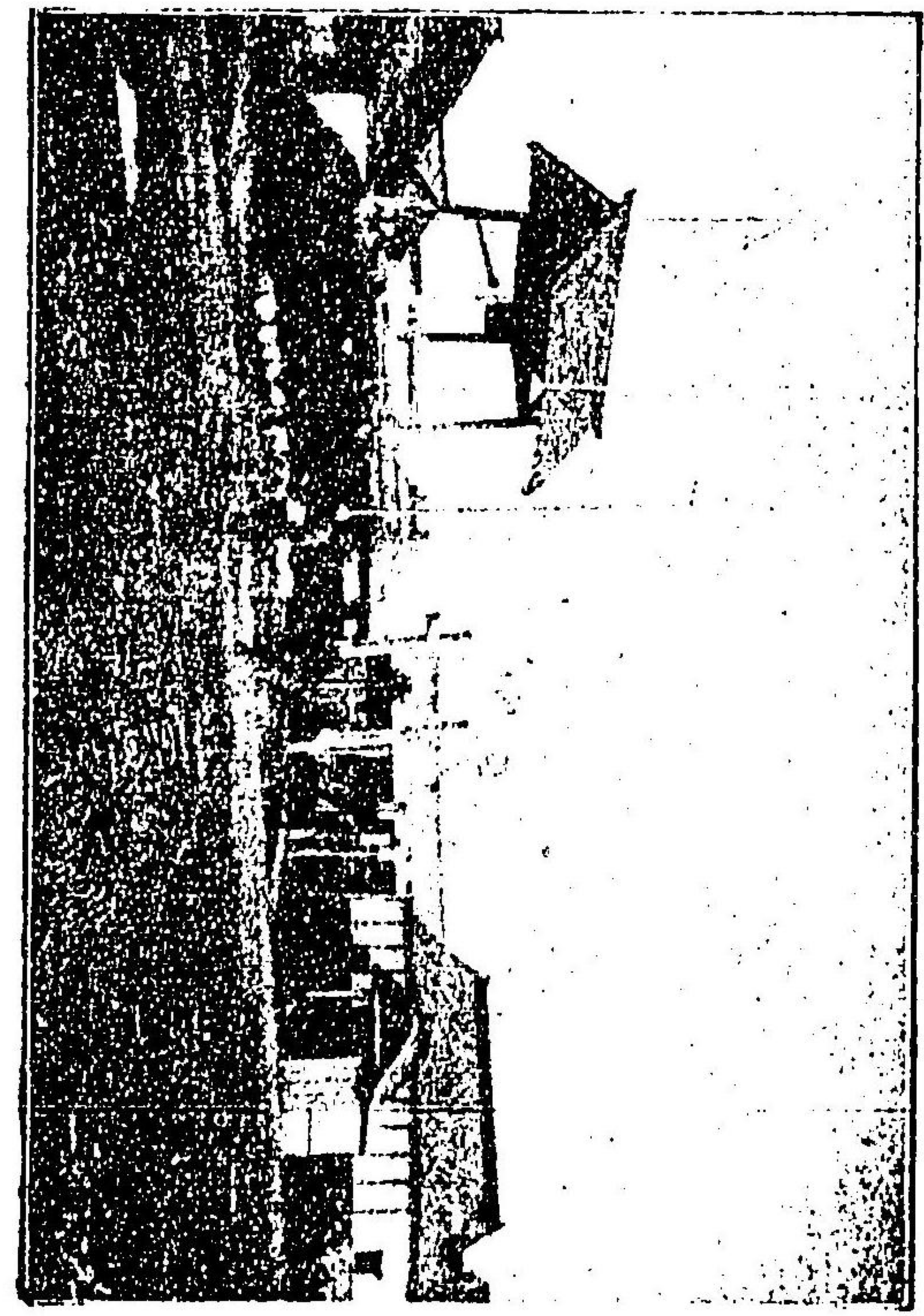
坂東幸太郎氏、小唄大慧氏、北條秀太郎氏、松家陰次郎氏、高橋吉松氏。

生徒數、三十名。
附記す月謝は一人金一圓五十錢の規定なるも在學生少數なるを以て收支相償ふに至らず爲めに職員中篤志的教授の任に當るものありと聞けり。

神社

●上川神社は郷社にして宮下通二十丁目の先きであり始め五條通八丁目に奉祀せられしが明治三十六年現在地に移祀し目下照社に申請中との説あり該所は平坦なる低地にて神社敷地としては不適の憾なきを得ず。

●三吉神社は五條通十一丁目あり



寺 誠 慶

宗 教

宗教は教育に亞きて社會の秩序を維持する點と道德心を啓發誘修せしむる上に於て欠くべからざる機關なるも旭川地方は開發日尙を淺く未だ確然たる寺院の建立を觀ると少なし然れども北越地方信仰心の深き人々多きを以て日に増し月に進み布教の盛況を呈するに至れり而して現在寺院說教所十四ヶ所の中主なるものを擧ぐれば左の如し。

一、眞宗大谷派本願寺旭川支院

●同院は宮下通二丁目にあり曩に本願寺視る所あり今の新廓附近に一庵を假設し二十六年本町三丁目轉じ二十七年今の敷地を出願し二十八年本堂庫裡を建築したり然るに三十五年二月祝融の災に罹り同六月別院建立の目的を以て起工し三十六年に至り落成せり當時の住寺明了武大るに經營の任を努めたり現住寺根木教轍氏は三十八年輪番として來院爾來布教熱心能く人を教化遷善するの故を以て今や檀家四百五十餘戸說教日の如き聽衆の多き實に數百人に至るを常とせり。

一、本願寺派慶誠寺

◎慶誠寺は五條通六丁目にあり明治三十三年八月寺號公稱今や檀家七百餘旭川第一位の寺院なり住職石田慶雲氏は二十八年創立以來今日に至るまで十年一日の如く熱心誠意を以て布教濟度の任に當り況く衆生をして餘慶の地に安んぜしむるを得せしむ加之ならず同氏は日露の開戦以來軍人諸士の辛苦を感奮せんとするの目的より寺院内に軍人娛樂室なるものを設立し既に其の筋の許可を得本年九月第二日曜日より軍人は隨意に來會するを得るに至れり室内には有志の寄贈に係はる各府縣新聞雜誌と器具獎券等を備置し且つ書狀用として巻紙封筒等は毎時寄附するの便宜を與へ居れり尙ほ日曜日は特に小使を雇ひ茶番を爲さしめ以て軍人を慰むる程にて其の親切周到なる感服の外なきなり。

因に記す娛樂室は間口六間奥口四間の建物にて二間半に六間の疊敷間と九尺に六

間の板間とあり板間には數個の卓子を置き靴の儘新聞雜誌等を見るの便あり室内精潔空氣の疏通宜く軍人諸士の娛樂場として尤も適當のク所なり。

一、身延山妙法寺

◎身延山別院は明治三十三年七條通十九丁目に創立せられしも其以前五條通七丁目寺院敷地許可せられ一ツの説教所を建設し信徒講社員合五百餘に至りしが端なくも信徒二派に岐れ一時衰頽の傾向を來せしが本山にて覺る所あり明治三十六年十月現住職小山田宣慶氏を來任せしめ大に布教濟度に努めしめたるより自然舊信徒の歸服するもの多く遂に三十七年五月癸酉に分離せし法花寺と合併し現在地(中嶋)に改築せり。

同三十八年二月十七日寺號公稱許可せられ爾來一層信仰者多く目下信徒檀家併せて五百餘名に至れり之れ畢竟するに現住職小山田氏が着任以來誠意熱心なる布教に拮据經營の難局に當りたる結果にして今後も氏の徳道普及の如何は直ちに當院の盛衰に關するや知るべきなり。

◎此他四條通五丁目曹洞宗大休寺あり。

◎五條通三丁目淨土宗善光寺あり。

◎外に説教所九ヶ所あり。

一、基督教

- 當町には基督教會堂四あり。
- 三條通十三丁目に日本聖公會旭川教會あり。
- 二條通十一丁目に日本基督教會旭川教會あり。
- 二條通十丁目に組合教會あり。
- 二條通五丁目に美似教會あり。

衛生

一、病院、醫院

旭川町には私立病院二、開業醫院八あり就中目下手術家とし名聲あるもの二三を擧ぐれば左の如し。

● 博愛堂竹村病院 (四條通十二丁目にあり) 旭川に於ける竹村病院の名は七歳の童兒も尙は能く知る處にして院長醫學士竹村銚次郎氏亦に内外科共快腕の聞は高く遠近擧げて嘆稱する處なり氏は東京大學の出身にして夙に志を決し本道に來り、明治三十二年二月初めて當町一條通五丁目に開業し漸次隆盛に伴ひ病室等の狹隘を

來したるを以て三十四年十月目下の處に新築移轉せり爾後人口の増殖と共に一段の盛況を加へ内外手術の繁忙なる爲め左の人員を置き以て患者の便益を企圖し居れり
△ 副院長醫學得業士姉齒正雄氏其他醫員一、事務員三名、看護婦六名、藥劑師一名調劑生三名

院長又見る處あり明治三十五年北海道看護婦生養成所を開設し本年まで二回の卒業生を出し既に二十五人に及び大なるに斯業界を補助するの價ありと云ふ。

● 上川病院 (二條通八丁目にあり) 旭川町に於ける病院、醫院中來患者の多くして常に門前人車の絶間なきを上川病院とす之れ畢竟するに院長岡本一之助氏の斯業に經驗ありて技術の巧妙なるに由來するや大なるべきも職員一同患者に對し懇切なるを來診の迅速なるを以て病家の満足する處なり。

● 旭川醫院 (一條通九丁目にあり) 開業以來當町の嚆望を博したるものを旭川醫院とす院長星野安之助氏外科眼科の術に長じ殊に仁慈を旨とし藥價の有無に關せず患者の治療に應ずるを以て名聲噴々今日ある所以なり。

● 恢明堂醫院 (四條通九丁目にあり) 本院は眼科専門にして明治三十六年初め

て三條通九丁目に開業し本年九月現在地に移轉せり院長醫學士寺本義一氏眼科醫として旭川の大斗たるべく手術の迅速なる治療の効顯著なる一度氏の手術を受くれば明を得ざるなく真に恢明堂の名ある豈に偶然ならざるなり。

●二宮齒科院 (二條通九丁目)旭川中齒科醫を以て錚々の聞にあるものを二宮齒科院とす院長二宮義明氏東京齒科學院を卒業し明治三十三年現在地に開業爾來氏が獨特の妙技と他人が望むべくして爲し能ざるの手腕を奮ひ患者に接する温顔自若毫も尊大の風なく常に患者の悦服なる處なり且つ氏は多年斯道の研究に傾注し今や學理と實地の蘊奥を極め荷も齒牙に關するあれば皆以て氏の診斷を需め迅速無痛の稱あるや久し故に旭川齒科醫中氏を措へて他に指を屈するものなきは一般に是認する處なり。

此の他

●齊藤醫院 一條通十二丁目にあり院長は齊藤政八氏なり。

●阿部醫院 三條通十丁目にあり院長阿部兼次郎氏なり。

●永海齒科醫院 五條通八丁目にあり院長は永海兼次郎氏なり。

●吉田醫院 五條通八丁目にあり。

●近文醫院 近文一線一號にあり。

一、産婆

●旭川町の産婆九名あり其住所姓左の如し

住 所	姓	住 所	姓
一條通十一丁目左八號	西 谷	四條通八丁目左四號	島 津
一條通十二丁目左一號	織 田	近文一線一號	横 田
二條通六丁目左一號	藤 田	同二線一號	志 郎
三條通九丁目右五號	海 谷	同四線一號	後 藤
三條通十一丁目右七號	小山田		

●旭川愛生舎 は一條通八丁目にあり舎主は戸坂龜之助氏にして胞衣穢物受負を目的とし創業せしものなり。

一、衛生組合

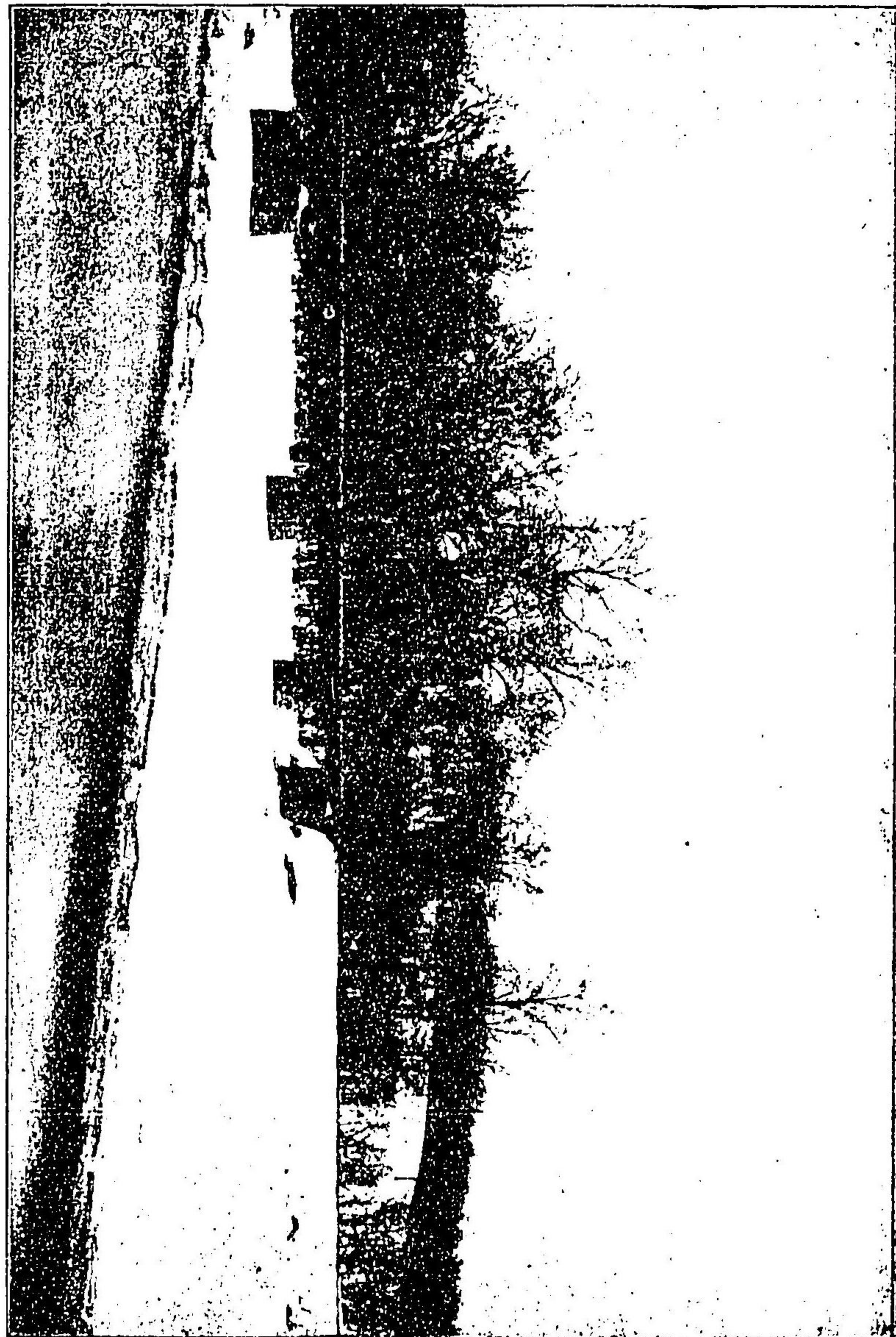
●旭川町には衛生組合十組を設け一組合に組長一名を選び組長の下に各丁に伍長一

名づゝを置き衛生事務の軌掌に缺點なきを期せり春秋二季の清潔法を勵行するは勿論夏季に於ても各請持區内の消毒清潔等に注意し傳染病の襲來を豫防するに至りしは當局者の注意と人知の進歩とに因るなるべきも大いに喜ぶべき現象なり。

獸醫蹄鐵

旭川町に獸醫兼蹄鐵四、單紳なる蹄鐵四あり、其場所氏名左表の如し

場所	名稱	氏名
一條通二丁目	獸醫蹄鐵	木村友之助
二條通十一丁目	同上	澤井兵次郎
二條通十八丁目	同上	篠田繁太郎
二條通十九丁目	同上	森谷友一郎
二條通八丁目	蹄鐵	榎莊次郎
二條通十八丁目	同上	榎金太郎
近文	同上	藤田源藏
近文一線一號	同上	坂上文作

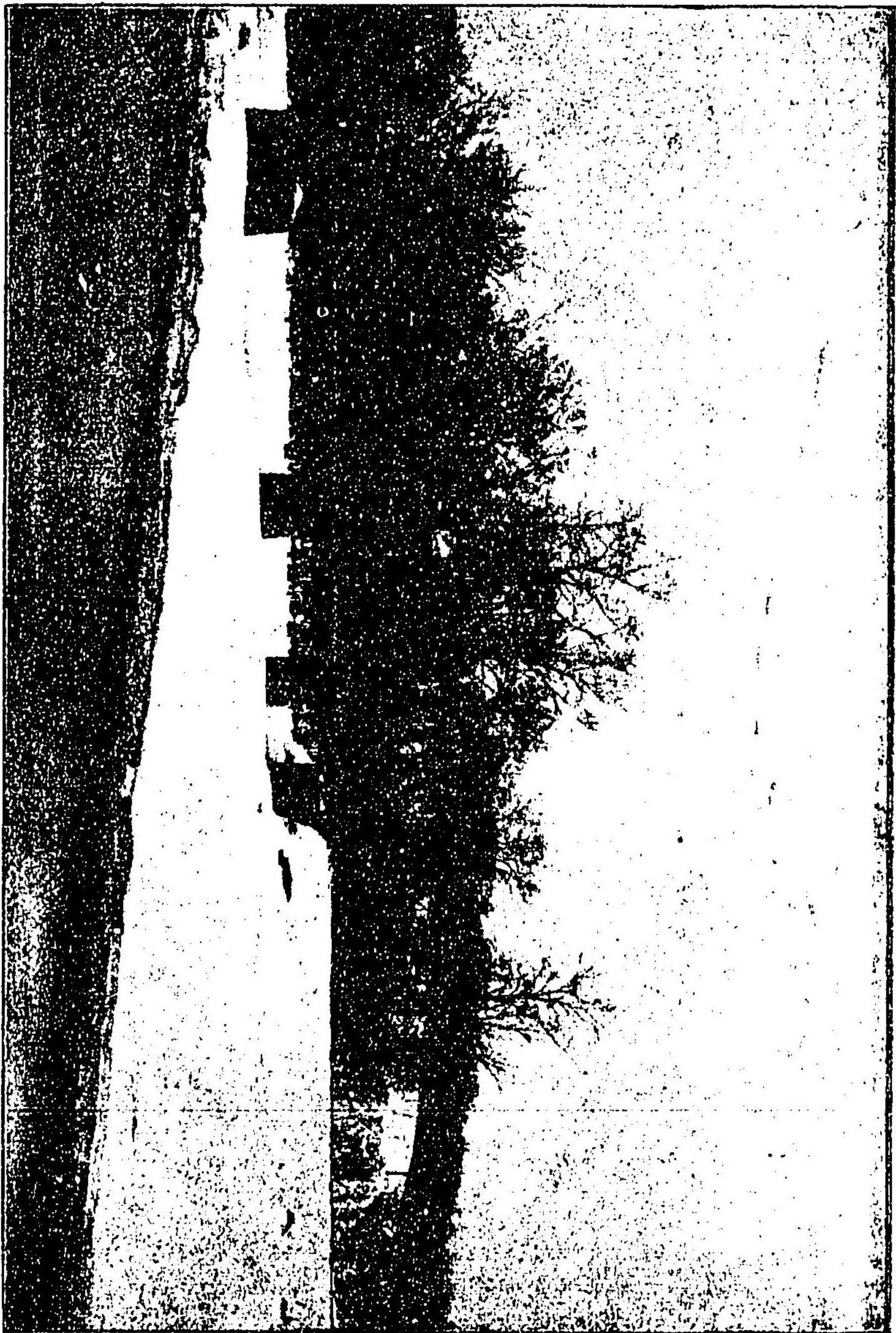


名づゝを置き衛生事務の軌業に缺點なきを期せり春秋二季の清潔法を勵行するは勿論夏季に於ても各請持區内の消毒清潔等に注意し傳染病の襲來を豫防するに至りしは常局者の注意と人知の進歩とに因るなるべきも大いに喜ぶべき現象なり。

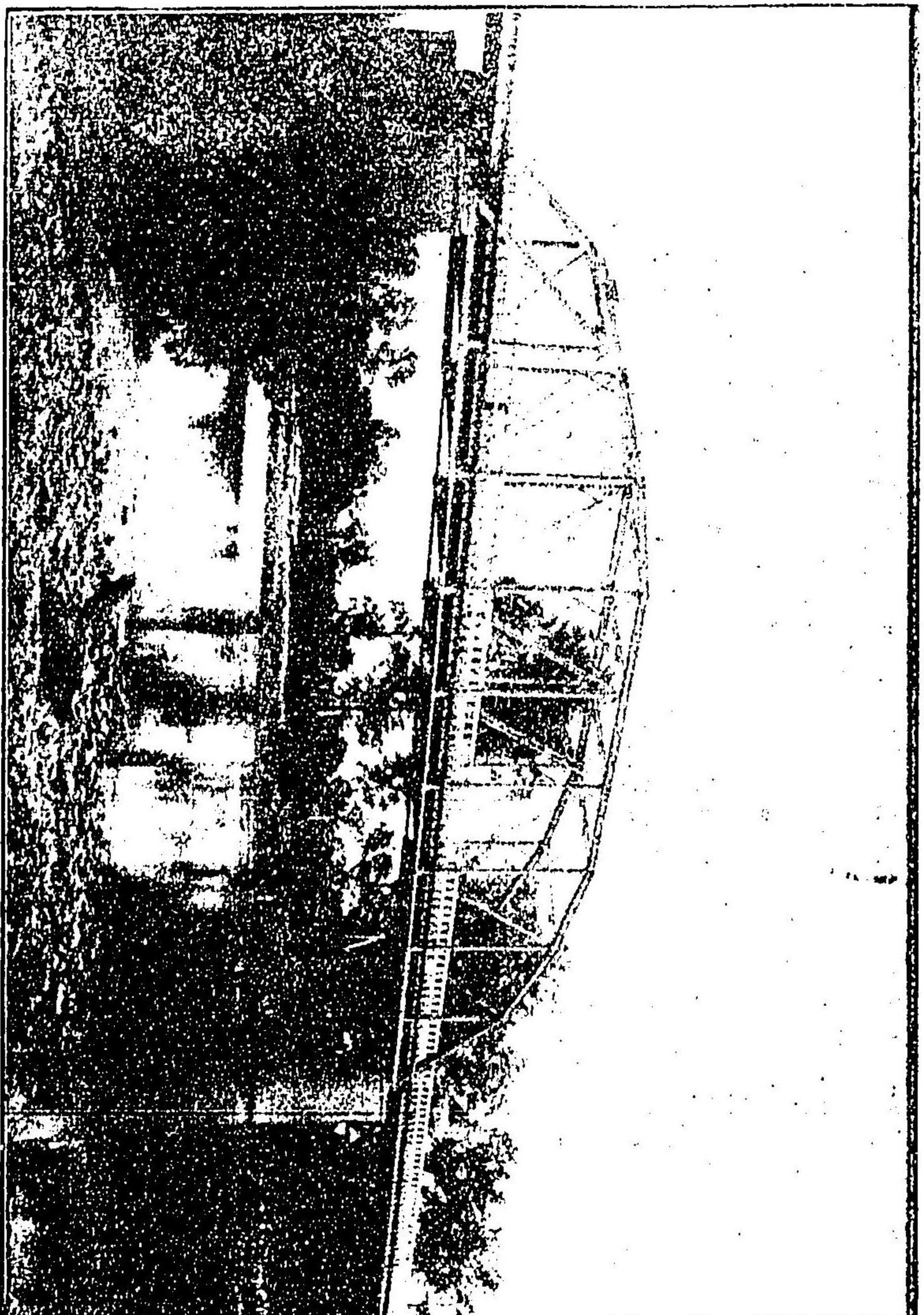
獸醫蹄鐵

旭川町に獸醫兼蹄鐵四、單純なる蹄鐵四あり、其場所氏名左表の如し

場所	名稱	氏名
一條通二丁目	獸醫蹄鐵	木村友之助
二條通十一丁目	同	澤井兵次郎
二條通十八丁目	同	篠田繁太郎
二條通十九丁目	同	森谷友一郎
二條通八丁目	蹄鐵	榎莊次郎
二條通十八丁目	同	榎金太郎
近文	同	藤田源藏
近文一線一號	同	坂上文作



三 田 文 源 藏



旭橋ノ景

勝地名所

一、旭ヶ岡

◎旭ヶ岡は御離宮御豫定地にして旭川町を距る里許初神樂岡と稱す高さ百尺餘南に美瑛川北に忠別川あり指顧の間石狩嶽呼べば直に應へんとす仰へでは其麗を賞すべく俯しては其清を擲すべし、一度此地に足を投ぜんか巨木翁鬱として晝尙昏闇く靈氣人を襲ひ神氣爽然自から仙客たるの觀あり東風嫋々として花笑ひ鳥嘯り妖艶たる春光人を迎ひ漫に外遊を思はしむるの頃雲霞縹緲の間櫻花爛熳として雲耶山耶將た雪耶の懷おらしむ花落ち鶯老いて綠蔭杜鵑の聲を聞き鶯聲、躑躅の間に逍遙するも亦桃李の人の狂を嚇するに似ざる所却つて情あり金風廓々樹梢を搖かし朝夕冷を覺ふるの季に至らんか滿山一時に綾羅を着くるに似て燦爛真に眼を奪ふばかり落葉の瓢々翻々たる紅蝶の舞ふが如く潺湲たる碧流と掩映し恰も錦屏繡障を列ねたるに異ならず丘上に吾妻小屋あり曾て貴顯の此山に登りし時小憩せし處なり眼を轉ずれば第七師團の兵營近文山下に儼然として城廓をなし旭川町は一瞥眼下にありて炊煙

熾んなる推して市街の繁盛を認むるに足るべし。

一、旭橋

◎旭橋は常盤通りより中嶋を経て(近文)第七師團に往復する唯一の通路にして旭川町を貫流せる石狩川に架設せし鐵橋なり明治三十五年起工に着手し三十七年に至り落成、經費十七万圓餘を要したる大鐵橋なり此處たるや紅塵万丈の裡に住むもの夢想だも及ばざる山水明媚の地なるに而かも旭川町中繁盛の間ある中島の目前に此の風光を有する勝地あるは實に天然固有の奇觀にして旭川町をして長くないに隆々たるしむる所以なり秋深く烟澄み天清く氣爽かに日光紅葉と相映射して璀璨目を奪ふの頃旭橋畔に立て四方の光景を眺望せんか北海の雄鎮たる「ヌタツプカンウシベ」嶽は巍峨として東方に屹立し四時皓々宛然旭川の天地を警護するに似たり南方は廻かに旭ヶ岡の錦織絞羅を眺め西方は一帶の連山丹楓更に紅を加へて金鳥を送り夜色凄然たらんとするの時脚下に不夜城を窺るべく北方近文山下に瓦甍を聳ね廣潤壯嚴天然の美を存する第七師團の兵營は一望して靚るを得べし市街の過半は瞬時の間直ちに事を處するに難からず水光混深天と一碧たる石狩川の流或時は白馬の躍るが如

く或時は柳絮の舞ふが如く潺々石に耳語き草に語るの状殆んど身あるを忘れ恍として低徊願望歸路に就くを思はざるものあり。

一、階樂園

階樂園は八條通九丁目にあり園主は田中富三郎氏にして明治三十五年八月の創業なり同園は周圍二町歩餘園中の千樹芳草は冬を除くの外妖艶爛熳たるを觀るべく中央には天然の妙に人工を加へたる築山あり其一小丘に樺太古領紀念碑建設地と記したる標木あり將來竣成の後幾多の風流墨客參集するかを偲ばれぬ其眼下に周圍反餘の池ありて鯉魚の類を放ち游泳澗淵自から入をして仙境に入るの思ひあらしむ閑散無聊の士一度杖を曳くも亦た快なるべし。

一、半日園

半日園は一條通曙町番外地にあり園主は佐見鐵太郎氏にして明治三十六年の開園なり園中種々の珍草盆栽なきにあらざるも栽培未だ日淺くして半日園の名稱に肯んずる能はざるを憾む然れども園主の一室中(勵志而守常)の額面あるを觀る若し園主にして果して此語に背かざるの素志ならん歟將來有名なる一園となるや疑なかるべし

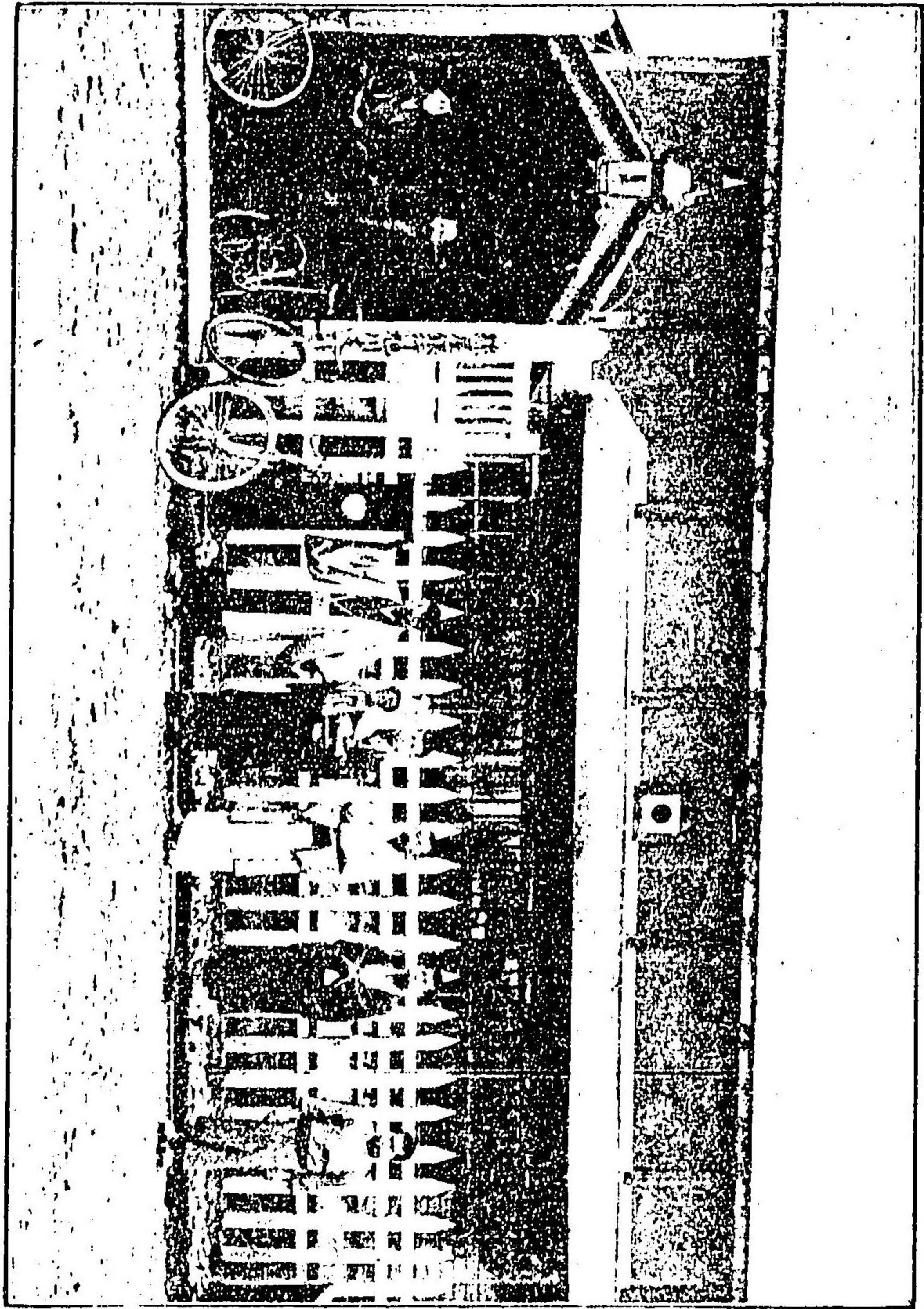
一、翠香園

翠香園は曙通右三十六號鐵道線路に沿へ一條の小流を以て東南を圍み水聲潺湲低く耳語き綠蔭蒼滑かにして微涼袖を襲ひ頗に煩熱を忘する、思へあり園中千樹芳草の珍奇なる筆者の形容し能はざるもの多し就中「ニンフイヤ」(日本語にて亞米利加水レン)「パンシイ」(遊蝶花)「アスタア」(イッ菊)等の種類數多く他園にて見る能はざる品なり當園にて尤も世人の知る處の草花は菖蒲、芍藥(ベチニー)(牡丹)の各種なり園主は池田菊治氏にして斯業家中尤も熱心にて能く英語を解し外國草花の蒐集に傾注する蓋氏の右に出づる者なかるべし此他盆栽數百種ありて常之れが栽培に怠りなきを以て綠濃き常盤木唐紅の紅葉など尙ほ一汐の光景を添に風流人士をして自から杖を曳かしむるに至る。

銀行

一、糸屋銀行

◎糸屋銀行旭川支店は二條通七丁目右六號にあり明治三十四年九月の創立にてし資



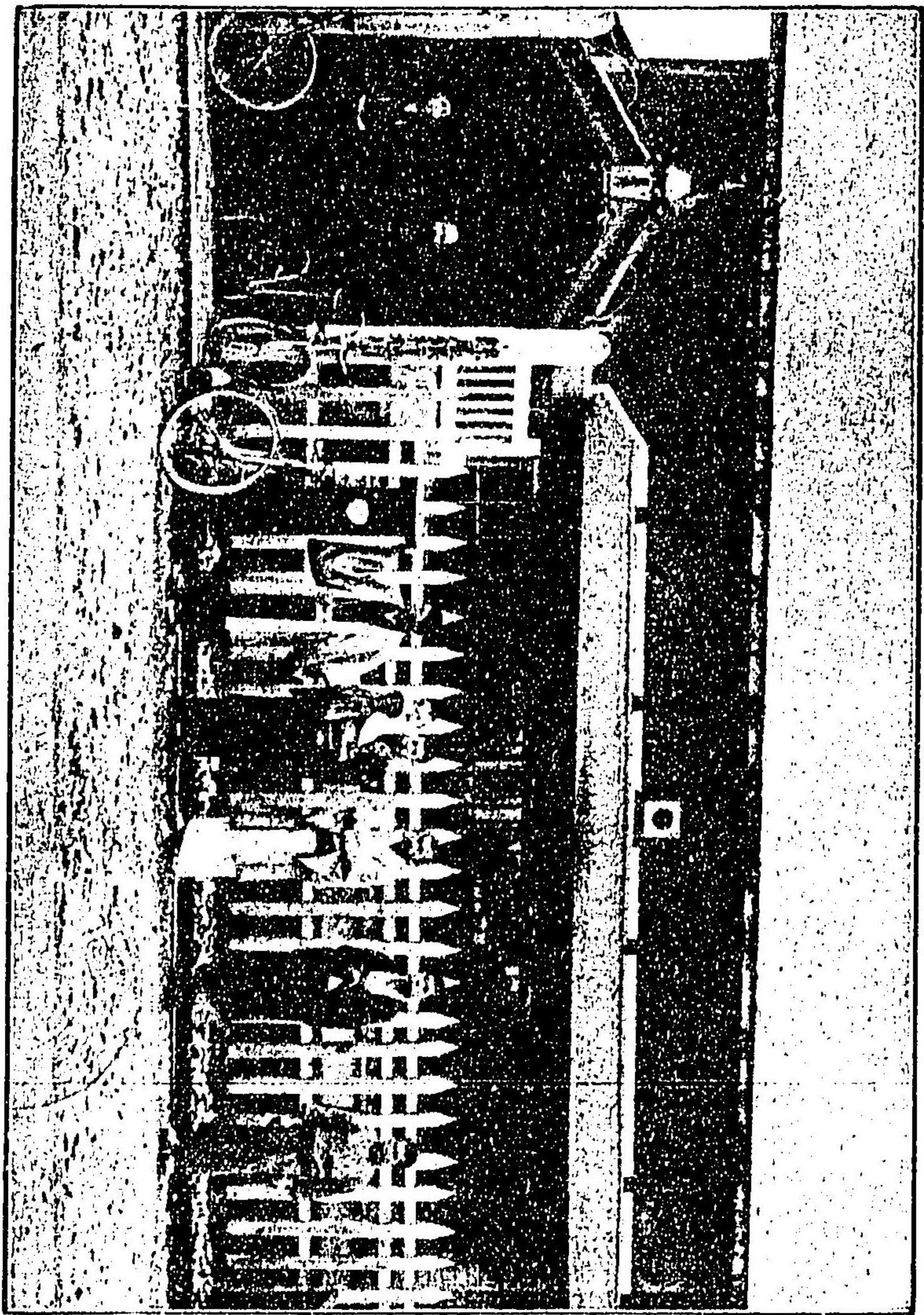
一、翠香園

翠香園は曙通右三十六號鐵道線路に沿へ一條の小流を以て東南を圍み水聲潺湲低く耳語き綠蔭蒼滑かにして微涼袖を襲ひ頼に煩熱を忘する一思へあり園中千樹万草の珍奇なる筆者の形容し能はざるもの多し就中「ニンライヤ」(日本語にて亞米利加水レン)「パンジイ」(遊蝶花)「アスタア」(イフ菊)等の種類數多く他園にて見る能はざる品なり當園にて尤も世人の知る處の草花は菖蒲、芍藥(ヘチニ) (牡丹)の各種なり園主は池田菊治氏にして斯業家中尤も熱心にて能く英語を解し外國草花の蒐集に傾注する蓋氏の右に出づる者なかるべし此他盆栽數百種ありて常に之れが栽培に怠りなきを以て綠濃き常盤木唐紅の紅葉なき尚ほ一沙の光景を添へ風流人士をして自から杖を曳かしむるに至る。

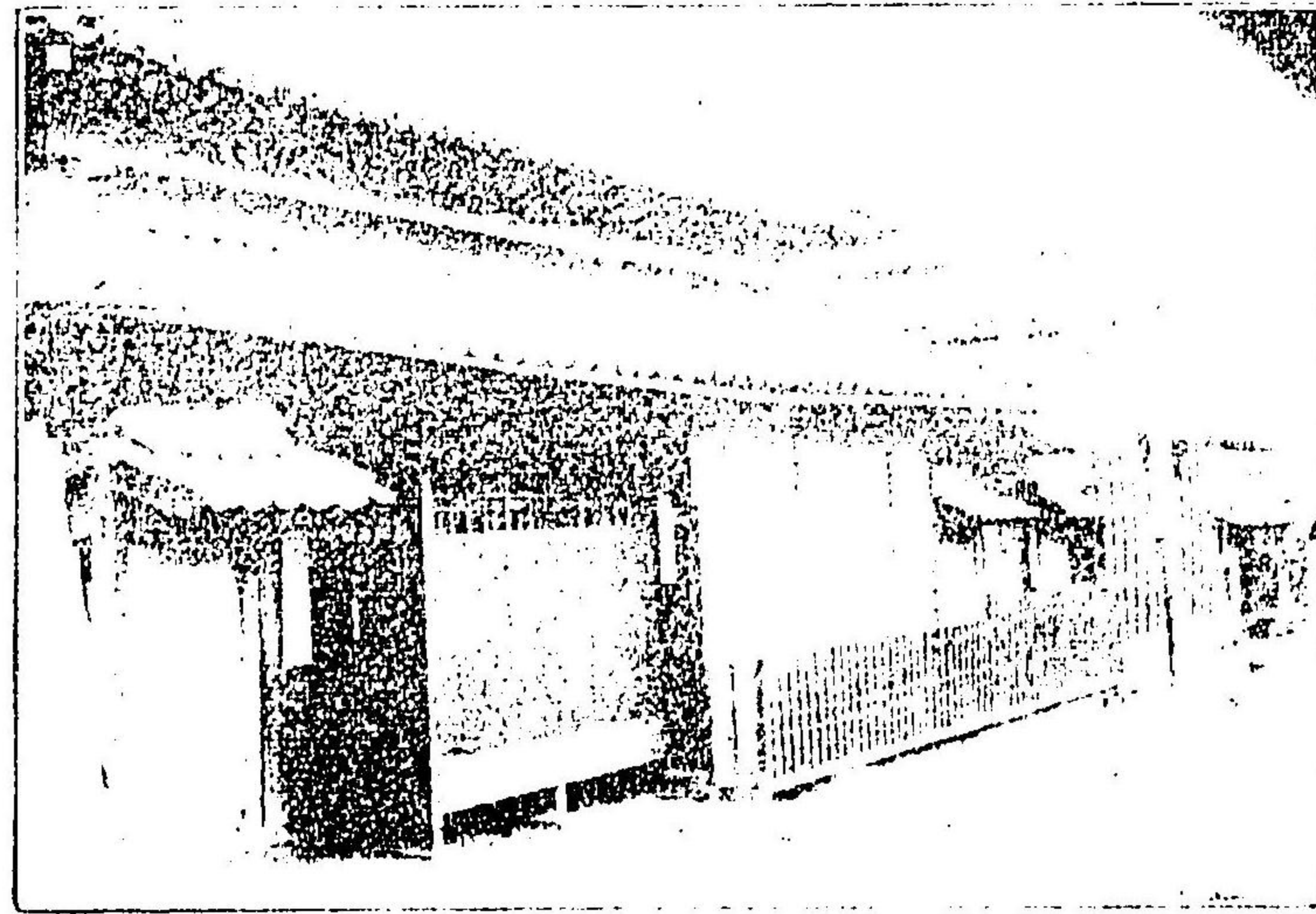
銀行

一、糸屋銀行

◎糸屋銀行旭川支店は二條通七丁目右六號にあり明治三十四年九月の創立にて資



糸屋銀行旭川支店



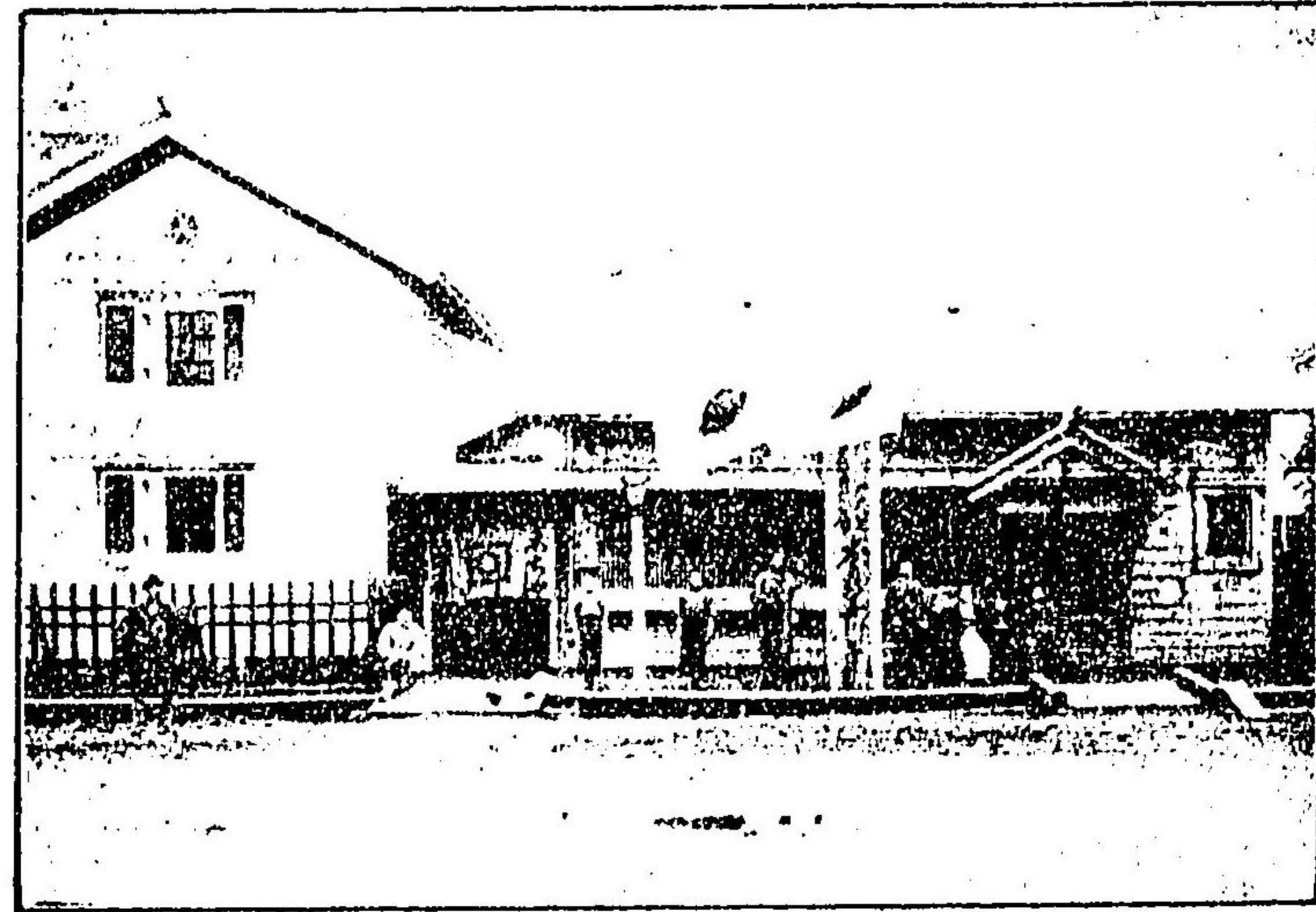
店本行銀屋絲



園庭店本行銀屋絲

一、質屋

○旭川町に質屋の數多しと雖も名實兼備はり鐙々の間にある者は角丸質屋（藤田良太郎氏）なり同店は市の中央三條通九丁目右二號に亘大なる家屋と倉庫とを有し尤も誠實低利を旨とし顧客の便利に資せんとするものなり店主年尚壯なるに既に處世の全般に通じ自から樂天主義を以て任じ唯之營利に汲々たるの姑息の野心を破却し常に磊落軒昂往々同業者を矚若せしむることあり氏は本年一月以來旅順陥落紀念として六ヶ月間無利子貸出しを爲し且つ五圓以上永久二分五厘の低利となす等營業懸引の手段と言はんより寧ろ仁愛主義と賞するを適當とす



藤田質店

本五万圓誠實低利最も信用ある銀行なり本店は兵庫縣丹波國氷上郡黒井村にあり
行主山本菊藏氏深遠大度言行端正能く社會の趨勢を洞見し遂に今日の榮譽を擔ふに
至る常旭川支店……支配人は山本又彌氏なり氏は胸襟洒落剛健にして中振くべから
ざるの至誠と奪ふべからざるの熱情を有し人に接するや温顔事理整然快刀亂麻の腕
あり故に本行創業以來滿四年の今日に於て優に上川金融界を操縱するの勢あり而し
て現在行員並に最近營業概況を示せば左の如し
・ 支配人、山本又彌氏、書記長、井上近藏氏、書記、木下國松氏、同門野喜衛門氏
・ 中島節藏氏、米道彌太郎氏、同、佐原龜太郎氏、同、荒木太五郎氏なり。
日露の開戦以來金融界は一般沈靜にして國民の凡てが軍國に、資する觀念の外総て
消極保守的なりしと雖も當支店は第七師團の所在地なるを以て彼の動員令發布より
多數軍人の群集せし爲め反つて商況に活氣を放ち諸種の方面より需用新に起るに伴
ひ従つて其餘澤を蒙むるを得たり次に深川出張所は客歲末迄金融機關なかりしため
資金の運轉上不甚不便を感じつゝありし地方人士は恰も盲龜の浮木を得たるが如く
不動産に或は農産に資金供給の申込熾んなりしを以て可及的是れが要求に應じ業務

の發展を圖るを主旨とせり然るに當地方の唯一財産として依頼する農産物に於て昨年は餘り豐作ならざりしに加へ石狩川流域一帶の地は大半浸水し其狀況頗る慘憺たるものありしを以て三月中旬に至ては農産物に對する貸出し減少し遂に絶無の狀体を來したり然るに新聞經營に汲々たる農家は經濟の不足を來すと同時に一方播種の期に到來せしを以て國庫債券の擔保貸出遂次増大し比較的好成績を得たり而して本年上半季に於ける貸金預金の比較及利歩左の如し

店名	前期末		本期末		利歩	最高	最低
	金額	利息	金額	利息			
旭川支店	預金 二八、三六、一五	年七步五厘	預金 一六、四五、二五	年七步五厘	七步	七步	七步
旭川支店	預金 七、一六、五五	日步二錢八厘	預金 一六、七四、七五	日步四錢八厘	日步一錢五厘	日步一錢五厘	日步一錢五厘
深川出張所	預金 六、三〇、〇〇	日步一錢七厘	預金 八、六七、二五	日步一錢七厘	日步一錢五厘	日步一錢五厘	日步一錢五厘
旭川支店	預金 一〇、二五、〇〇	日步五錢五厘	預金 三、七五、〇〇	日步五錢五厘	日步二錢五厘	日步二錢五厘	日步二錢五厘

一、株式會社北海道貯蓄銀行

◎本銀行は元札幌貯蓄銀行上川支店と稱せしが行業の擴張上より本年四月を以て北海道貯蓄銀行と改稱し大に行務の開發を圖り金融界の至便を與ふると共に本道開拓

旭川案内

に資するものや蓋し大なりと謂ふべし本行の創立は明治三十二年十月にして一條通八丁目左七號にあり本店は札幌區大通西四丁目一番地に於て目下本店支店を通じ左の役員を置き親切懇篤を旨とし業務に勉勵せり、

頭取 磯谷熊之助、取締役 内藤兼備、同 久保誠之、同 福井正之、同 關川平藏、監査役 谷七太郎、同 金子元三郎諸氏なり。

◎旭川在店員左の如し
支配人 神田直太郎、店員 池内成長、垣沼武次郎、穴口清作、林仁作、原琢磨の諸氏なり(此他各所に支店あり)

本銀行は資本金十九万圓株主五十九名より成立せる最も正確なる銀行なり而して本行の營業地は札幌上川等の方面に而已限られありしを以て放資回收常に其期を同ふし業務の隆運容易に期し難かりき是に於て曩に沿海地に設立なりし松前銀行江差銀行と合併して其資本を増加し將來海陸呼應して業務の發展を企てたりしも創業日淺く未だ隆運に達するを得ざるに當り戰局の好音一度發して眠夢を打破し到る處商工業の意氣を強ふし市況一般の活氣を呈し貸出預入れ等意想外なる好況を以て三十八

年度の前半期を了するに至れり。

一、日本銀行旭川派出所

◎本行は三條通十二丁目にあり行員擧げて其職に忠實にして公衆の利便を圖る力めて切なり。

旭川倉庫株式會社

醸造部 醬油味噌醸造部

一、上川倉庫株式會社

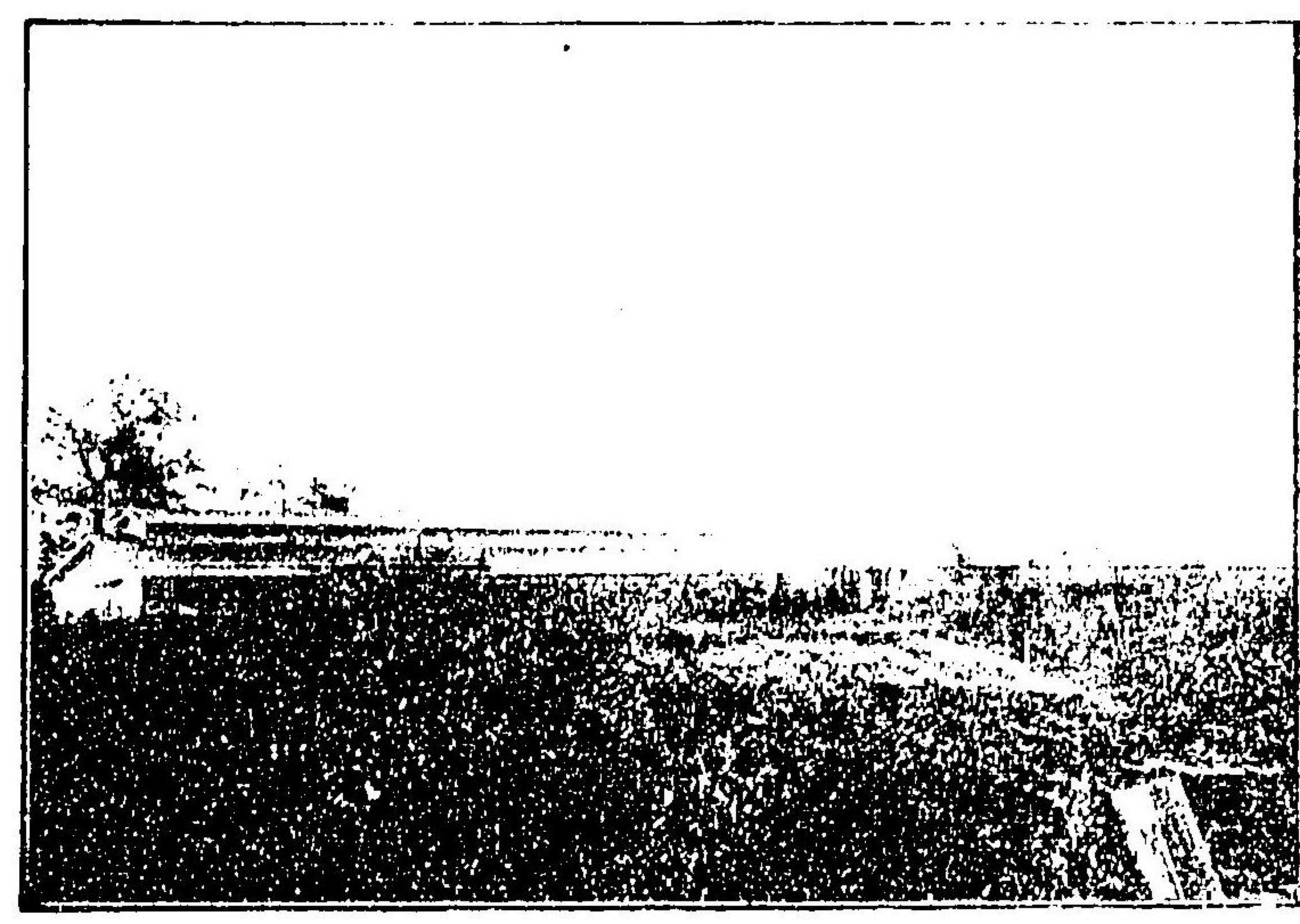
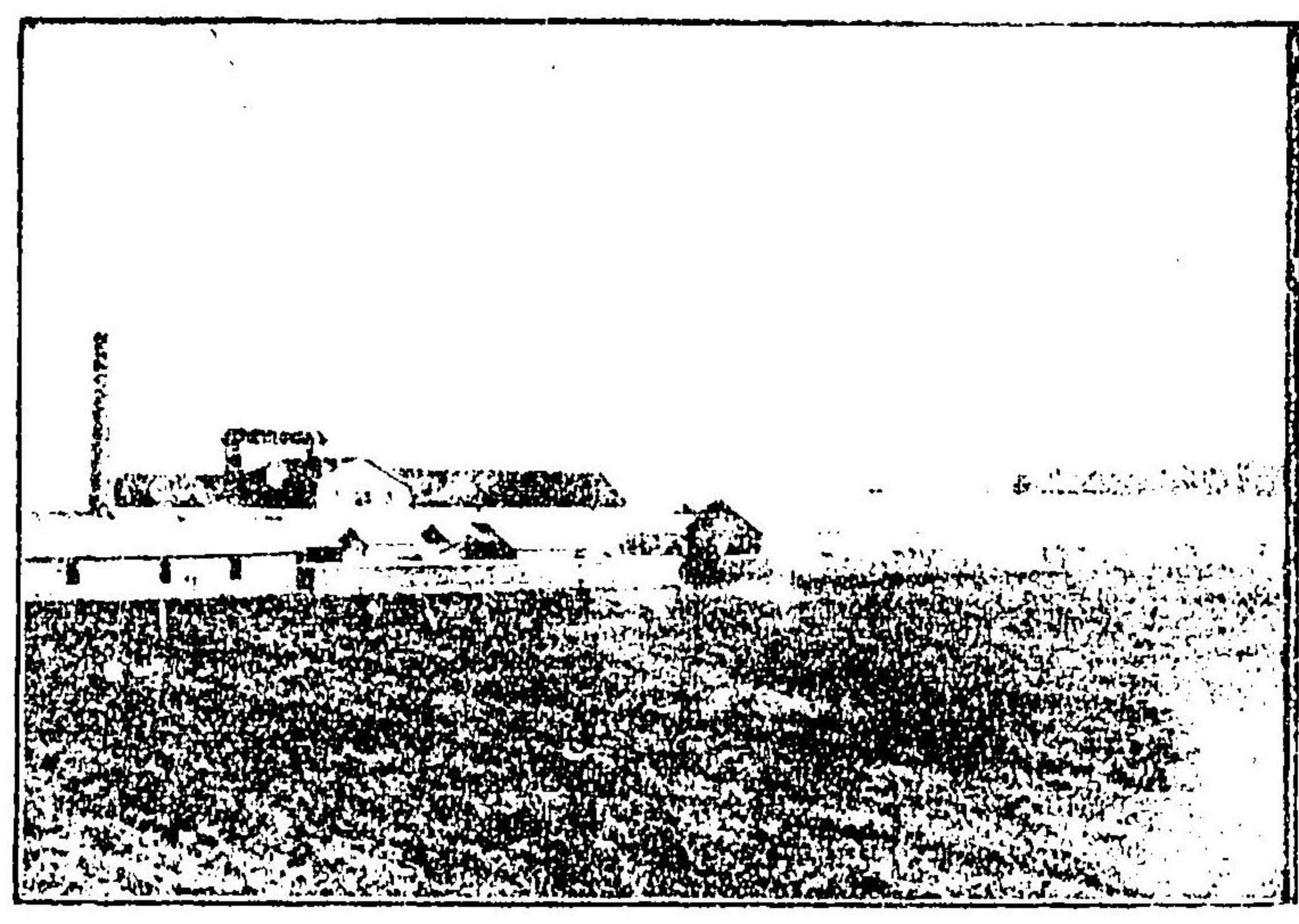
◎旭川町宮下通十一丁目に廣大なる煉化造りの倉庫數棟を列ね二六時中車馬絡驛殆んど櫛の齒を挽くが如きの壯觀を呈するものは是れ上川倉庫株式會社なり本會社は明治三十一年五月の創立にして資本金三万圓を有し殆んど銀行均一の方法に據り尤も正確に尤も敏活に金融界の至便を圖り尙ほ物品運輸の速達を期せんが爲め運送部を設け且つ各停車場に出張店代理店を置き現在左の役員を以て之れが經營に従事せり

常務取締役社長

井 内 歡 二

取締役

大 谷 岩 太 郎



年度の前半期を了するに至れり。

一、日本銀行旭川派出所

●本行は三條通十二丁目にあり行員懇めて其職に忠實にして公衆の利便を圖る力めて切なり。

會社

醸造部

〔酒造部 醬油味噌醸造部〕

一、上川倉庫株式會社

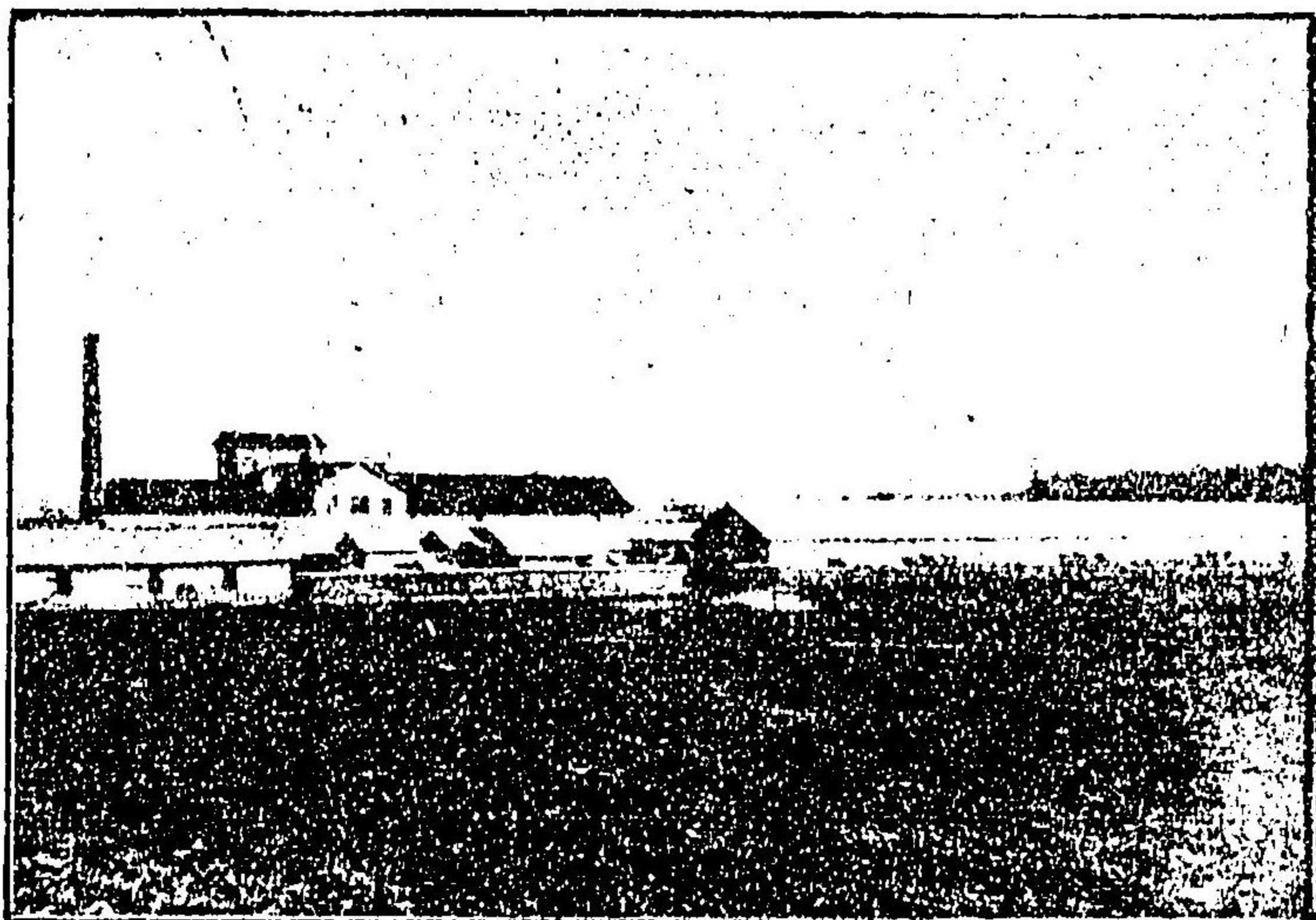
●旭川町宮下通十一丁目に廣大なる煉化造りの倉庫數棟を列ね二六時中車馬絡驛殆んを櫛の齒を挽くが如きの壯觀を呈するものは是れ上川倉庫株式會社なり本會社は明治三十一年五月の創立にして資本金三万圓を有し殆んど銀行均一の方法に據り尤も正確に尤も敏活に金融界の至便を圖り尙ほ物品運輸の速達を期せんが爲め運送部を設け且つ各停車場に出張店代理店を置き現在左の役員を以て之れが經營に従事せり

常務取締役社長

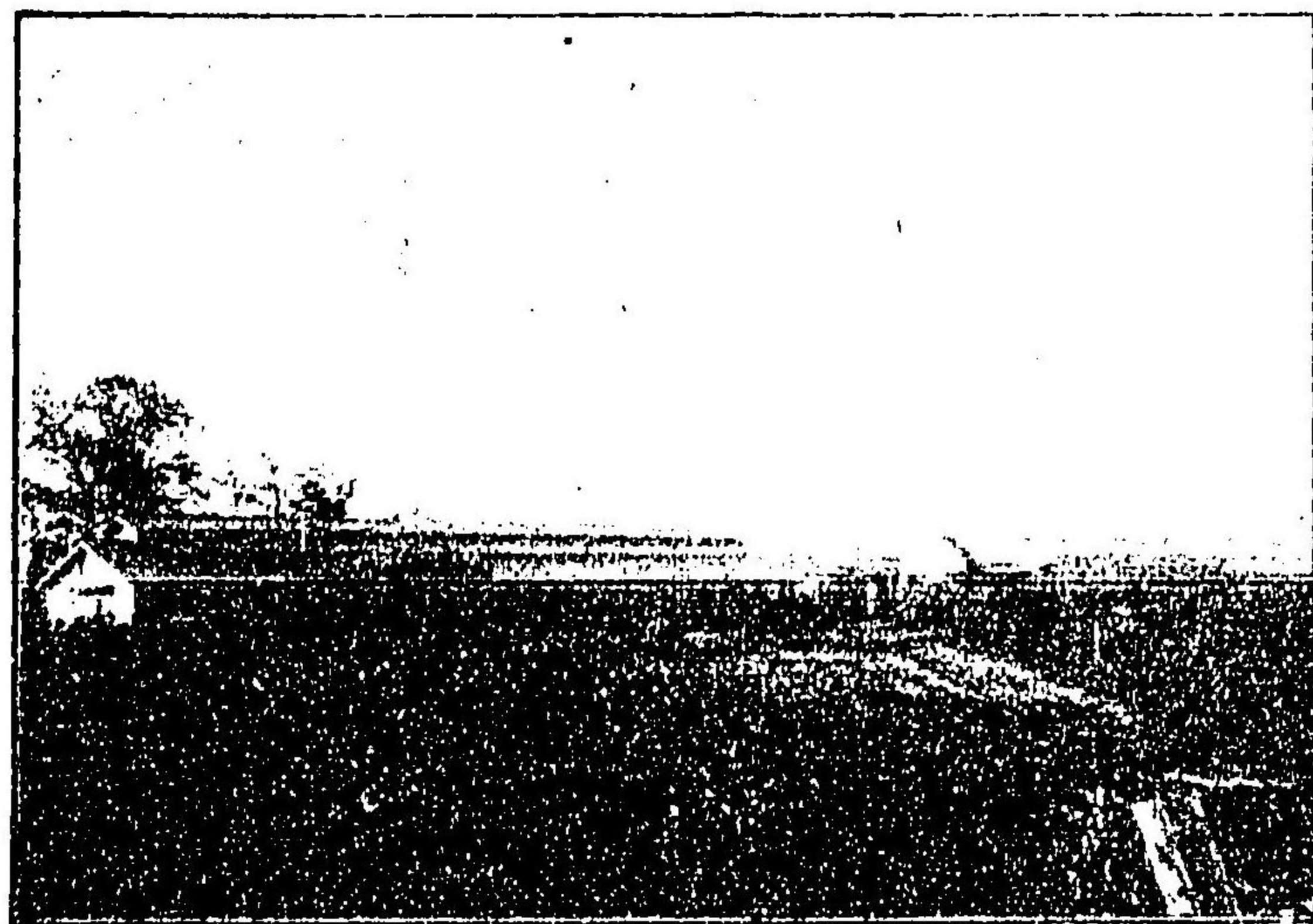
井内 歡二

取締役

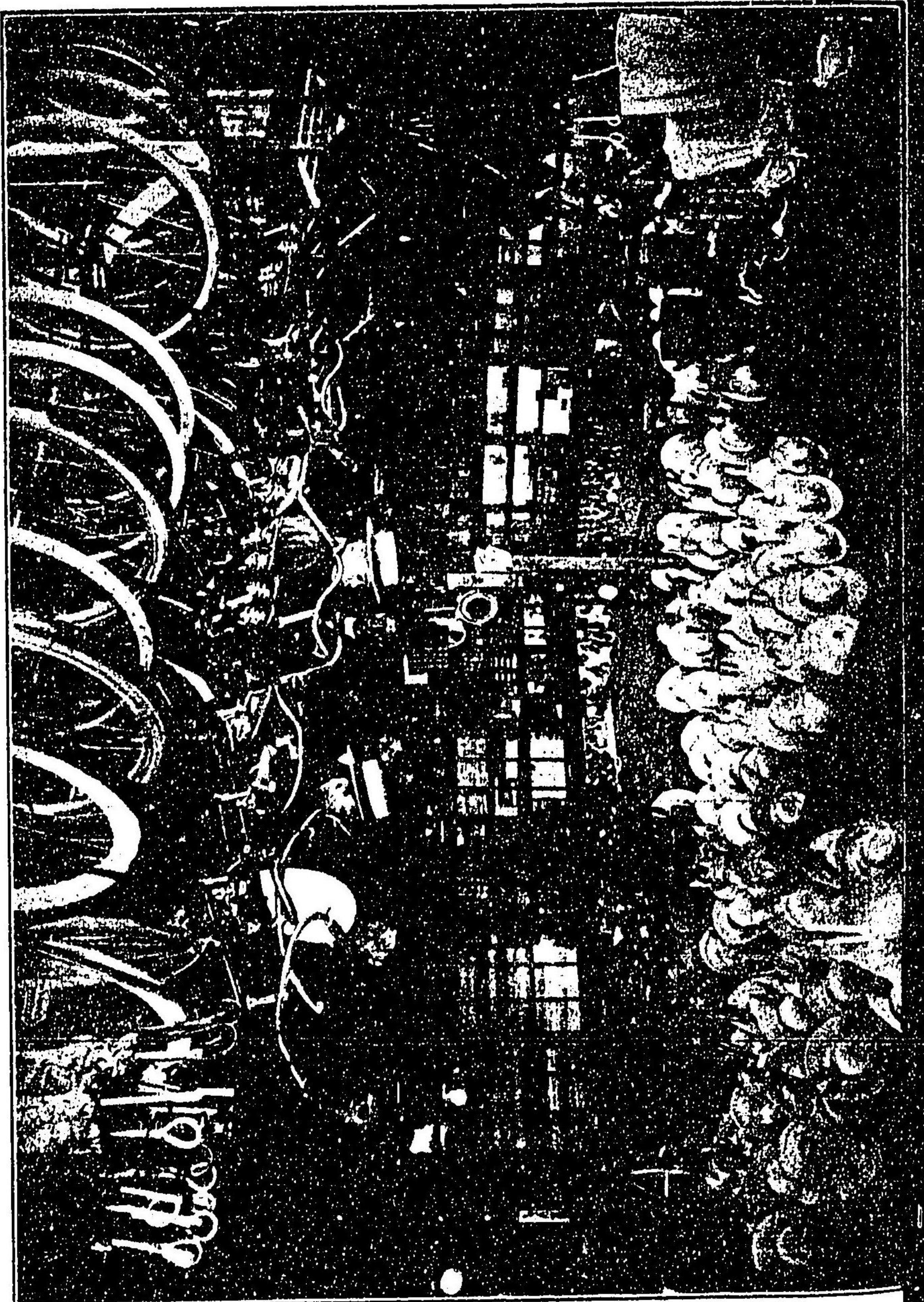
大谷 岩太郎



旭川倉庫株式會社



全上養部



今井會社旭川洋物店

旭川案内

本社事務員左の如し

同 上 花輪富太郎
同 上 渡邊七三郎
監査役 山本新助
同 上 市村龜松

主任 大橋俊一郎、芦田市太郎、石本嘉造

松家圓次郎、小川増次郎、加川長之助

運送部

主任 大松亮藏、須藤千代吉、石井菊次郎

村井吾一、小林類藏

深川出張所

松田隆雄

此他各代理店員十數名

取時の波動は一般商海をして萎靡沈澁せしめたりしも本會社は社長井内氏の英資明

敏にして思慮周密なる事務員諸氏の經倫卓識にして企業の方針時局の機に投じたる爲め却つて他業と反對に好成绩を得尙將來發達の趨勢あるを認めらる。

一、神谷酒造合資會社

◎旭川町の東南(宮下通二十丁目)に當り御離宮御豫定地なる旭ヶ岡と忠別川一條を隔て鐵道部旭川工場と相角立し巍然として雲間に聳ひたる煉化の烟筒を眺むるは問はずして知る是れ神谷酒造合資會社なり本會社は明治三十三年の創立にして初め株式組織なりしが諸事整理に時日を要し三十四年五月より漸やく機械の据付けに取掛り三十五年六月初めて醸造に着手せり然るに本會社の醸造は酒精にして其原料は主として馬鈴薯、玉黍蜀、副として大麥を用ふるものなるに此當時は前年度の水害と農業開發の進歩せざるに起因し一ヶ年の原料供給に不足を來し漸やく一ヶ年間に六ヶ月の製造を爲すに過ぎず殊に三十六年度に於ては一層原料の不足を告げ且つ創業日淺く不熟練の結果非常に損失を招き將に破産せざる可からざるの危殆に陥りたり爰に於て(現在業務執行社員)神谷氏外十數人大るに覺醒する處ありて同年十一月株式會社を解散し目下の如く合資組織と改め爾來事務員並に技術員の適任にして敏腕なるものを選択し拮据經營能く其の繁務を司掌せしめたる結果未だ二年を出でざるに本道中一二を以て擧らるべき前途多々益々有望なる會社となるに至れり加之ならず本會社は廢物を利用して養豚業を起し所謂一舉兩得の策を講ぜしに其機果して違はず今や熾んではれが蕃殖を見るに至りたれば新たに養豚所を設け數人の監督者を置き以て飼育に汲々たり而して目下の概況を擧ぐれば

旭川案内

業務執行社員	神谷傳兵衛氏
同 上	神谷桂助氏
事務長	佐藤矩成氏
事務員	吉野政吉氏
同 上	池田要吉氏
同 上	阿閉貫二郎氏
同 上	古川駒一郎氏
同 上	矢田秀三氏
外 四	名

旭川案内

監督技師農學士從七位 渡邊 甚作氏
 技師長 從七位 久松源次郎氏
 技師 結澤 酉三氏
 外職工 三十七名
 製罐場 男三名
 女四名
 牧畜部 男四名
 定夫 十一名
 此他臨時雇 數十人

一、資本金額 十二万円
 一、酒精醸造高

明治三十七年度 二、〇八八、八八三
 同 三十八年(九月マテ)二、一六一、四七五

一、原料の種類 馬鈴薯、玉黍蜀、大麥

旭川案内

一、販路 陸軍砲兵工廠一手(東京小石川)
 一、養豚の數 現在、三百一頭
 但種類「ヨークシャ」大小「パークシャ」谷頭
 一、養豚の食料 酒精醸造粕に少許の混合物
 を以てす

一、養豚の目的は目下蕃殖一方(本業は三十七年五月の創業にて未だ屠肉用に充つるに至らざるも漸次屠殺の見込みなり)
 本會社は醸造部と養豚部の二つに分れ規模の廣大なる建築物の宏壯なる一見以て大會社なるを認るに餘りあり

本邦洋酒製造の巨擘 神谷 傳兵衛氏
 本會社業務執行社員神谷傳兵衛氏の卓識遠大なる當に此の酒造合資會社の經營を以て甘んずるものにあらず是より前夙に彼の有名無比なる香露葡萄酒、牛久葡萄酒製造所を東京淺草區花川戸町に設立し全國は勿論朝鮮支那等にも是れが販路に擴張し此他林滴酒「ウヰスキー」(ソース)西洋酢を製造する等實に度量開裕なる實業家なり

氏は愛知縣三河國幡豆郡衣ヶ崎の産にして其の先は神谷高正と稱し著名の武士なりと云ふ代々三州神ヶ谷村に住す故に神谷を姓とす傳兵衛氏の今日ある豈に偶然ならざるなく氏の實兄神谷桂助氏(本會社業務執行社員)も亦經倫滿腹疾くに社會の風潮を砥礪し今や大器晩成の順境に向ひ敢て奮らず驕らず清淡潔白能く業務を執行し益々本道の啓發に傾注せらる蓋し本會社創立以來上川地方の農業界に一新改展を來したる氏の力與りて大なりと云ふも過言にあらざるなり。

一、(井)今井合名會社旭川支店

●旭川の地開發日淺きも巨商大賈に乏しからず就中取引の廣く信用厚く資力豊富に其營業の盛大なるを今井合名會社旭川支店とす今同店の營業種類を擧ぐれば吳服太物及金物、洋物醬油醸造等なり而して札幌支店は南一條西一丁目の要路四區に律ゆる宏大壯麗なる建物にして資本金數十萬圓一ヶ年の取引高數百萬圓に及ぶと云ふ、社長は今井勝七氏なり。

●吳服店

一條通七丁目左一號に店頭人の山をなし小僧を呼ぶの聲喧きは盲者も尚ほ能く知れる處の今井合名會社旭川支店吳服部なり支配人は市村龜松氏にして

金物店部を兼支配し温厚篤實にして店員を勵まし顧客に接する親切に専心實意品質の佳良なるものを選択販賣す加ふるに暴利を貪ぼらず可及的價格の廉ならんとを期し、勉めて顧客の至便を與ふるを以て遠近譽げて其名を傳ひ今や三歳の小兒も丸井の屋號を知らざるものなし。

●今井洋物店

一條通七丁目左十號角にあり吳服店と路一條を隔て、相屏列し清楚宏潤なる家屋に燦爛目を奪ふ計りの珍品貴物を列ね顧客の出入頻繁にして店員の忙かはしと言はんかたなき盛況なり支配人は白井六三郎氏にして寛嚴能く其中を守りて店員を御し業に忠實にして客に對する懇ろに物品良好にして薄利を以て販賣す殊に製縫極めて迅速にして巧妙の緻に達し特に裁縫場數ヶ所を置き歐米流行の粹を極め得たる職工數名を雇聘し常に製縫に當らしむ。

●醬油醸造部

醇良好味の醬油として本道十一州の地に名聲噴々たるものを今井合名會社旭川醬油醸造部とす……旭川町四條通二丁目巨大の醸舎を有し年千五百石内外の醸造を爲す醸造法は彼の有名なる、野田、銚子等の製法に絶り精々品質の醇良を期し他營業者の如く醸造翌年を以て販賣するとなり三ヶ年の後成熟を俟つ

て販賣するを常とす支配人は大谷岩太郎氏にして才氣俊秀規模經營些も違算なく同業者の仰羨する處なり又近文師團地内に出張店を設け誠實勉強を趣旨とし諸品の販賣に従事せり殊に三十七年勳員令の下りし當時は陸軍御用として多額の納入をなせり而して近年の醬油造石高は

明治三十六年 一、四七八、〇〇三

同 三十七年 一、〇六八、一五七

一、の秋野合名會社旭川分店

◎旭川町に於て藥舖を以て名あるものを秋野合名會社旭川分店とす、同店は三條通八丁目左一號角にあり初め二條通り七丁目に開業せしが旭川の開發と共に迅速の隆盛を來し店舖の狹隘を見るに至り三十五年を以て現住所に新築移轉せり支配人は藥劑師秋野武四郎氏なり氏は年將に壯なりと雖も資性寛仁大度にして中抜くべからざる才藻あり亦た卓識にして臨機の商畧に富み常に同業者の機先を制す店員亦能く忠實にして顧客に對する親切なれば店頭常に人の絶間なく其繁昌なる蓋旭川藥舖中第一なるべし同店は今や昌運隆々として止まるなく更らに宏壯なる石造庫を建築せん

と……盛んに是れが工事を經營せり同本店は札幌南一條西一丁目にあり札幌開祖の藥舖にて其基礎の鞏固なる資金の豊富なる本道中の藥舖にて比肩するもの……なかるべし社長の秋野幸三郎氏にして才德並備はり其名輒都に噴々たり。

一、旭川成有株式會社

◎旭川町三万人内外の食膳に供する珍味佳肴の原料とすべき河海の魚類を半ば一手に於て取引するもの之れを旭川成有株式會社となす同會社は六條通六丁目にあり明治三十四年一月の創立にして資本金二万圓株四百より成立す本會社は立創以來非常なる好成績を以て向ひ初年は取引額四万圓餘なりしが目下は十五万圓外に達し利益配當の如きは年々二割以上の好況を見るに至れりと云ふ要するに本會社は事實の上にて有望なる事業なるに殊に昨年以來時局の餘澤を蒙りたる亦大なるべし社長池田彌吉氏温厚の君子にして衆望の囑する處なり氏は旭川町々會議員として擧げられ正議堂々の士を以て名あり、取締役山本新助氏田崎七右衛門氏亦業務に熱心に公平の聞に多し本社役員を擧ぐれば左の如し

社長 池田彌吉氏、取締役 山本新助氏、田崎七右衛門氏、監査役 矢島宇八氏

中原茂助氏、事務員 河田愛太郎氏、利賀柳三氏、坂井寛次氏、高島梅太郎氏、早田敏次郎氏、石田千代吉氏、成廣平一氏等なり。

一、上川市場株式會社

◎七條通七丁目上川市場株式會社あり明治三十五年の創立なるも同社は開業間もなく役員中不正の行爲ありとして一時鐵窓の下に呻吟せしものあり爲めに社内大に紊亂して目的の實を擧ぐる能はず頗ぶる萎靡沈衰の狀なりしが現任社長石神庄之助氏後任者として推舉以來氏の敏腕と熱情とを以て着々改良整頓し今や略恢復の機運に至れり本社は資金一万五千圓株數三百より成立し毎日銀車發着毎に市場の雜踏云ふばかりにて鮮やかなる河海の魚類常に好魚家を羨やましむる程澤山なり。

一、合資會社岩井商店旭川支店

◎旭川町に於て靴商の巨壁を以て稱するもの合資會社岩井商店旭川支店とす同店は二條通八丁目あり外觀上敢て偉大の商店として目する能はざるも所謂良貫は深く藏めて空しきが如きの故ならんか内實は非常なる雄勢を以て各方面に向つて業務を擴張しつゝあり本店は札幌南一條西二丁目あり東京櫻組の代理店を兼ね當支店を

以て第七師團御用を擔任せしむ殊に昨年日露交戰當時は第七師團：軍人用靴：全部上納を命ぜられたり當支店主は森田常次郎氏にして才氣衆に勝れ商畧抜目なく誠實業務に勉勵せり且又同店の精製する靴は堅固無比にして美を極む曾て内國勸業博覽會第三回第四回共賞牌を授與せられ亦本道物産共進會に於て第一回より第四回に至るまで二等賞を授與せられたり以上の如く本會社にて精製する物品は堅牢無比のものなるを以て今や内地は勿論本道至る處にて好評轟々たるものなり。

一、上川萬益合資會社

◎本社は三條通十一丁目上川支應門前あり代表社員竹森健哉氏竹川忠八氏若山恒遣氏外補助員數名を以て社務を擔當す本社は代辨部、請負部、測量部、銀行、會社商店、營業に關する總べての取繼ぎ及び土木建築諸工事の請負以下殆んど世の盛衰に伴ひ湧出する關係事業を網羅して社界の便益に供せんとするにあり。

一、上川火葬株式會社

◎生者必滅は天下の道理朝に生れて夕べに死すも之れ蓋し止むを得ざるなり上川火葬株式會社の創立ある豈に敢て故なきにあらず同社は三條通八丁目あり明治三十

五年の創設にして人口の増殖に伴ひ漸次發達の勢ひなり社長春日井敏夫氏主任伊藤金五郎氏博愛主義を以て社の隆盛を企圖し悲傷悲哀の裡に哭泣する遺族に向つては慰諭至らざるなく共に餘哀を表して事情の許す限りは至便を與へて其の供給に應じ緩急二つながら遺族の不利ならざらんとを勉めつゝのるを以て今や一般の信用する處となり漸々規模の擴張を觀るに至る。

一、江田山合名會社旭川支店

●旭川町二條通六丁目會津名産の漆器販賣を以て專業となす一大商店あり常に店員八九名を以て奔走し其營業の繁盛なる漆器商としては當町中比肩するものなかるべし支配人店員一同懇篤丁寧にして世人の氣受けよく且つ販賣品は精良にして廉價なれば益々發達の機運なり又同店内に一員あり煙草販賣を營む價格廉にして尤も良品なり。

一、内國通運會社札幌支店旭川派出所

●當社は宮下通八丁目にあり主任松浦市郎兵衛氏忠實にして懇切なるを以て業務日に月に隆盛を來し今や同所七丁目百坪餘の會社を新築し不日移轉の運びなり、同

社は第七團團貨物の輸送を主とし其の収益至つて大なりと聞く。

一、栗山組旭川出張所

●同店は一條通八丁目停車場前にあり、本店は小樽色内町にして鐵道線路至る所の停車場附近に支店或は出張所を設け誠實に貨物の運輸を掌る當主任は片桐源治氏なり。

酒造之部

一、曲り笠原酒造店

●旭川酒造業の開祖として其名赫々たるものを笠原酒造店とす目下一條通一丁目に隆々として營業せらる同酒造場は明治二十四年而かも旭川町は忠別村と稱し戸數四十九戸人口二百二十三の一部落たりし時に當り今の新廓地附近に於て酒造業を經營せしも同所は未貸付地なるの故を以て許可せられず爲めに永山村に移轉し百石余を醸造せり然るに該所は地の利水質共旭川に及ばざるの觀あるを以て翌明治二十五年現住所に移轉し益々本業の擴張を圖り漸次旭川の開發に伴ひ今日の一大酒造家となり北海の天地廣しと雖も酒造業を以て指を屈する蓋し二三を下らざるよし銘酒と

しては笠の雪、とき豊と稱する二種季伯連の尤も賞美する處なり販路は本道一般至らざる所なきも主に十勝、天鹽、雨龍、上川を最多とす。
明治三十一年より本年迄の醸造高を擧ぐれば左の如し其の盛況推して知るべし、

明治卅一年	千三百石
同 卅二年	同 上
同 卅三年	千四百石
同 卅四年	同 上
同 卅五年	千八百石
同 卅六年	二千五十石
同 卅七年	二千石
同 卅八年	二千二百五十石

一、角上小檜山酒造店

◎宮下通十七丁目に一大酒造家あり角上小檜山酒造店と稱す明治三十二年の開業にして尤も上酒を産するを以て名あり明治三十五年五月本道十一州の品評會に於て一

等賞状を授與せらる爾來銘酒福泉の名一層世に知られ其香味に垂涎するもの多々益々店主小檜山鐵三郎氏精神誠意本業に熱中し開業以來左の順序を以て目下の隆盛を觀るに至れり。

明治卅二年	二百五十石
同 卅三年	四百〇五石
同 卅四年	五百五十石
同 卅五年	六百石
同 卅六年	八百五十石
同 卅七年	九百四十石
同 卅八年	千三百五十石

一、〇荒井酒造場

◎北山と稱する銘酒を産するを以て其名轟々たるものを荒井酒造店とす三條通り四丁目に醸造部あり店主荒井初一氏は一條通六丁目に居を構に醸造監督者として關浩三氏其任に當れり關氏は曾て永山村に於て盛んに酒造業を營み本業に實験あるに勿

論斯業界の才藻者として、尊崇せられしも故ありて今日の位置に居る事となれり然れども氏の英敏深畧屈々たる小成に甘んずるものにあらず時至り機熟せんか一躍して他人を啞然たらしむるの大事業を経営するや必せり荒井酒造店の今日ある豈に偶然ならざるなり。

一、丸上酒造店

◎丸上酒造店は五條通七丁目右六號にあり上の山に稱する銘酒を産す明治二十八年五月の開業なるも店主田中藤五郎氏は越後の産にして本業に妙を得故に開業日淺きも此の銘酒を出す所以なり。

一、秋山酒造店

◎三條通十九丁目辰の井と稱する銘酒を産する酒造店あり明治三十七年の開業にして其の名世の知る所となる店主秋山辰次郎氏自から醸造に従事し能く其方法に注意するを以て上酒を産する次第なり、

此他一條通十五丁目石崎酒造店二條通十二丁目瀬古酒造店六條通七丁目山崎酒造店近文二線一號に鹽野谷酒造店等ありて何れも相應の醸造場なり。



旭川酒造店

論斯業界の才蘊者として、尊崇せられしも故ありて今日の位置に居る事となれり然れども氏の英敏深畧區々たる小成に甘んずるものにあらず時至り權勢せんか一躍して他人を壓然たらしむるの大事業を經營するや必せり荒井酒造店の今日ある世に偶然ならざるなり。

一、丸上酒造店

◎丸上酒造店は五條通七丁目右六號にあり上の山に稱する銘酒を産す明治二十八年五月の開業なるも店主田中藤五郎氏は越後の産にして本業に妙を得故に開業日淺きも此の銘酒を出す所以なり。

一、秋山酒造店

◎三條通十九丁目辰の井と稱する銘酒を産する酒造店あり明治三十七年の開業にして其の名世の知る所となる店主秋山辰次郎氏自から醸造に従事し能く其方法に注意するを以て上酒を産する次第なり。

此他一條通十五丁目石崎酒造店二條通十二丁目瀬古酒造店六條通七丁目山崎酒造店近文二條一號に鹽野谷酒造店等ありて何れも相應の醸造場なり。



三川原酒造場

醬油醸造之部

一、(六)井内醬油店 (醬油味)

◎旭川町一條通十三丁目宏壯麗美の大夏を構へ店頭毎に人の絶間なきを觀る是れ井内醬油店なり同店は明治三十一年の創業にして上川地方未だ發達せず日常欠くべからざる醬油味噌等皆他地方より輸入せられつゝありし時なり店主井内歡二氏年齢漸く三十年斯業の経験少かりしも卓識人を凌ぐの量本業の有望にして地方生産力の啓發を促がし且つ輸入防止の法を講ずるの良策たるを認め刻苦經營醬油並に味噌の醸造に従事し三十二年より發賣せり然るに翌三十三年八月不幸にして祝融の災に罹り釀舎醸造品全部烏有に歸し進退之れ茲に谷まるの悲境に沈倫せり然れども壯懷雲を凌ぎ豪氣月を捉ふるの膽ある井内氏卒かでか斯かる窮困を以て屈すべき直ちに製造場再築に着手し忠實なる店員を選び一致共力日ならずして落成更らに勇奮鼓舞して醸造を勵み醇良品を産するの好評を博せしより上川の發達に伴へ漸次業務の擴張を圖り今や地方有樞の醸造家を稱せらるゝに至れり店主井内氏は業務の傍はら上川地方同業者の改良進歩を期する爲め醬油味噌醸造組合を組織し自から牛耳を取れり

加之ならず氏は上川倉庫株式會社々長の椅子を占め名實兼世の信用せる處なり。

明治三十六年同三十七年の醬油造石高及別製品名は左の如し

最上(金印)一等(赤印)二等(青印)

明治卅六年 六七一、三六一

同 卅七年 三六一、八九九

醸造品の販路は上川地方一圓及空知天鹽十勝方面最も多しとす。

一、丸丁下村醬油醸造部

◎旭川町にて醬油味噌醸造の元祖は同店にして明治二十五年の創業なり初め一條通四丁目開業せしも當町の發達と共に益々隆運に向ひ本年六月を以て五條通六丁目に宏大なる醸造所並に住宅を新築移轉せり同店の最上品は醬油銀甲一、味噌丸旭印にして遠近譽げて賞美する處なり店主下村長藏氏寛大にして忍耐力に富み旭川の天地未だ草原の時に當り百難を排除して斯業の開發を企圖し銳意熱心遂に今日の富貴を見るに至る氏今年順耳を越ゆる數年血氣益々壯に斯業界の隠君子として世の風潮を看過せらる氏の幸榮や實に極まれりと謂ふべし。

此他近文一線一號に西條醬油味噌醸造店三條通九丁目本間醸造店あり。

製造所

一、森製軸所

◎四條通八丁目に一大區劃をなし、常に男女工三百五六十人を使役し盛んに製軸業を爲すもの之れを森製軸所とす同所にて製軸せし品は神戸地方に輸送し同地より海外に輸出するものにて其利益の莫大なる地方經濟の上に於て大いに嘉みすべき事業なり。

一、要素肥料製造所

◎近又二線六號地に要素肥料製造所あり明治三十八年の創立にして藤本々造氏の經營に係はるものなり肥料材料は主に第七師團より供給を仰ぎ人糞馬糞踏藁の三種を以てす米作畑作に尤も効ありて他肥料より遙かに割合よき肥料なり販賣所は一條通七丁目藤本氏宅にして役員には小林力太郎、二瓶廣三郎、得能繁次郎の三氏なり。

◎大黒肥料製造所は近文二線六號地にあり明治三十八年四月の創立にして製造技手として澁井繁氏を雇聘し目下人夫三千人を使役し盛んに是れが製造に従事せり一日製造高は一十貫目以上に於て材料は第七師團より仰ぎ人馬糞灰の三種を以て之れに充つ其の効能の偉大なる他肥料の遠く及ばざる所なり本肥料製造には「アンモニア」の蒸發を止め之れを乾燥して能く細末となし俵装の上貯藏するものとす故に冬期本肥料を製するには乾燥室を設け充分の火力を用ひ乾燥せしめたるのち貯藏するものなれば其經費の莫大なる到底薄資本を以て經營し能はざるなり本肥料効能試験には北海道廳農事試験場技手神田勝亥氏の手を煩はしたるものにて効能の顯著なる分拆法に依つて明かなり。

一、向井米麥精搗所

◎同所は近文二線一號にあり初市橋某の經營せしものなりしが向井氏譲り受けて第七師團の米麥搗き上を業とす器械は公稱馬力五十五日七十余一日八十石余を精搗す

一、上川製線所

◎上川製線所は旭川町中島にあり明治二十九年六月の創立にして原料には亞麻大麻

を用ふ地方農家の爲め得る處大なり。

一、田中木挽所

◎同場は一條通一丁目にありて場主は田中敬造氏なり三十三年七月の創立にして資金巨額を有し當市内の用材を販賣す。

一、佐々木木工場

◎七條通七丁目にあり場主は佐々木長次郎氏にして蒸汽機械を据付け盛んに業務を擴張し田中木挽場と伯仲の勢を以て従事せり。

一、館脇煉化製造所

◎旭川町三條通二十丁目にあり所主は館脇米藏氏なり四時黒烟漢々として空を蔽ひ盛んに製造を營めり本業は新都會の地にありて前途益々有望の事業なり。

商店

一、○藥舖齋藤支店

◎旭川町に於ての秋野藥舖と伯仲の勢を以て其名灼焉たるものを丸一齋藥舖とす

同舖は一條通八丁目左角にあり廣潤清麗の家屋を有し店舖には一粒一滴起死回生の効ある賣藥を正然として處狭きまで整列し顧客の繁きと秒時も怠らざる盛況なり支配人は齊藤文七氏にして卓落不羈常に人を凌駕するの才氣あり店員皆輕快にして誠實顧客に對する謙讓あり本店は札幌南一條西二丁目にあり店主齊藤弘輔氏藥劑師にして店內に藥局を設け廣く醫家處方の需めに應じ名聲愈々高し當支店の現今隆盛なる素より故なきにあらざるなり。

一、(六) 井内商店 (太物部)

◎同店は一條通十三丁目にあり太物、烟草の二種卸賣を專業とす物品は阿波徳嶋名産の煙草及び木綿類にして精良なる佳品を以て最も安價に販賣するを常とす故に其の取引の盛なる斯業界の魁たり店主は井内歐二の實弟豊次氏にして温厚着實商客に富み前途有爲の人物なり店員亦誠意熱心にして主に對する忠客に對する懇切なれば益々昌運に向へつゝあり。

一、近藤靴店

◎同店は靜岡市吳服町四丁目十三番地近藤伊作氏の支店にして旭川町近文一線一號

にあり明治三十四年七月の創業なり支店主は五條勘次氏なり氏は寛大深慮にして能く店員を御し自から率先して業務に従事し精良にして堅牢なる製品を出だすに勉む同店は主として陸軍御用を專務とす開店當時年賣上高は三万圓内外なりしが昨三十七年度に於ては十萬圓に達したり常に男工十人をして製造に當らしむるも殆んど寸隙なき形勢なり曾つて當本店にては第一回内國博覽會に於て賞狀を授與せられ第五回に於ては三等賞牌を授與せられ精皮にありても同回に於て褒狀を拜受せり其他品評會等にありて賞狀を授與せられしと數回なりと云ふ。

一、(九) 石田商店

◎旭川一條通七丁目右角に洋物店と要路一條を隔て宏壯にして嚴然たる構を成し店頭常に人を以て滿つるもの是れを丸九小間物店とす同店は小間物店として當間一二を以て數ふべき巨商なり物品は未だ町民の夢想だも及ばざる嶄新なるものを鳩め廉にして精美佳麗なるを販賣す店主店員舉げて誠實にして和氣店內に溢れ顧客をして自然足を向はしむるに至る。

一、木下商店

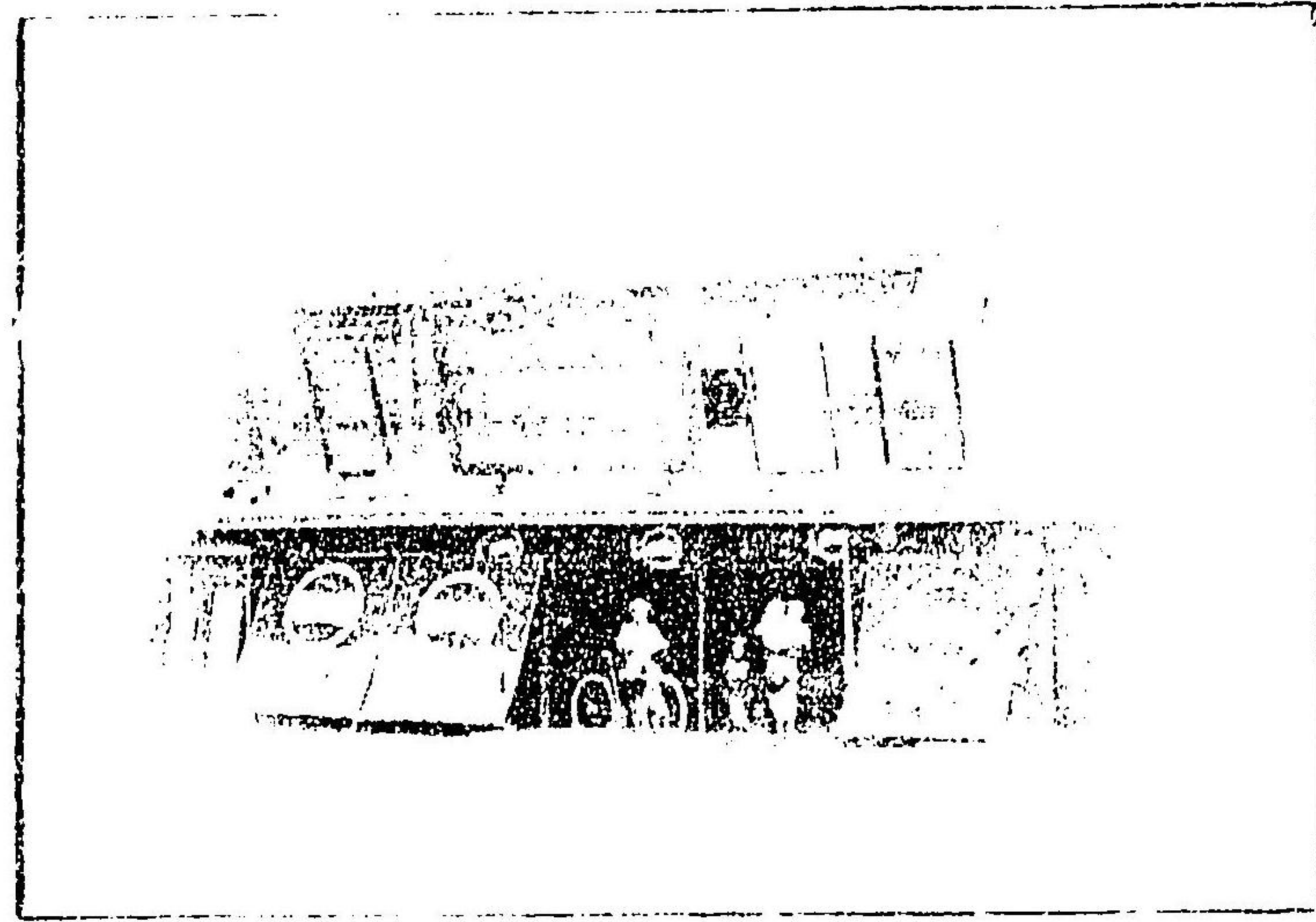
◎同店は二條通七丁目にあり明治三十二年の開業にして店主は木下直二郎氏なり氏は年齒壯にして活達英敏の聞は高く且つ商略に就ては他人の得て穿つべからざる深膽あり店員亦敏捷にして顧客に接する丁寧なり店舗は宏壯と言ふにあらざるも敢て小ならず建築清楚にして優に大買に稱するに足る珍品奇羅店內に充滿し顧客の往復亦實に頻繁なり。

一、六、檜商店

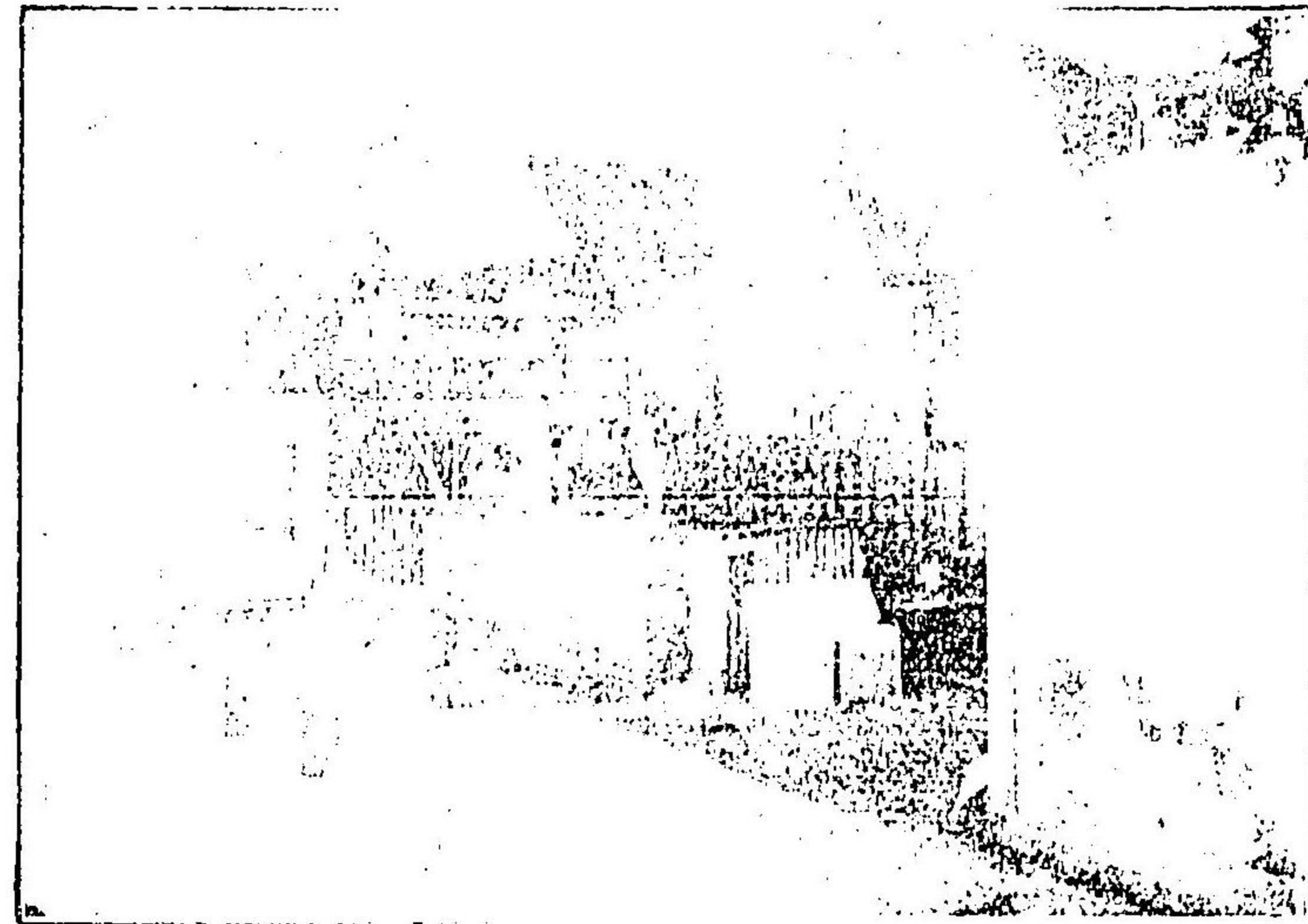
◎諸官衙御用商店として其名遠近に高く名實共に赫々たるものを檜商店とす二條通八丁目右角にあり同店は主として紙類販賣を専業となせども官衙の命に依りては萬事其の需めに應ずるを以て取引の廣大なると他見の比にあらざるなり店主檜莊次郎氏英資才略あり豪膽にして小事に拘泥せず店務は殆んど店員に一任し自分は最大なる諸官衙の御用にのみ奔走せらる店員亦忠實にして能く顧客に親切なれば商運日に月に進み今や當町有樞の商店として指を屈するに至れり。

一、鈴木商店

◎旭川町に於て乾物商を以て第一と稱するものを丸杉商店とす明治二十六年而かも



旭川齋藤藥舖支店



全店內の部

●同店は二條通七丁目にあり明治三十二年の開業にして店主は木下直二郎氏なり氏は年齒壯にして活潑英敏の聞は高く且つ商略に就ては他人の得て穿つべからざる深慮あり店員亦敏捷にして顧客に接する丁寧なり店舗は宏壯と言ふにあらざるも敢て小ならず建築清楚にして優に大買に稱するに足る珍品奇羅店內に充満し顧客の往復亦實に頻繁なり。

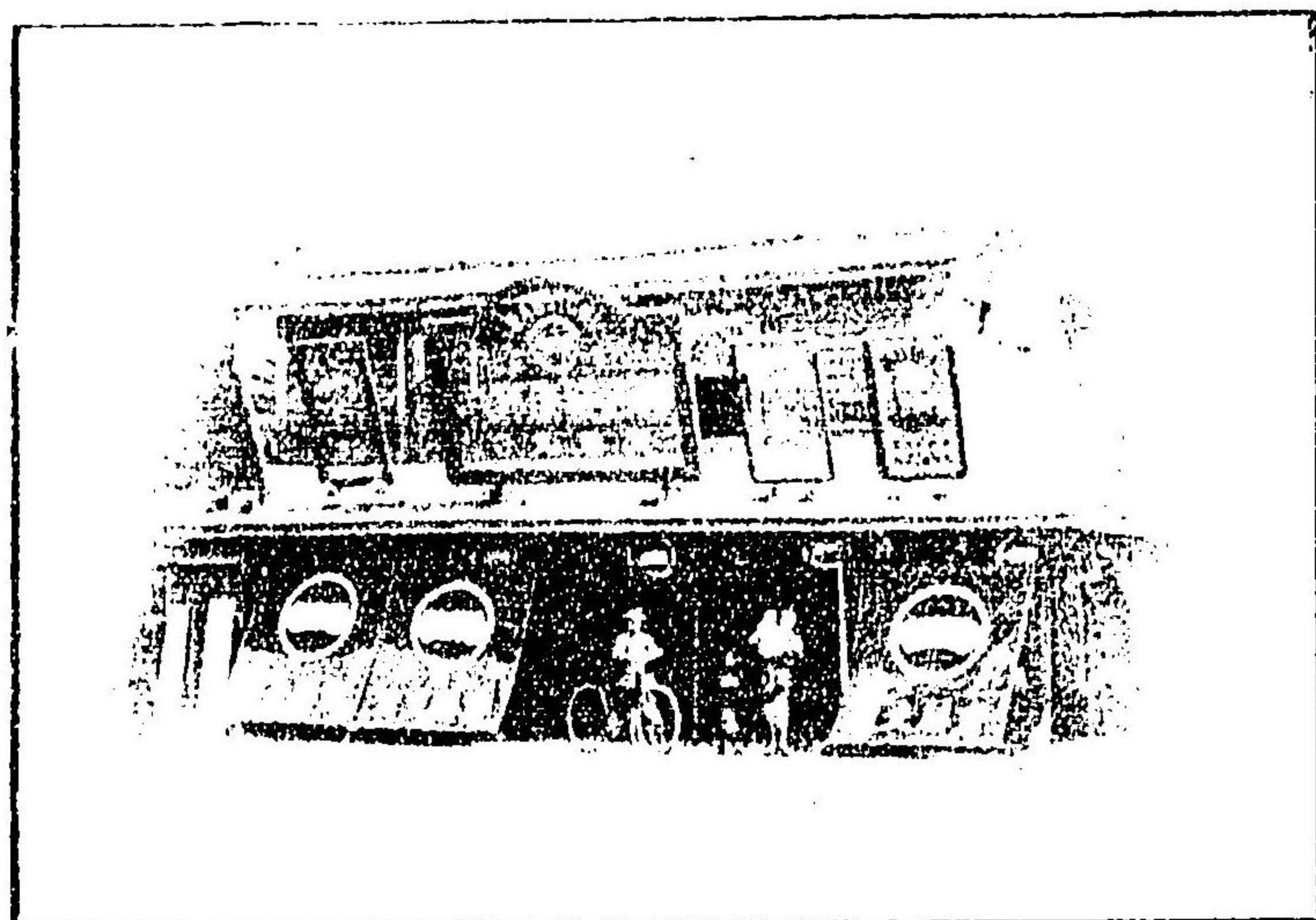
五十六

一、杏榎商店

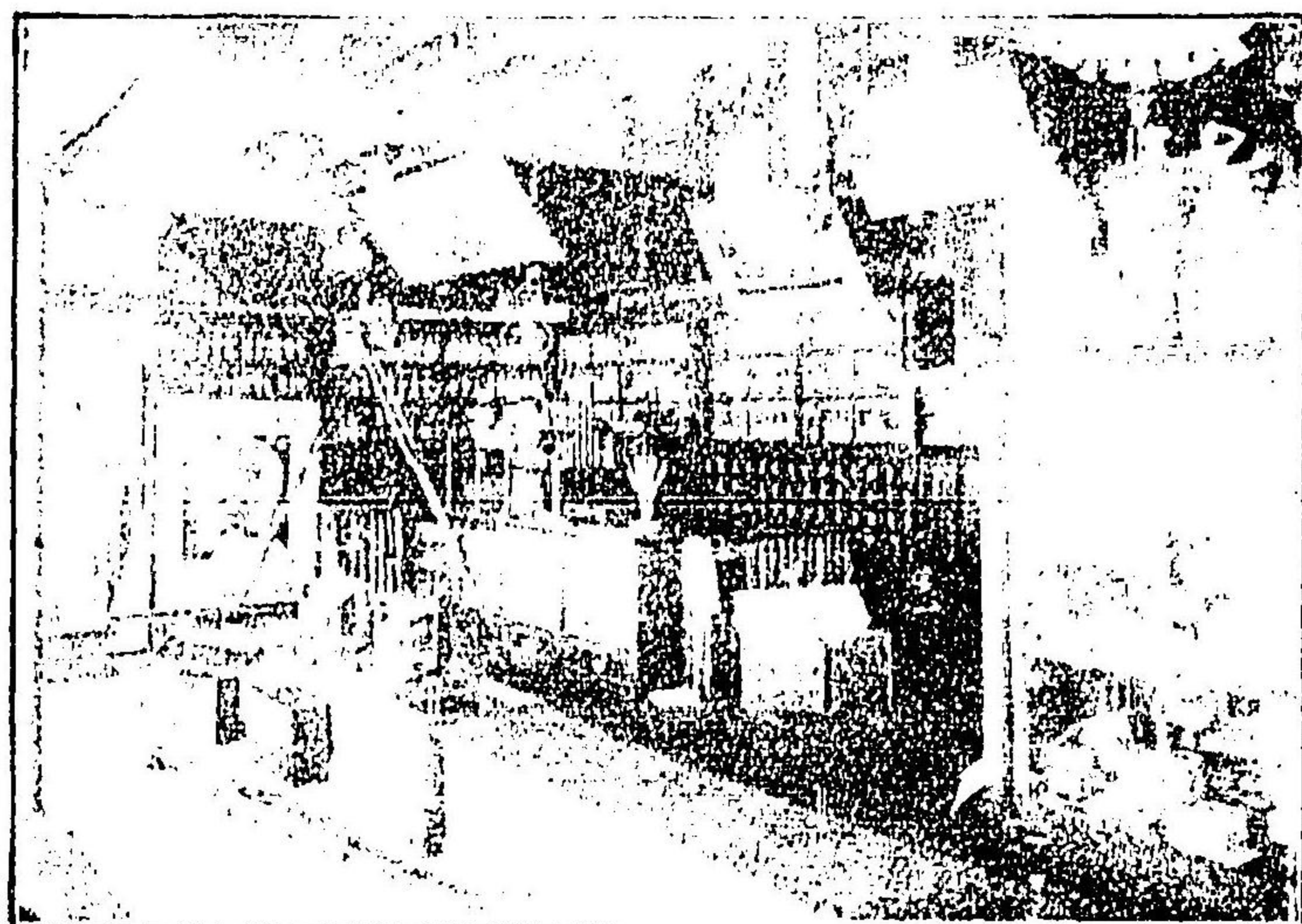
●諸官衙御用商店として其名遠近に高く名實共に赫々たるものを榎商店とす二條通八丁目右角にあり同店は主として紙類販賣を専業となせども官衙の命に依りては萬事其の需めに應ずるを以て取引の廣大なると他見の比にあらざるなり店主榎莊次郎氏英資才略あり豪膽にして小事に拘泥せず店務は殆んど店員に一任し自分は最大なる諸官衙の御用にのみ奔走せらる店員亦た忠實にして能く顧客に親切なれば商運日に月に進み今や當町有樞の商店として指を屈するに至れり。

一、鈴木商店

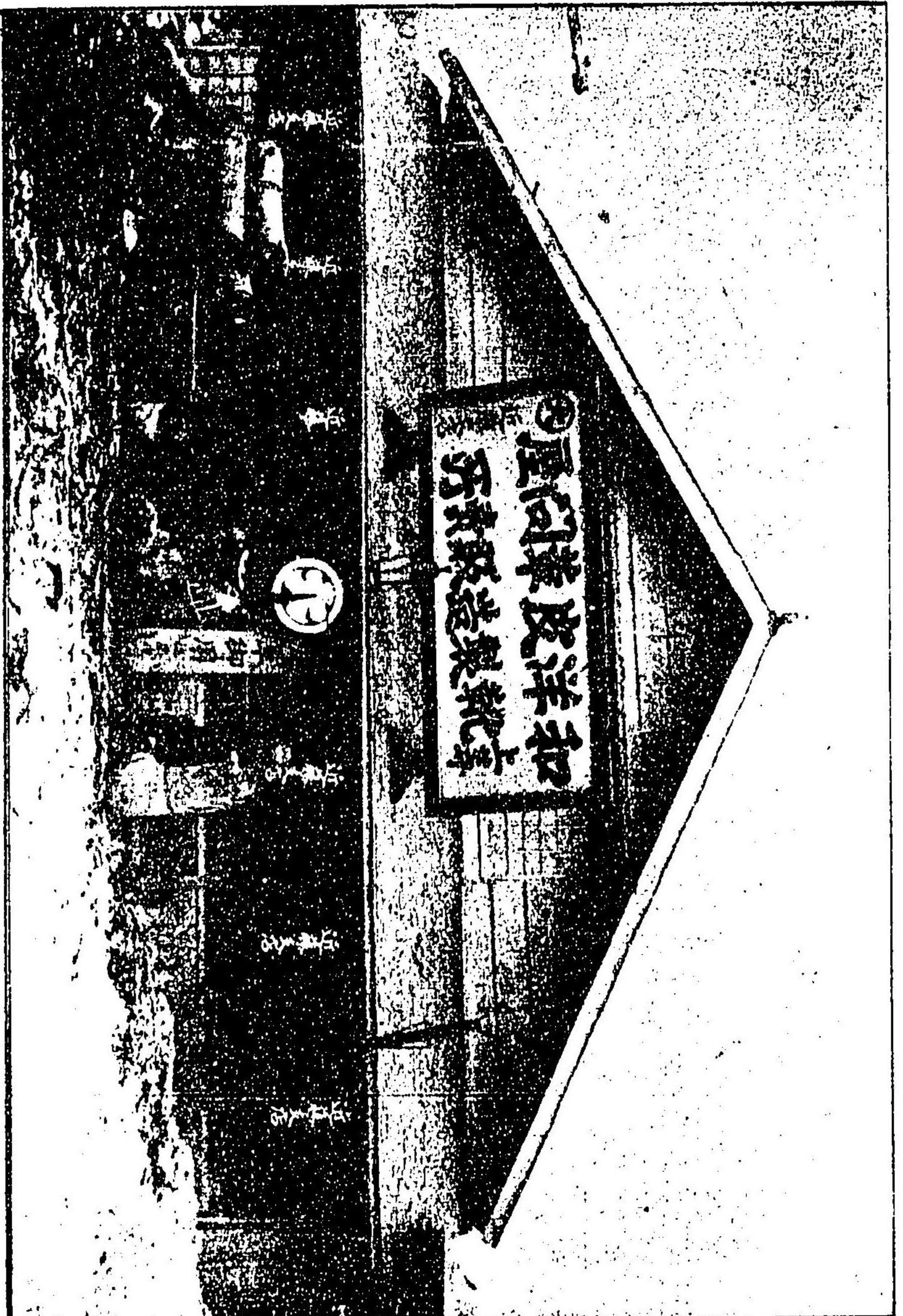
●旭川町に於て乾物商を以て第一と稱するものを丸杉商店とす明治二十六年而かも



旭川齋藤藥舖支店



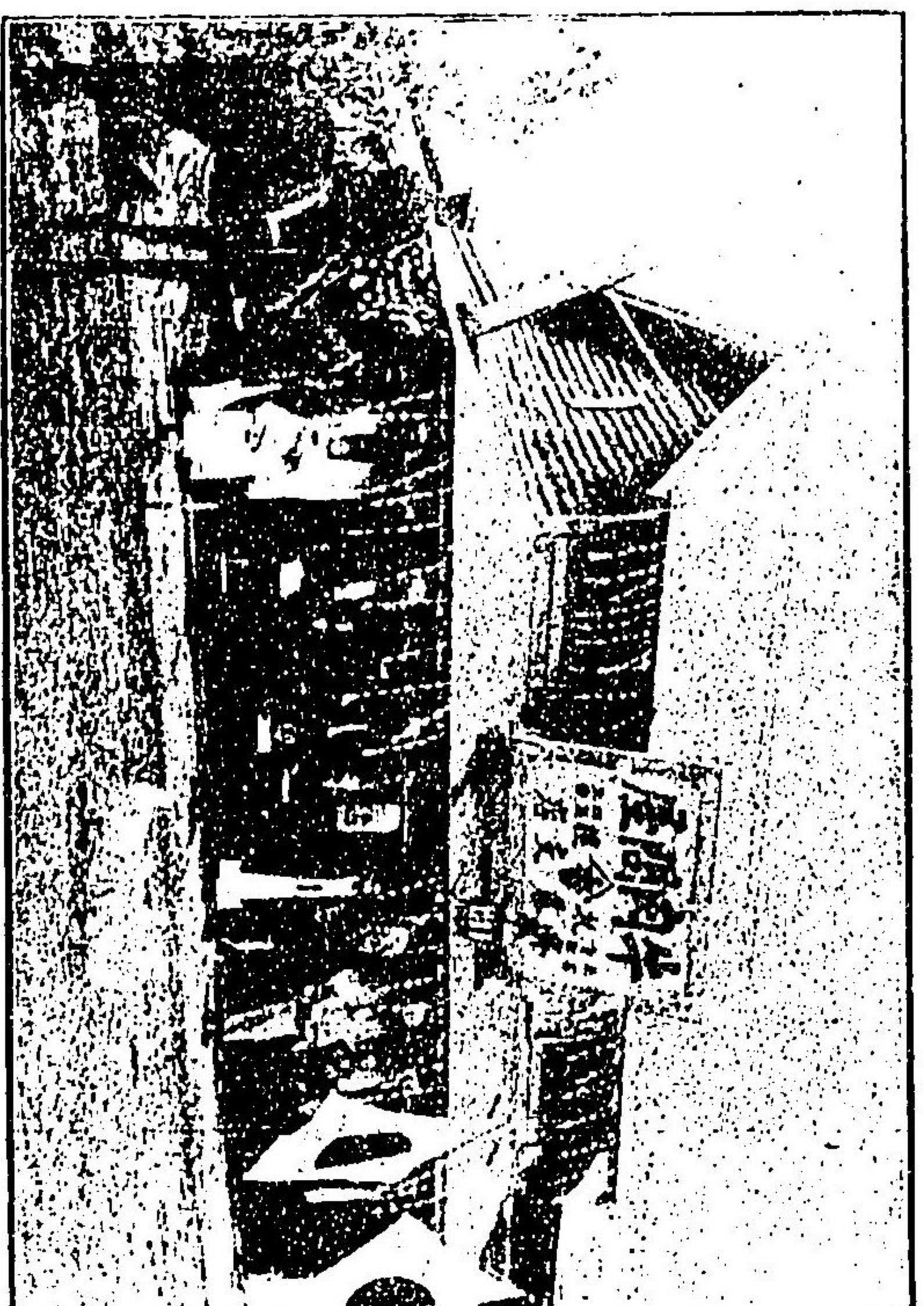
全店內の部



旭川近交 近藤支店



大 橋 南 店



店肉牛藤齋

當地は未だ草原の一小部落なりし時に開業せしものにて店主は鈴木大吉氏なり氏は先見の眼光を有し旭川の今日あるとを豫期せしものなり同店には祭婚其他一切の料理に仕用する原料として一として備へざるなく専ら産地より直輸入をなし可及的安價を以て販賣するに依り其繁昌なる蓋當町同業者の冠たるべし。

一、荒井商店

◎荒井商店は一條通六丁目にあり白米卸賣を以て専業とす完全なる水車を有し日々多額の白米を精搗し尤も薄利を旨とし販賣せり店主荒井初一氏私にありての博愛之れ力め公にありては堂々處思を貫徹す實に當町有爲の人物なり。

一、不雜貨商店

◎曲イ商店は二條通六丁目にあり主に白米雜貨卸小賣を以て營業とす同店は雜貨商として最も聲望高く亦比較的廉價なるの間々ある店主店員力めて業務の擴張に熱心なるを以て増々發達の勢ひなり。

一、伊佐藤商店

◎同店は一條通五丁目にあり白米雜貨卸小賣商として名あり物品精良にして價格安

注文物は速達にして丁寧なるの故を以て顧客の満足する所なり。

一、(五) 後藤商店

旭川町に於ける荒物商の巨大なるものを九五後藤商店となす二條通二丁目にあり店頭常に卸買小買ひのもの山を成し殆んど市場を以て目するの觀あり。

一、朝明旭川支店

同店は旭川一條通九丁目にあり荒物雜穀店を以て業とすれども其特色とする處は宅合名會社の手に係はる大坂酒特約一手販賣にあり、本店は札幌南一條西六丁目にして頻りに支店の擴張に盡瘁せらる當支店主は不羈人を凌がんとするの資性ありて時々同業者と競争するの止むなきに至り爲めに多少の損失を見るとあり。

一、舎齊藤肉店

旭川町二條通九丁目右十號に肉店を以て名あるものあり舎印齊藤肉店とす明治三十三年第七師團の設置せらるゝや主として納肉の目的を以て開業せられしに先見果して違はず陸軍御用を命ぜられ傍はら一般の需めに應じつゝありしに日露の戦端一度開かれてより一層納肉多額を來し市内に於ても非常の好況を以て向ひられ雇人八

九人を以て寸暇なき程なり店主齊藤伸吉氏深思大度にして人を容るゝ量に富み多くの店員ありと雖も敢て其過ちありしを聞かず本店は札幌南二條西三丁目十八番地にあり幌都肉店中第一を以て擧げらる今や本店支店共増々隆盛の勢ひなる所以は日々販賣する肉類は最も新鮮にして黴菌等の患ひなきものを撰び決して有害無滋養のものを買せしことなきによると云ふ。

一、三光舎

旭川町二條通七丁目右九號に陸軍御用肉店として世に知られたるものあり是れ三光舎肉店なり店主二瓶鐵治氏大に慮はかる處あり三十三年第七師團の設置と共に開業し盛んに本業の擴張を圖かり第七師團御用納肉の傍はら牧場の經營をなし目下養豚三百頭以上に達せり店主店員咸な業務に熟中し精々價格の廉なると肉類の上品なるを旨とし勉強せるを以て當町肉店中山吉印齊藤肉店互角の趨向を以て盛んなり。

一、(八) 村井商店

三條通十二丁目右十號に丸八印村井商店あり荒物商中最も誠實廉價の間に高く注文物を速達するを以て亦名あり店主才氣溢れ大事の經營に志すも未だ機運の啓發に

逢はざりしが今や順境眼前に來れり、

▲同店主村井庄次郎氏曾て發明販賣に係はる、虎膽丸は「ねこり」治療の妙薬にて如何に慢性質のねこりにても四五時間内に二包みを用ひ後ち六日間毎日朝夕半包みづ、服薬すれば全快せざることをなし現に明治三十四五の兩年「ねこり」病の流行せし時本薬を用へて全治せしもの幾百人なるを知らざる程なりと云ふ。

一、片山商店

◎同店は旭豆、旭竹と稱する菓子製造を以て其の名世に顯はる三條通八丁目右八號にあり同品は店主片山久平氏の發明にして明治三十六年登録商標を得專賣せり同品の原料は豆にして味ひ……言ふべからざる香ばしきありて源氏豆の比にあらず一斤小賣二十二錢卸十八錢なり師團軍人の土産として原籍に送るもの數多く一ヶ月の小賣高二千斤以上に達し平均一ヶ月四百五十圓の賣高なる故に其の繁榮旭川菓子製造家中一二を以て稱せらる店主堅忍事を成すの力多く益々奮つて其の業に當り近々二條通八丁目別製造所を設くと聞く。

一、時計店

◎當町に時計店の數多しと雖も其の主なるものを舉ぐれば三條通七丁目日本時計店二條通九丁目佐々木時計店二條通八丁目齊藤時計店二條通六丁目星野の時計店等あり何れも精良確實の物品を販賣し修繕等の需めに對しては最も丁寧迅速を旨とし大に勉強するの好評あるは斯業界の爲め喜ぶべき現像なり。

一、雜品問屋

◎三條通九丁目漆友松氏と稱するものあり卓譚抜群風に見る處ありて同店を設置せしに企圖能く圖に當り漸次今日の盛況を觀るに至る目下當町に此の種の商店數ありと雖も當店を以て元祖とす。

一、勸工場

◎二條通八丁目二條勸工場あり三條八丁目旭勸工場あり何れも誠實廉價を旨とし客に接する丁寧なれば其繁昌言ふばかりなり春の朝夏の夕べ子供達の慰みかぞら歩を柱くるも亦一の樂み場なり。



農牧場

一、藤野牧場

◎藤野牧場は本道に於ける個人經營牧場の最大なるものにして整頓亦能く備はり牧場模範とするに恰當なり場主藤野四郎兵衛氏は澁賀縣愛知郡日枝村の産にして現住地は大坂中の嶋なり而して牧場事務所は上川郡旭川町字近文五線一號にありて北見國網走釧路國庶路及上川郡美瑛の各牧場を併有し何れも規模廣大なる經營既に終りを告げ目下各牧場の面積合せて二千〇七十四万〇九十四坪飼育の畜類牛七百九十九頭馬百二十一頭豚六百三頭(何れも三十八年七月現在)にして網走牧場は明治二十六年十月上川牧場は三十三年十二月の創業なり。

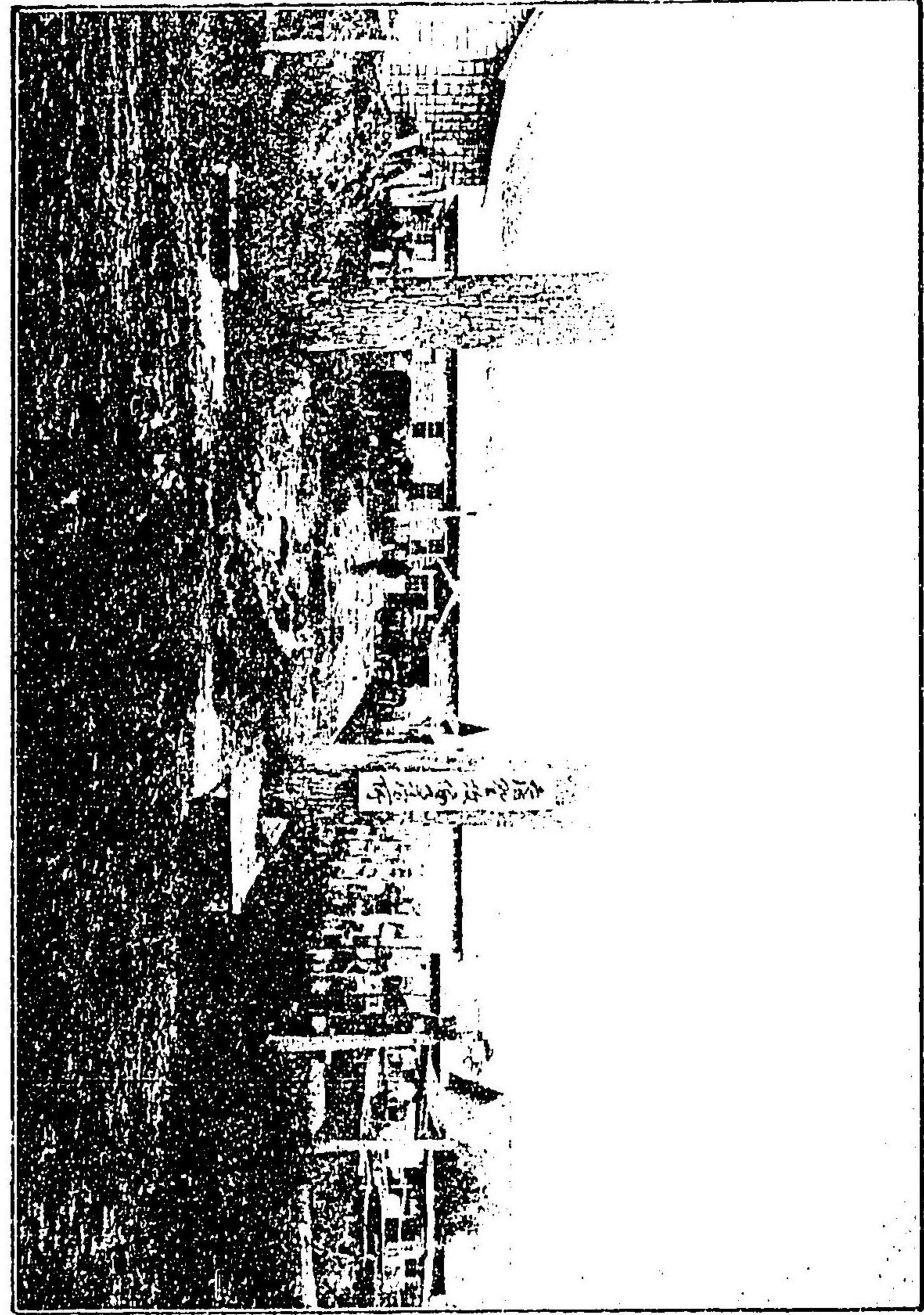
抑藤野氏が上川に牧場を設くるに至りしは明治三十三年十月大迫師團長北見閱兵の途次其肥腹せる牛群輕快なる馬匹を見第七師團近傍に牧場を設くるの得策なるを諭されしに時恰も牛馬蕃殖して北見地方にて販賣の途なきに困難を告ぐる際なれば直に牧場長福井榮太郎氏を派し近文五線一號師團接續附近に地を相し私有地を買ひ入

れ事務所畜舎居室等を建築し乳牛十數頭屠肉用牛數十頭を移せり之上川牧場の初なり此年近文原野に於て八十一万坪貸付許可あり三十四年一月第七師團納肉御用を命ぜられ續いて師團官舎並に旭川市街に供給の目的にて搾乳販賣營業を開始し牧場の業務を分ちて事務、牧畜、納肉、搾乳の四部とし福井榮太郎氏牧場長たり同年九月美瑛原野に於て四百二十三萬坪の貸付地讓與許可せられ藤野上川牧場美瑛牧牛場と稱す而して上川牧場は師團納肉の傍ら右の事業を經營しつゝありしも遅々各牧場の擴張に伴ひ事務に繁忙を極め錯雜なる事務を執行するに暇なきの故を以て師團納肉は三十七年十二月限り廢止し専ら各牧場の事務を整理し傍ら各牧場生産の牛馬及製産物を販賣し同時に旭川町八條通に牛乳搾取場を設け牛乳販賣並に事務所附近に養豚業を經營せしに機違はず同所經營に係る搾乳事業は遅々進捗し目下毎日四斗内外の牛乳を販賣することに至れり養豚の如きは前途有望にして本年蕃殖の成績は最も良好にて蕃殖豚九十頭に對する五百三十九頭(本年自四月至八月)の良好を生産し漸次屠畜の上師納肉者に卸販賣をなし又各場生産する屠牛は何れも好時期を見計らへ當所に引き付けの上屠畜し是又師團納肉者に卸賣する見込なりと而して其頭數本年

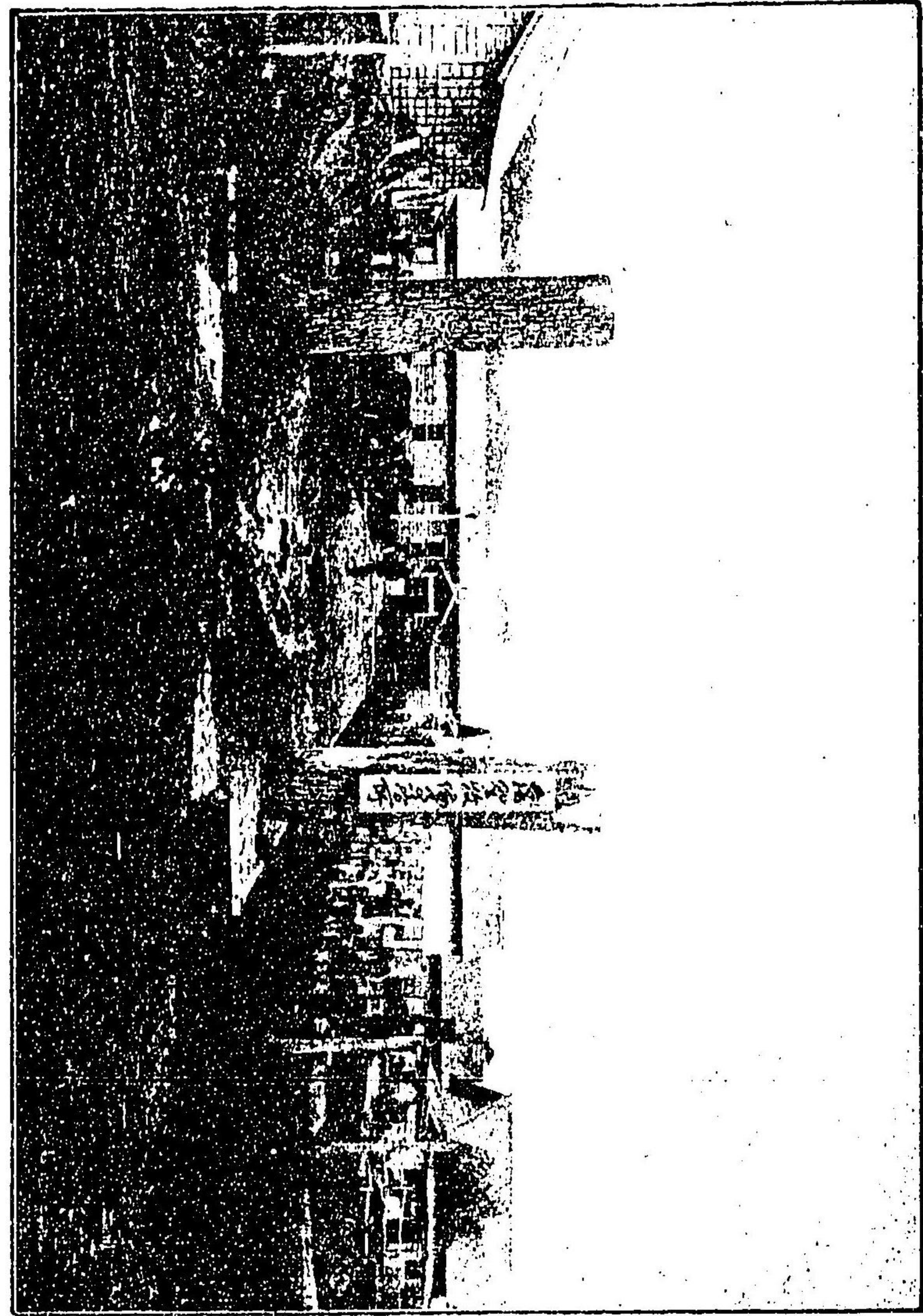
の分は二百余頭なりと聞く。

藤野美瑛牧場は美瑛市街を距ること二十餘丁にして同村原野七線一號にありて面積は牧場六百十五万千六百五十五坪畑地三十五万九千八百十五坪畜牛三十八年七月現在二百六十一頭なり當場は三十四年九月の創業にして同年中畜舎及居室等を建築し爾來年々其度に應じ増築し本年の如き模範畜舎製乳所を建築し目下建物十五棟に及び總坪四百五坪なり又牧柵の如きは一万二千間余にして穀菜畑・牧草畑完成し既に二百万坪の土地無償付與検査済となれり當牧場地は美瑛川及殖民區畫地を境とし北は「オキキニウシ」川を中央として「ウバシベツ」川に臨み場内には數條の清流ありて畜類の飼料充分に土地は平坦丘陵交々相半はし野草の成長丈餘に及び畜類飼養に最も適當の牧場なり同三十七年三月現牧場の前地殖民區畫地畑二十万余坪を買ひ入れ牧場附屬農耕地となし同年四月米國より大農具を購入し大農組織を経營せり現に三十八年の耕作反別は牧草畑一百十七町歩燕麥畑六十町歩根菜畑十二町歩餘にして多大の農作物を收穫するに至る。

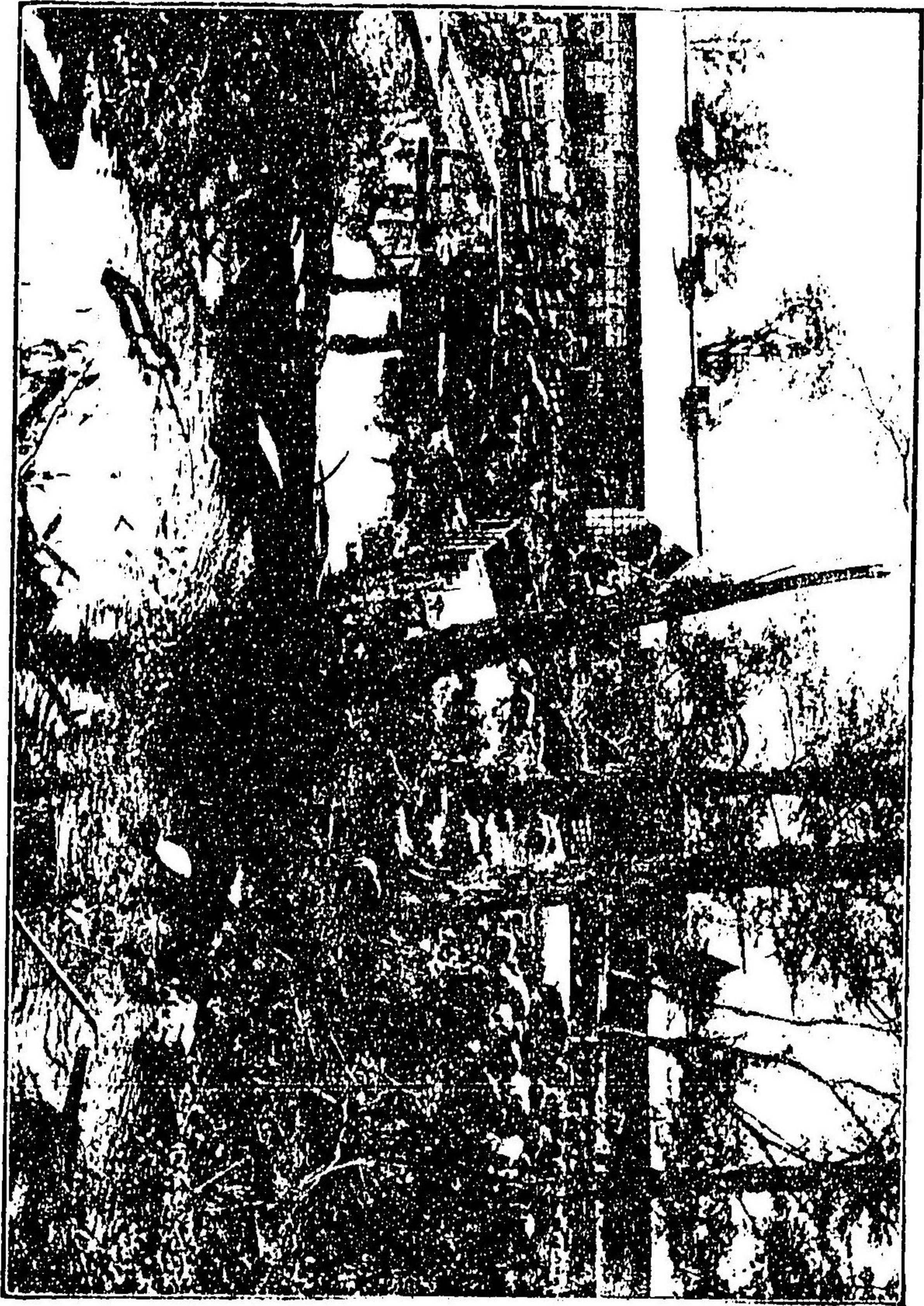
(牛馬糞飼法)牧牛は五月上旬より十一月下旬まで放牧地に牧柵を廻らし區畫を設け



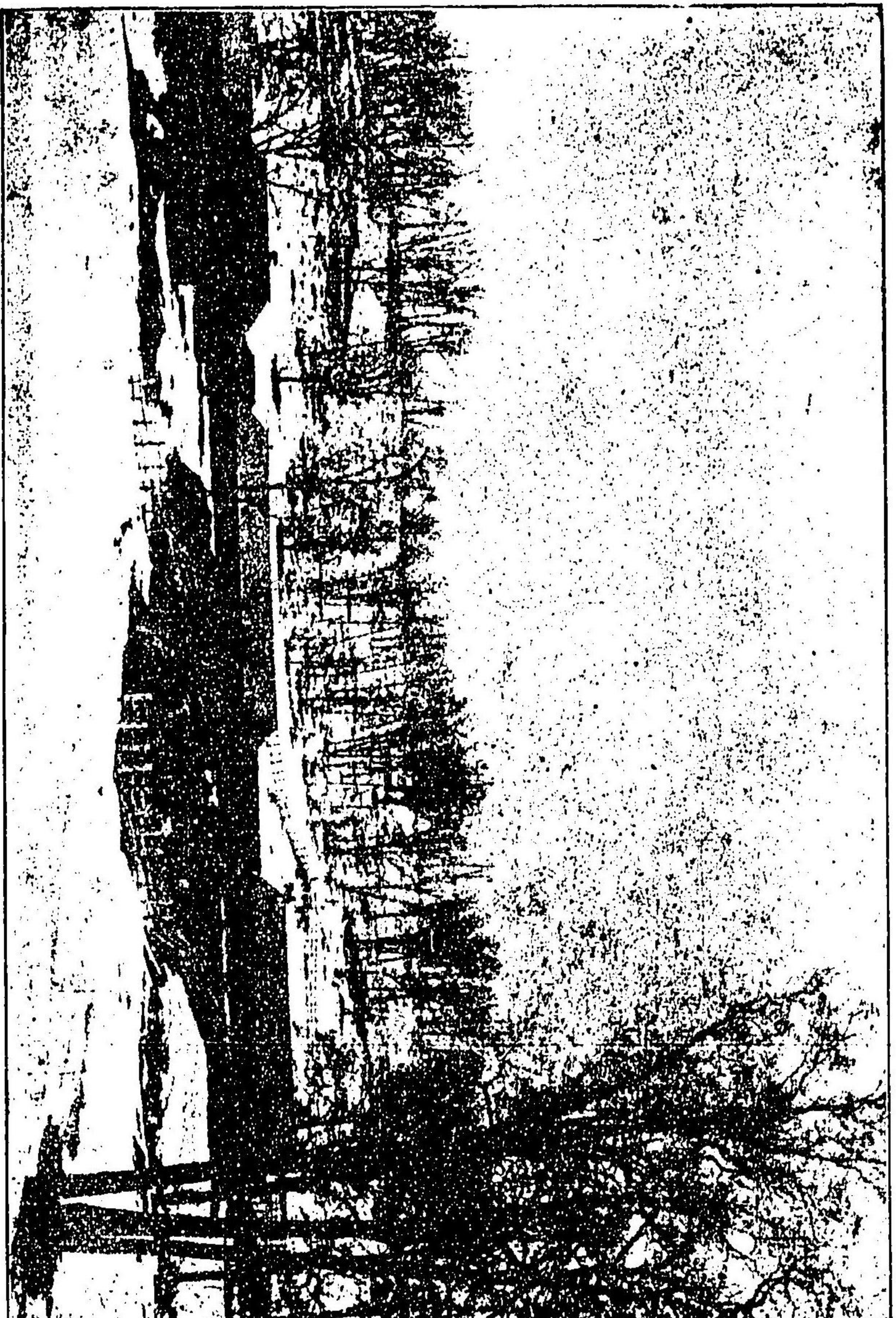
の分は二百余頭なりと聞く。
 藤野美瑛牧場は美瑛市街を距ること二十餘丁にして同村原野七線一號にありて面積は牧場六百十五万千六百五十五坪畑地三十五万九千八百十五坪畜牛三十八年七月現在二百六十一頭なり畜場は三十四年九月の創業にして同年中畜舎及居宅等を建築し爾來年々其度に應じ増築し本年の如き模範畜舎製乳所を建築し目下建物十五棟に及び総坪四百五坪なり又牧柵の如きは一万二千間余にして敷菜畑牧草畑完成し既に二百万坪の土地無償付與検査済となれり當牧場地は美瑛川及殖民區畫地を境とし北は「オキキニウシ」川を中央として「ウバシベツ」川に臨み場内には撒條の清流ありて畜類の飼料充分に土地は平坦丘陵交々相半ばし野草の成長丈餘に及び畜類飼養に最も適當の牧場なり同三十七年三月現牧場の前地殖民區畫地畑二十万余坪を買ひ入れ牧場附屬農耕地となし同年四月米國より大農具を購入し大農組織を経營せり現に三十八年の耕作反別は牧草畑一百十七町歩燕麥畑六十町歩根菜畑十二町歩餘にして多大の農作物を收穫するに至る。
 (牛馬糞飼法) 牧牛は五月上旬より十一月下旬まで放牧地に牧柵を廻らし區畫を設け



牛馬糞飼法



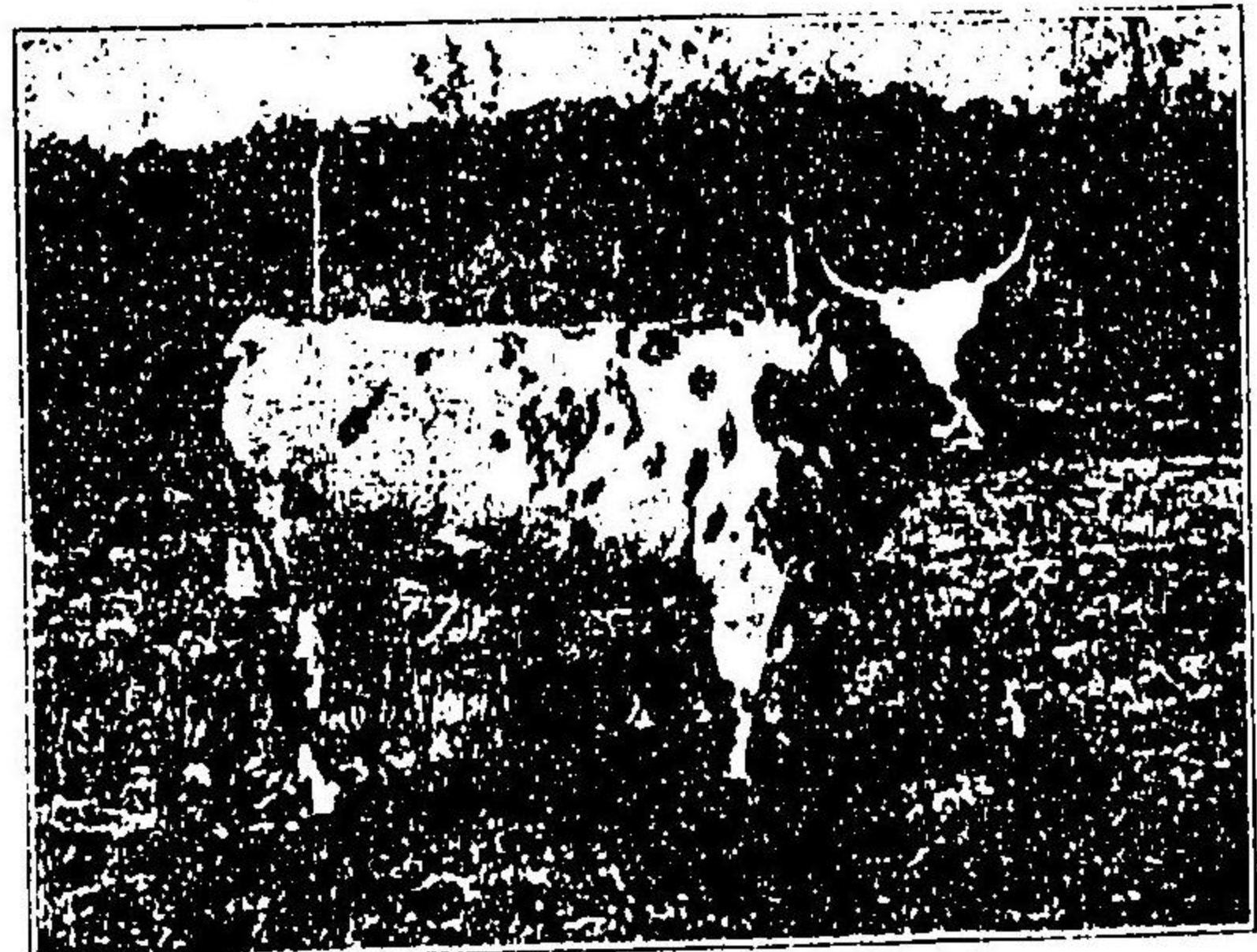
藤野牧場上川養豚部



藤野美瑛牧場

畜産業

①牛馬豚
②牛乳
③牛油



上川郡美瑛村字美瑛

藤野牧場

上川郡旭川町八條通八丁目

藤野搾乳所

▲朝夕ノ一回ニシテ
配達最モ敏速

上川郡旭川町字近文五線壹號

又 藤野牧場事務所

畜類の混合逃走を防ぐ爲め監守人を置き原野に放飼し毎夕畜舎に引き來り穀物食鹽等を給して畜類の馴和攝養を謀り十二月初旬より翌年四月下旬迄は舍飼す冬季飼料は穀糠大麥燕麥玉蜀黍其他根菜類牧草又は野草の切り刻みたるものに混せて給與す屠牛と取扱上大差なしと雖も生後六ヶ月にして割勢術を行ひ放飼の上滿二才に達し冬期は舍飼夏期と雖も屠殺一二ヶ月前より穀類を給して肥腴を計り屠殺す耕馬乗馬は四季舍飼糠又は大麥燕麥を給す常牧場は主に種畜養成の目的にして種類は牛種中尤も健全出乳の多量及滋養の乳質ある「エアアシャ」種にして種畜は明治卅六年英國より農商務省に托して純良なる「エアアシャ」種牝二頭牝二頭を輸入し續いて札幌農學校より同種類數頭を購入し輸入牛は既に牝二、牝一頭を分宛し加ふるに明年は外國より「エアアシャ」及「ホルスタイン」種牝牝牛二十頭程輸入の計畫なりと云ふ若し果して此勢を以て蕃殖を計らば内地方へ種畜として輸出するに至る近きにあるべし同處は牧牛蕃殖の傍ら製乳をなし獨逸遼洲より製乳器械を輸入し目下バタ製造中にして毎日百斤以上の製産をなし小樽地方並に京坂地方に輸出中なりと云ふ、蓋し本場が本道牧場中の最大なる模範牧場として世人の贊賞を受けつゝある所以は

經營其宜しきを得たるに資力充分にして場主の烟眼卓識常人の機先を制したるに由
來ずと雖も牧場長福井氏の氣宇宏濶にして才藻超絶加ふるに經濟に富み畫策常に其
當を得經營殆ど寢食を忘るゝの忍耐と熱心なるに由てたる結果なり且つ氏は公共
利益の實を擧ぐるに努力せられ農牧改良蕃殖の獎勵に付噴々たる意見を吐かる又本
年旭川町會議員として選舉せられ録々の間にあるものなり。

一、旭農場

●旭農場は上川郡美瑛村にありて地味頗る肥沃なる貸付地總面積畑目的八十五万坪
牧場目的五十万坪、新貸付地百九十万坪にして邊別停車場を距る二十町余旭川町を
距る三里余の所にあり「ペペ川」の上流より灌漑溝を開鑿せしを以て逐年瑞穂の穰々
たるを見るに至る。

同支場は旭川町近文入口にあり目下乳牛二十余頭あり主として第七師團の軍屬及び
市街に販賣し一日の賣高九斗内外なりと聞く、

當農場の創立は明治二十七年にして小林直三郎氏外五名の合資組織なり小林氏は米
國に遊學して農事の實験を得歸朝後直ちに來道して現農場を相し二十七年九月躬ら

卒先して雇人を指揮し専心一意無人の山野を開拓し二十八年初めて小作人を入れ之
れが實行に鞠躬至らざるなしと雖も一攫千金の欲望を逞ふせんとする小作人のとな
れば常に議論百出非常なる苦辛の裡に漸次發達して今日の進歩を見るに至る之れ畢
竟資本其ものゝ効果なるべきも小林氏が度最俊秀にして大經倫を有し百折不撓敢て
辛苦を意とせず常に小作人の横志を諭し勤儉貯蓄を獎勵して兒童の爲めには夜學教
師の勞を取り父兄の爲に農事の指南者となり遂に今日の如き一農村を形勢するに至
れり小林氏の本道開拓上に熱情ある推して知るべきなり。

一、上川郡農會

●同會場は六條通十四丁目にあり上川郡各村の組織に係はるものにして農業上全般
の改良獎勵を目的とせるものなり明治三十三年十一月の創立にして上川農會と稱せ
しを卅三年十二月勅令第三十號に依り上川郡農會と改稱す初め本會の創立に付尤も
奔走せしものは黒澤信良君秋山清美君中島民次郎君中枝武三郎君外五六の仁なり本
會創立より今日に至り經歷に就ては多々ありと雖も歸する處物質的經營なるを以て
目前に其の效果を見る能はず然れども創業より今日に至る間直接間接農業發達上に

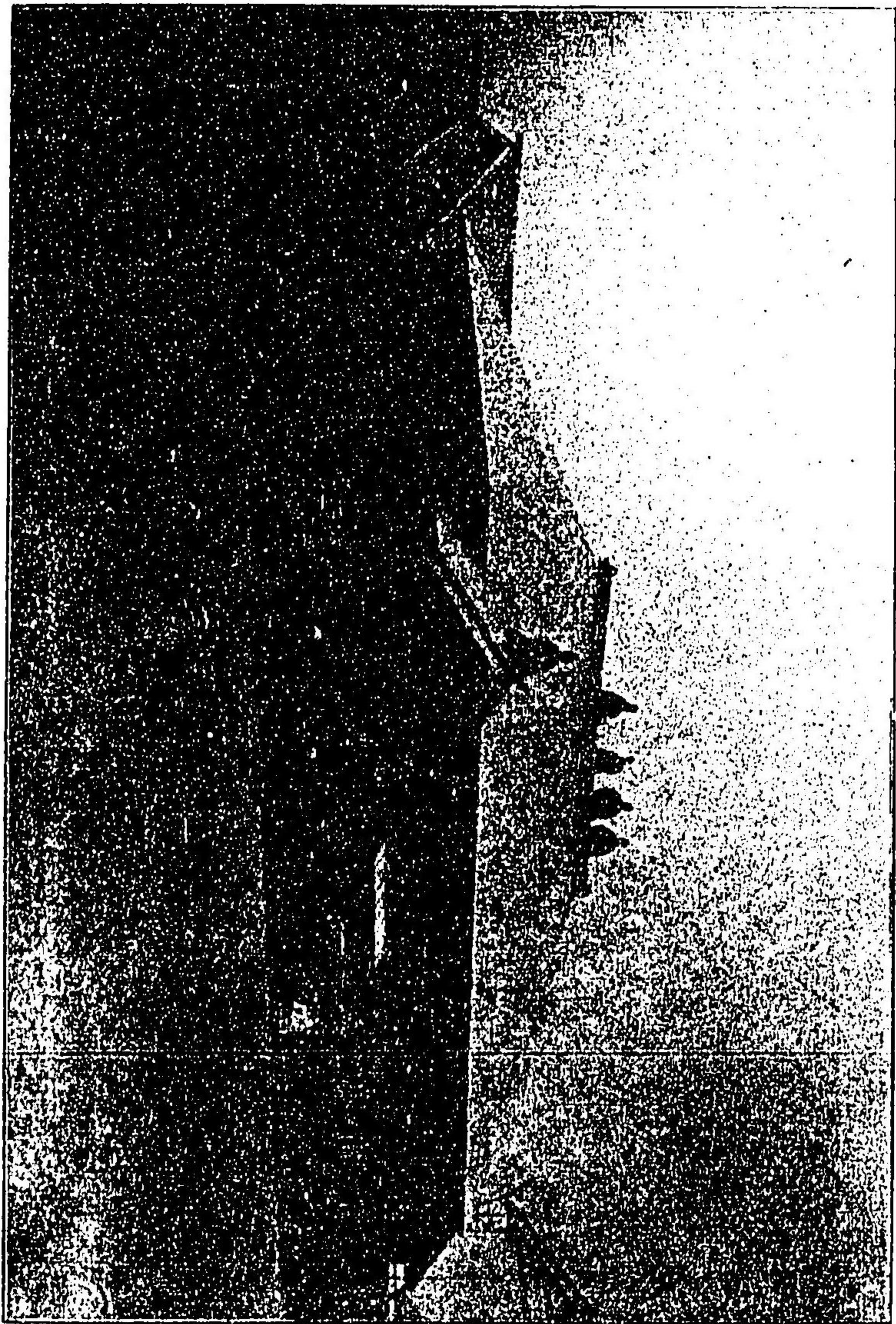
裨益する所あるや大なり殊に霜害豫防燠烟法等に就ては卅五年東旭川村に於て非常なる利益を得たりと云ふ農會事務所書記には野澤左門氏選任せられ能く其職責を重んじ獨特の敏腕を奮つて諸務を整理すとの好評あり。

新聞雜誌

一、新聞

●新聞は社會の耳目たり木鐸たり記者は無位の大員にして自から國家の天職を擔ふものなり、豈に何んぞ他人の毀譽褒貶に追窮せられ已れの眞意否な天理を曲げて社會の開發國家の存亡を顧みずして其天職に適ふものならんや然れども一步退きて考一考すれば我邦立憲の制を布かれてより既に十有六年文物更らに一變し言論の自由亦昔日の比にあらざるも時に或は定度の限界ありて未だ以て眞の自由たるを認め難きの憾あり茲に於てか當地有爲の新聞常に謹嚴能く社會の風潮に伴ひ三寸の舌一寸の筆中庸之れ悖らざらんを期しつゝあるは實に嘉賞するに足る。

一、北海旭新聞社



利益する所あるや大なり殊に霜害豫防燠烟法等に就ては卅五年東旭川村に於て非常なる利益を得たりと云ふ農會事務所書記には野澤左門氏選任せられ能く其職責を重んじ獨特の敏腕を奮つて諸務を整理すとの好評あり。

六十八

新聞雜誌

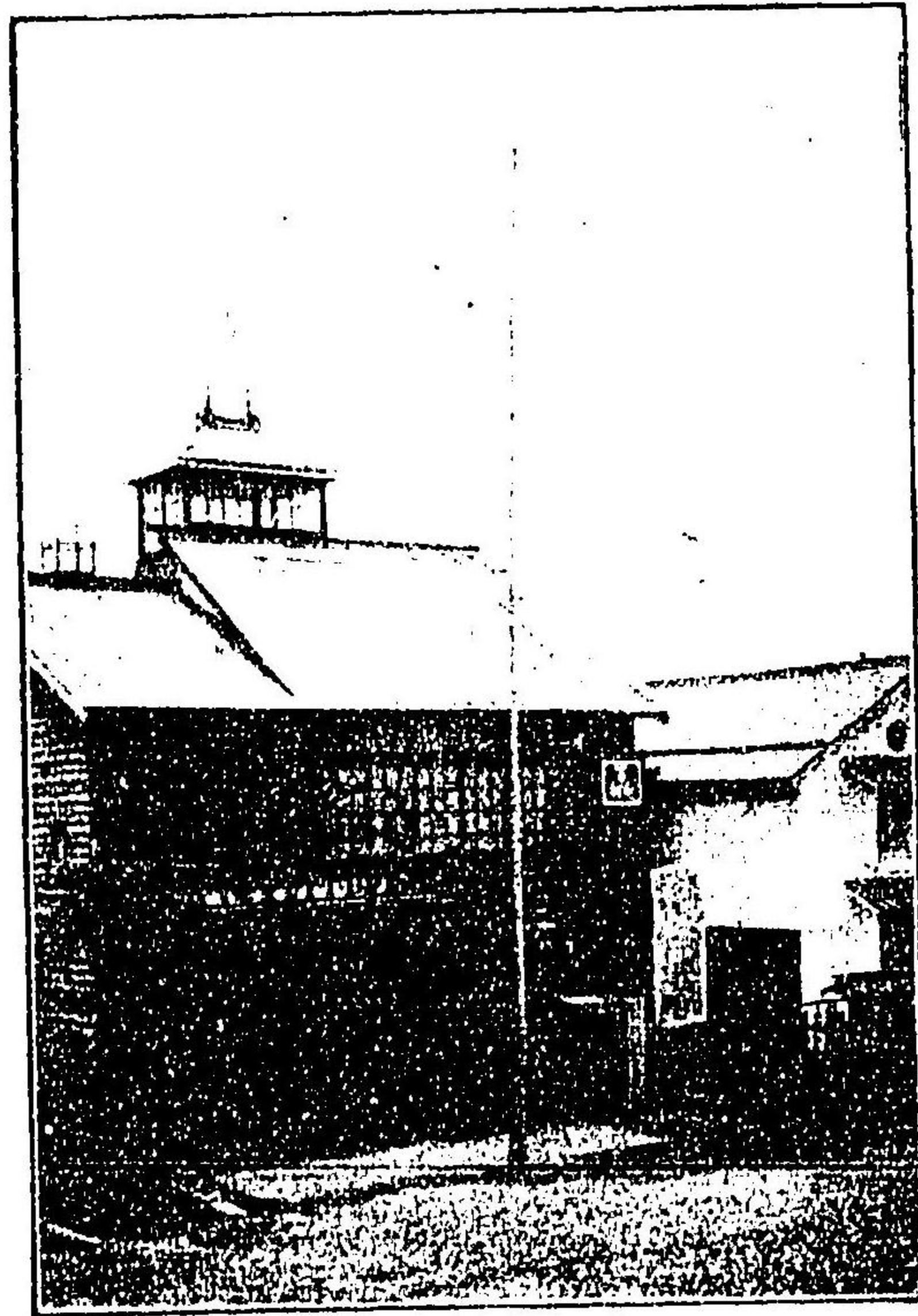
一、新聞

◎新聞は社會の耳目たり木鐸たり記者は無位の大員にして自から國家の天職を擔ふものなり、豈に何んぞ他人の毀譽褒貶に追窮せられ已れの真意否々天理を曲げて社會の開發國家の存亡を顧みずして其天職に適ふものならんや然れども一步退きて考一考すれば我邦立憲の制を布かれてより既に十有六年文物更らに一變し言論の自由亦昔日の比にあらざるも時に或は定度の限界ありて未だ以て眞の自由たるを認め難きの際あり茲に於てか當地有爲の新聞常に謹嚴能く社會の風潮に伴ひ三寸の舌一寸の筆中庸之れ俾らざらんを期しつゝあるは實に嘉賞するに足る。

一、北海旭新聞社



北海旭新聞社



春日井富起館

●三條通九丁目にあり社長は中島民次郎氏にして明治卅四年一月の創立なり上川の天地に於ける新聞の開祖にして目下日刊する紙数は千七百に達す其の隆盛推して知るべきなり社長中島氏甲斐の出身にして卓識深畧あり創業以來百難交々至るも能く其波濤を越に遂に今日あるを視る氏本年道會議員に擧げられ有樞の中に數にらる

一、上川新聞社

●同社は卅八年四月の創立にて二條通八丁目にあり創立日尙ほ淺きに拘はらず新紙發刊今や日々八百以上に達し尙ほ増々發達の雄勢なりと聞之れ畢竟記者諸賢の敏腕快活なるを編輯員一同の規畫其度に適せるの結果紙面の光彩文韻の趣味他に超絶せるに因るべし。

一、旭川商業新聞社

●同社は一條通六丁目にあり明治卅七年八月の創立にして毎月一六日の發刊なり本社は旭川地方商業界の至便に供する爲め商事機關として創立せしものなり。

一、雜誌(書肆)

●村上書肆 は三條通十丁目にあり主として一般の教科書並に雜誌類を販賣す

勉強誠實にして廉價の聞は高し。

●弘文堂 は二條通八丁目にあり教科書雜誌類を販賣するを主眼とす客に對する丁寧にして注文物を迅速送付するの故を以て一般の氣受けよく繁昌なり。

●三澤振武堂は二條通七丁目にあり第七師團の兵書販賣を以て専業とす日露交戦以來購買者増々多く漸次隆盛に向へり。

寫眞館

●富起館 は明治卅二年一條通十丁目に開業し大に繁榮の結果同卅四年九月三條通九丁目(現在の處)に新築移轉せり館主春日井敏夫氏は斯業界の才子として評判高く且つ撮影の術も巧みなりと聞く氏は明治卅四年第七師團移轉と同時に陸軍御用寫眞師仰せ付られ爾來今日に至るも該用に從事し益々隆盛繁昌の機運に向へり。

●三浦寫眞館 は明治卅五年十二月の創立にして三條通八丁目にあり本店は小樽區色内町第二火防線の處に開業せられ札幌崗に於て有名なる寫眞館なり當支店館主は三浦喜八氏にして業務に熱心なると緻密の技術を施すを以て名あり目下助手書

生七八名を置き盛んに之れが業に當るも殆んど寸暇なきの狀体なり。

●谷内寫眞館 は一條通八丁目にあり館主は谷内寛一氏にして誠意熱心能く業務を迅速ならしめ一度撮影せし寫眞にして約束の期間を違はし精板せざるとなり技術も亦た甚だ巧妙にして拙なる處なしと聞く氏は其業を以て職とせる如く好奇心に富み尤も先見の明あり所謂先ずれば人を制するの意ならんか。

●中鉢寫眞館 は四條通七丁目にあり明治卅六年の新築移轉にして尤も評判高く日々顧客の店頭に充滿するを常とす館主孝氏は目下出征中なるも依然として繁昌を極め優に斯業界に名あるものなり。

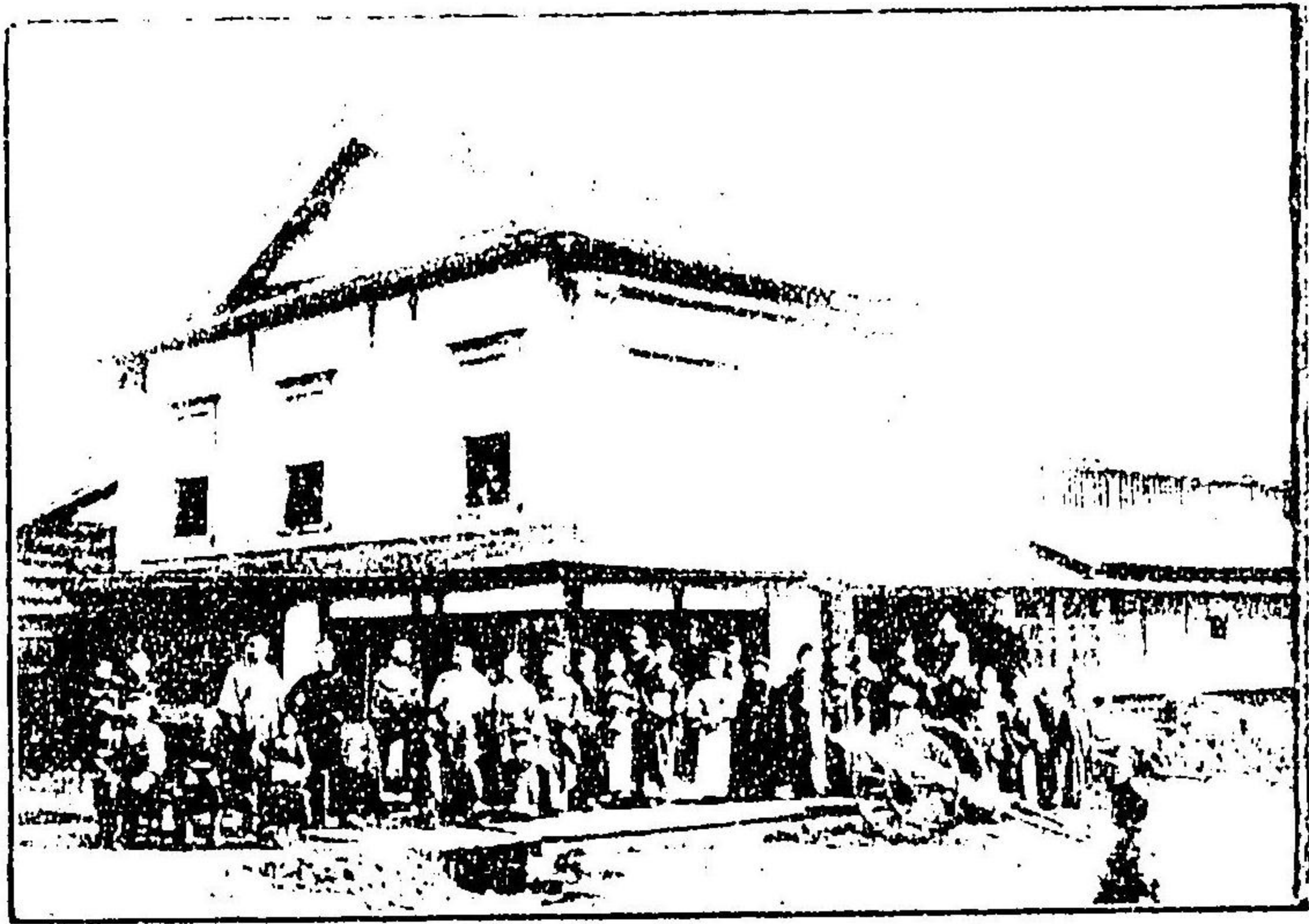
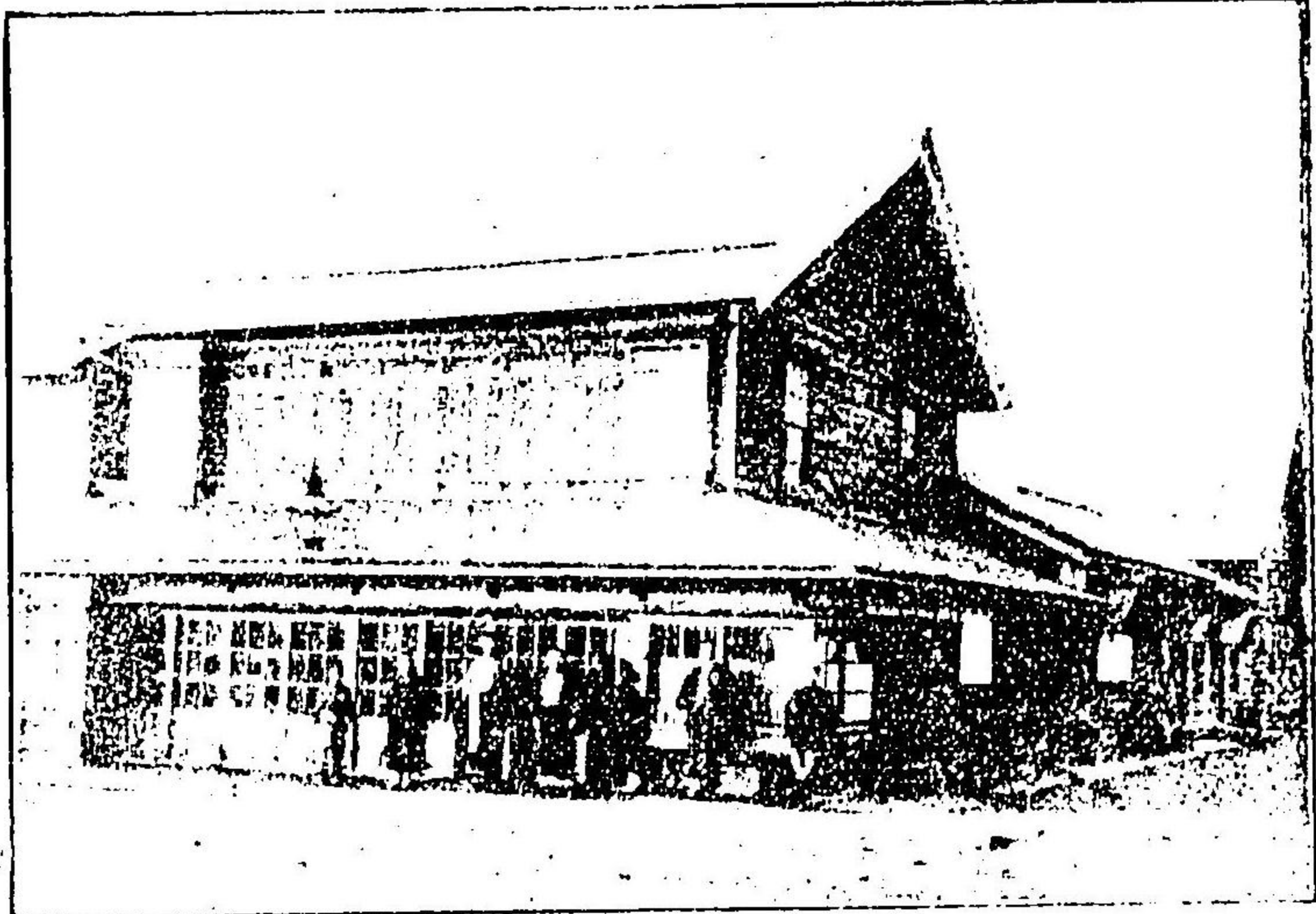
●竹林寫眞館 は三條通七丁目左七號にあり本年一月の創立にして(浦川に本店あり)館主は竹林梅太郎氏にして本年開業直ちに陸軍御用を命ぜられ其の業に精忠せり氏今年年齢順耳技術拔群弟子を愛育するの評あるを以て益々隆盛の勢なり。

此の他(二條通七丁目に蘭昌堂)(一條通八丁目に福井寫眞館)(近文二線一號に國府寫眞館)同一線一號に川村寫眞館あり)

裁縫家

旭川町には第七師團設置以來洋服裁縫家俄かに増加し現在新業家數百五十戸に推々たる趨勢なる就中最も誠實勉強にして一般社會に信用あるものを擧ぐれば左の如し

●**稻本組洋服裁縫店** は二條通十一丁目にあり工場を二條通七丁目に置き盛んに業務を勉勵せるを以て當町一二の裁縫店として數えらる開業は明治廿六年十一月にして第七師團御用を専務とす初め近文三線一號に創業せしも業務擴張上都合に依り本年五月現住所に移轉せり店主は稻本安三郎氏にして着實誠意業務の進行を圖れり氏は志望遠大旭川の小天地を以て足れりとするものにわらず本年五月一日弘前市に出張所を設け陸軍御用を受け同七月一日東京に本店を開き吳海兵團及び東京三菱會社の御用受負を爲し一方には盛んに金物業を營めり而して當裁縫店には支配人萩野重瀧氏工場取締島田勇吉氏の兩名ありて男職工廿二女工七十人以上を雇ひ日も亦管だならざるの形勢を以て勉強せり之れ畢竟するに稻本氏の經營宜しきに出づと雖ども萩野島田兩氏の能く職工を統御し且つ其主に忠なる……による。

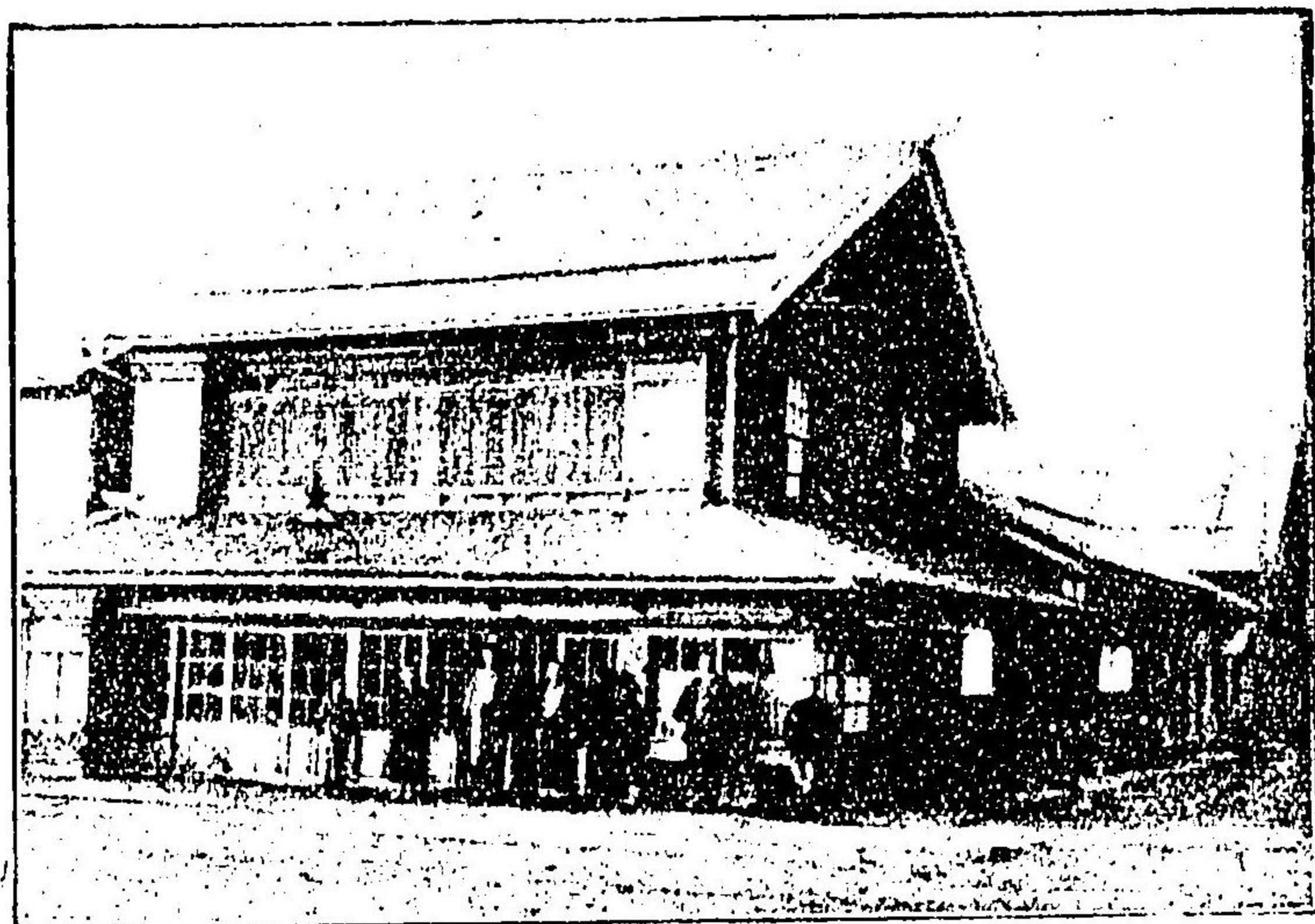


裁縫家

七十二

旭川町には第七師團設置以來洋服裁縫家俄かに増加し現在斯業家數百五十戸に堆々たる趨勢なる就中最も誠實勉強にして一般社會に信用あるものを擧ぐれば左の如し

●**稻本組洋服裁縫店** は二條通十一丁目にあり工場を二條通七丁目に置き盛んに業務を勉勵せるを以て當町一二の裁縫店として數えらる開業は明治卅六年十一月にして第七師團御用を専務とす初め近文三線一號に創業せしも業務擴張上都合に依り本年五月現住所に移轉せり店主は稻本安三郎氏にして着實誠意業務の進行を圖れり氏は志望遠大旭川の小天地を以て足れりとするものにあらず本年五月一日弘前市に出張所を設け陸軍御用を受け同七月一日東京に本店を開き吳海兵團及び東京三菱會社の御用受負を爲し一方には盛んに金物業を營めり而して當裁縫店には支配人萩野重藏氏工場取締島田勇吉氏の兩名ありて男職工廿二女工七十人以上を雇ひ日も亦管だならざるの形勢を以て勉強せり之れ畢竟するに稻本氏の經營宜しきに出づと雖も萩野島田兩氏の能く職工を統御し且つ其主に忠なる……による。



稲本組家



工場

本間岩三君

杉本一二君



中山英八君

丸山時太郎君

竹内清助君

◎三條通十丁目右十號杉本(一二君)洋服裁縫店は明治卅四年七月の開業にして誠實勤勉を旨とし獨立經營専心以て業務を擴張し今日の盛況を呈するに至れり店主(一二君)は明治卅年より同卅四年まで五年間第三十聯隊(越後村松)の軍人裁縫に從事し大のに實際巧妙の技を有するのみならず義侠心に富むを以て同業者間の信用重く旭川裁縫組合設置の當時は氏幹事の任に當れり目下男女職工合せて三十人内外を僱し甚だ盛況なり。

◎五條通十二丁目左五號中山(英八君)洋服裁縫店は明治卅三年の開業にして主に第七師團の被服裁縫のみに從事し平常拵付機械七八臺を有し男女職工三四十人を以て精意熱心勉強の結果旭川洋服裁縫家中第一位を占むるの勢力にて昨卅七年度に於ては所得税金三拾一圓餘を納めたり其隆盛推して知るべきなり。

◎五條通八丁目右五號丸山(時太郎君)洋服裁縫店は明治卅二年の開業にして呉服店の(シャツ)専門工場なり店主は温厚誠實にして能く職工を使役し努めて精良の技術を施すを以て店主は勿論一般の信用厚く日に月に繁昌の機運に向へり。

◎一條通九丁目右十號中通角竹内(清助君)洋服裁縫店は明治卅六年八月の開業にし

て第七師團下士以下の被服専門裁縫工場なり目下男工二十人女工三十人を使雇し盛んに其業に従事せり店主は明治二十三年東京にて陸軍被服工長學者養成所創立の際第一期生として入學し二十四年十一月卒業爾來歩兵第五聯隊被服工長として同卅二年七月迄七ヶ年間奉職し滿期除隊の際恩給金五十四圓を給與せられたり同卅三年より三十六年七月まで札幌洋物店裁縫科として勤務し同年八月に見る處あつて當町に轉住し五條通りに於て本業を開き盛んに之れが擴張中卅七年一月五日隣家より失火の爲め殆んど丸焼けの悲境に陥りたるも更に氣力を鼓舞し目下の處に開業し専心専意奮勵せしを以て再び順境に向ひ今や當町斯業者中屈指の工場となれり。

●丸本和洋裁縫店 は三條通七丁目にあり店主本間岩三氏曾て京坂地方に於て和服裁縫並に裝束類を修業し卅四年陸軍經理學校卒業後明治卅五年旭川一條通九丁目に開業し漸次業務擴張の結果現住所に移轉し和洋服裁縫に従事し益々奮勵して怠りなかりし爲め今日の盛況を規るに至れり亦店主は市内貧民の裁縫教授を受くる資なく知りつゝ女子の第一技藝たる裁縫修業を欠きつゝあるを歎き慈善的教授の方法を以て教授を爲し既に百有餘名の修業生を出し今亦十數名の現在生を教授し居れり

と云ふ。

●上早田裁縫店 は二條通八丁目右十九號にあり明治廿九年の開業にして旭川裁縫教授所としては最も古參のものなり店主は早田のお女にして年齢既に四十餘歳温厚親切にして能く子弟を教授し從來より今日まで教授せし弟子百有餘名目下十數人の自宅教授を爲し居れり。

旅 館

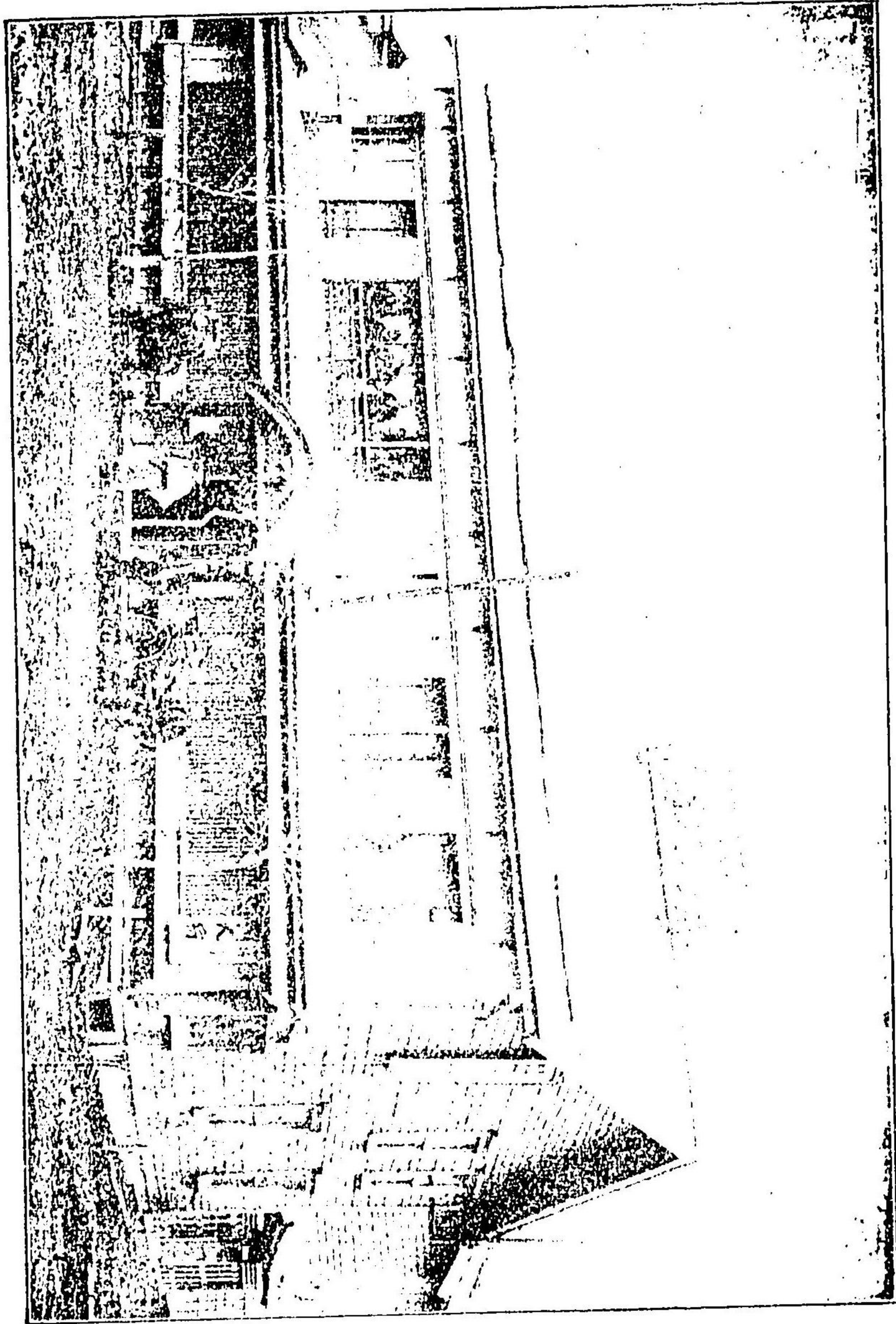
一、三浦屋(旭日樓)

●旭川の地に足を入れ一夜の旅舎を備へんとするの士にして三浦屋旭日樓の知らざるものは稀れなるべし同樓は停車場前(一條通九丁目)にあり明治卅一年の開業にして客室三十余を有し旭川第一の旅館として衆客の賞賛する處なり曾て榎本子爵來旭の際同屋に止宿せられ建築の清楚室内の閑雅なるを嘆美せられ旭日樓と命名せらる爾來旭日樓の名一時に高く貴賤の別を問はず來泊するを常とす主人立野庄吉氏才畧衆に超え斯業界の牛耳を握る明治三十四年旭川町々會議員として選舉せられしより

今日に至るも其任にあり議論正確快刀亂麻の名噴々たり同樓に離れ座敷あり本家より欄干を架して渡る其光景恰も月夜旭橋を渡るに髣髴たり室内の幽静閑雅なるを設備の周到綿密なるは蓋し之れ旭川第一旅館と稱せらるゝ故ならんか。

一、三宮越屋旅館

◎高尚優美にして上流紳士の投宿に適せるものを日本一宮越屋旅館とす停車場（宮下通八丁目）にあり明治卅七年八月の新築にして二層樓閣清洒として要路の西角を占め柳蔭微涼の裡に和洋折衷華飾粹を極めたる離座敷あり懇切なる待遇を受け旅情を慰むるの士皆て絶ゆることなし、同館は三浦屋と比肩し一等旅館を以て名高く客室殆んど三十を有し器具の新調室内の設備至らざるなく旭川の旅舎尠なしと言ふに非らざるも今や嶮然頭角を顯はし同業者を凌駕せんとする雄勢あるは同館なるべし店主は布目喜藏氏にして義氣常に溢れ英資人を悦服せしむるに足る顧客に接する特に親切丁寧を旨とし一家擧げて斯業に忠實なるの好評あり店主の父齡既に六十路を越ゆ老て之れを戒るる得るにありの金言に則り洒然として慾界を脱し唯だ之れ風流あるを知て他あるを知らず就中書畫は此の老翁の尤も好む處にして客室至る所古今

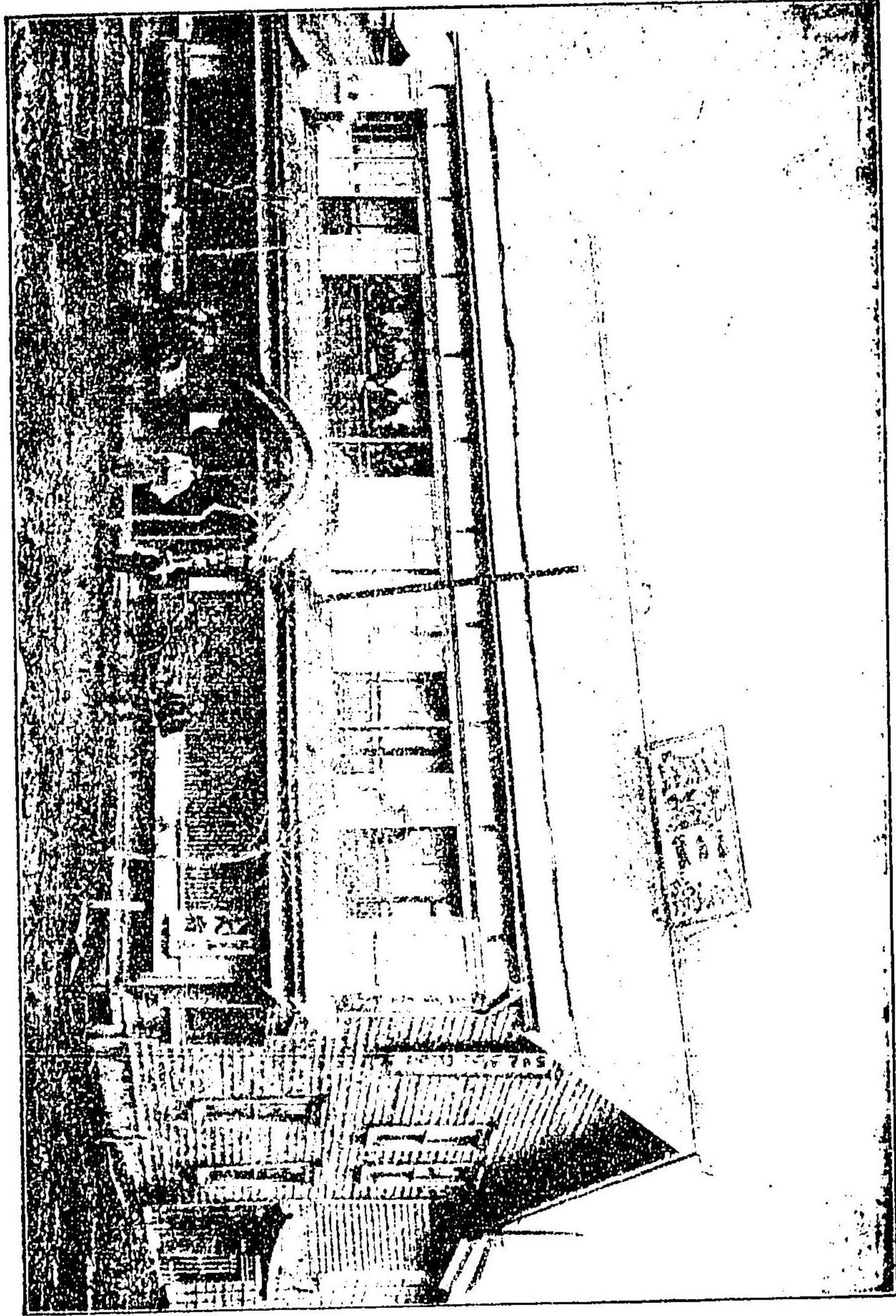


旭川三浦越屋旅館

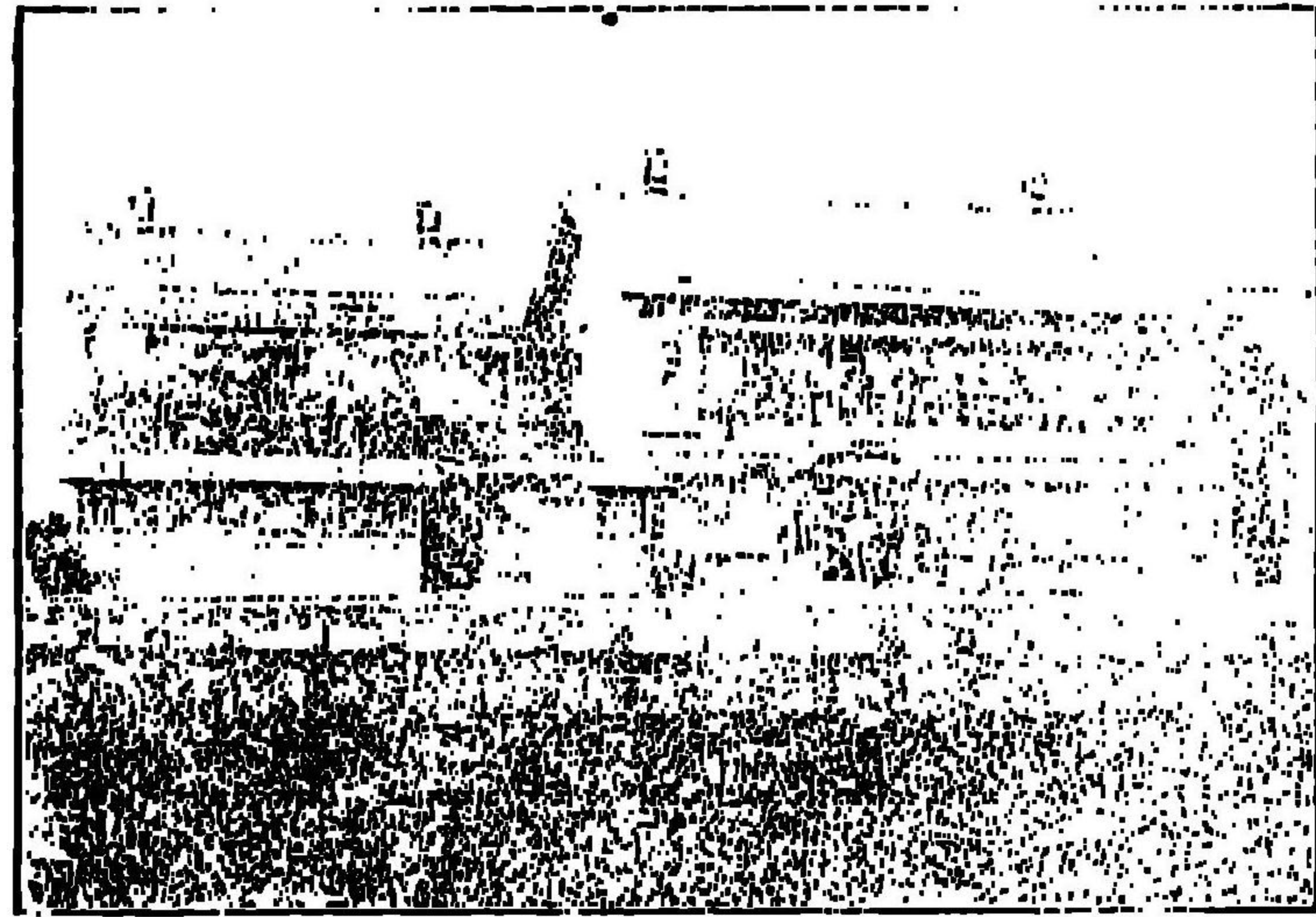
今日に至るも其任にあり職論正確快刀亂麻の名噴々たり同様に離れ座敷あり本家より欄干を架して渡る其光景恰も月夜旭橋を渡るに髣髴たり室内の幽静編雅なるを設備の周到綿密なるは蓋し之れ旭川第一旅館と稱せらるゝ故ならんか。

一、山宮越屋旅館

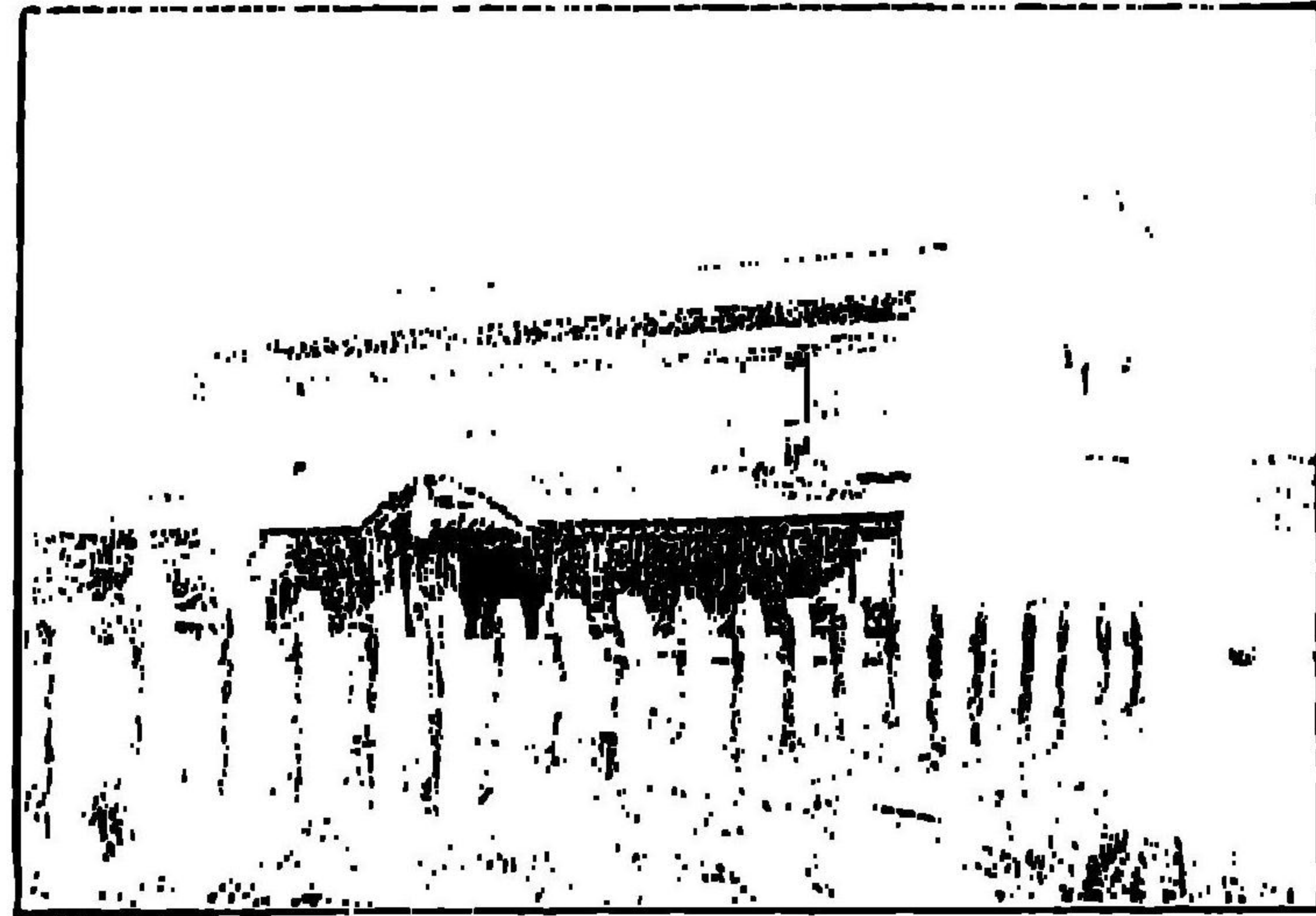
◎高尙優美にして上流紳士の投宿に適せるものを日本一宮越屋旅館とす停車場(宮下通八丁目)にあり明治卅七年八月の新築にして二層樓閣清酒として要路の西角を占め柳蔭微涼の裡に和洋折衷華飾粹を極めたる離座敷あり懇切なる待遇を受け旅情を慰むるの士皆て絶ゆることなし、同館は三浦屋と比肩し一等旅館を以て名高く客室殆んぞ三十を有し器具の新調室内の設備至らざるなく旭川の旅舎魁なしと齊ふに非らざるも今や嶄然頭角を顯はし同業者を凌駕せんとする雄勢あるは同館なるべし店主は布目喜藏氏にして義氣常に溢れ英資人を悦服せしむるに足る顧客に接する特に親切丁寧を旨とし一家擧げて新業に忠實なるの好評あり店主の父齡既に六十路を越ゆ老て之れを戒るる得るにありの金言に則り洒然として慾界を脱し唯だ之れ風流あるを知て他あるを知らず就中會齋は此の老翁の尤も好む處にして客室至る所古今



旭川三浦屋旅館



館 旅 庵 越 宮 Ⅱ



館 旅 谷 村

の名筆珍藪を観ざるなし、若し斯道の嗜好家にして旭川の地に足を入るゝあらば同館に一泊して耳目の快樂を得るも亦一興なるべし。

一、朴旅館

◎本道に於て朴印旅館と言ひば何人も知らざるものなかるべし第一函館を本店とし小樽札幌を始め至る處有樞の地として支店の設けあらざるなく其繁榮推して知るべきなり當町朴印旅館は宮下通九丁目にあり明治三十四年九月の創業にして家屋宏壯幽美加ふるに客室三十以上を有し、敢て虚名を銜はず貴賤の別なく待遇に力め食膳の調理他を凌駕するの聞あり主人谷玄吉氏夙に世の風潮を卓觀し人に接するや寛厚客に對する謙遜自から禮節を存し喜怒哀樂に表はるゝなく常に一家の霽然たるを觀る之れ畢竟處世の秘法として當然採るべき方略ならんも主公谷氏の深略能く今日の盛況を出したるものなるべし。

一、紀の國屋旅館

◎旭川町に中流の旅館多しと雖も家屋宏壯にして設備全く清酒閑寂夏尙ほ涼を覺にしむるものを紀の國屋旅館とす同館は(宮下通八丁目)停車場前にあり旭川町二等旅

館中第一位を以て數にらる明治三十五年の開業なるも當町の發達と共に長足の進歩を以て隆盛を來し三十七年七月を以て現住所に新築移轉せり客室敢て華飾ならざるも清潔にして法に適し食膳美味品多く飢利を貪らず中流の標榜して旅客の至便を圖るに汲々たり館主桑瀬伊右衛門氏齡に既に耳順を超へ今や大器晩成を觀るの順境に遭遇し敢て世の僑紳士を以て驕らず剛毅朴訥仁に遇しの行動あり客に接するや温顔自若丁寧にして深情あり家婦亦厚情綿々として一見舊知の親切あり紀の國屋旅館の今日ある實に愛に存する所以なるかな。

一、國旅館

●近文二線一號に角正旅館あり家屋清麗室内幽靜にして設備全く客を遇する親切に食膳常に珍味なるを勉む館主は河野正吉氏なり實直温和にして粗暴の行動なく始終一貫客の旅情を慰藉するに汲々たり。

此他旅館の所在を舉ぐれば二等旅館として丸幸印笹岡屋山中印中原等三等旅館としては丸井正直屋(一條通八丁目)山城屋(一條通八丁目)高岡屋(宮下通八丁目)田中屋(同上)いろは(同上)山形屋(同上)大泉館(四條通八丁目)丸日館(四條通七丁

一、甲陽館

下宿業

目)因幡屋(一條通八丁目)宮城館(三條通九丁目)千歳館(三條通九丁目)四等旅館としては阿部庄吉(一條通十四丁目)吉川せつ(一條通十一丁目)松井みや(宮下通八丁目)中村屋(同上)鹿角屋(五條八丁目)竹田まつ(一條通九丁目)青柳(八條八丁目)佐々木みよ(二條通十丁目)和田はま(五條通七丁目)清水すて(一條通七丁目)清水屋(二條通八丁目)にあり。

●下宿業専門として旭川町に知らるゝものを甲陽館とす三條通十三丁目にあり少しく町の片隅なりと雖も閑散にして空氣新らしく各官衙學校附近なれば往復に至便なり殊に學生に限り一ヶ月金五圓五十錢を以て止宿に應ずと云ふ。

一、富士屋

●同屋は一條通十四丁目にあり家屋敢て廣大なりと云ふに知らざるも清潔にして一家舉げて親切なり宿料は人に依り多少異なれども可及的廉なるを旨とす

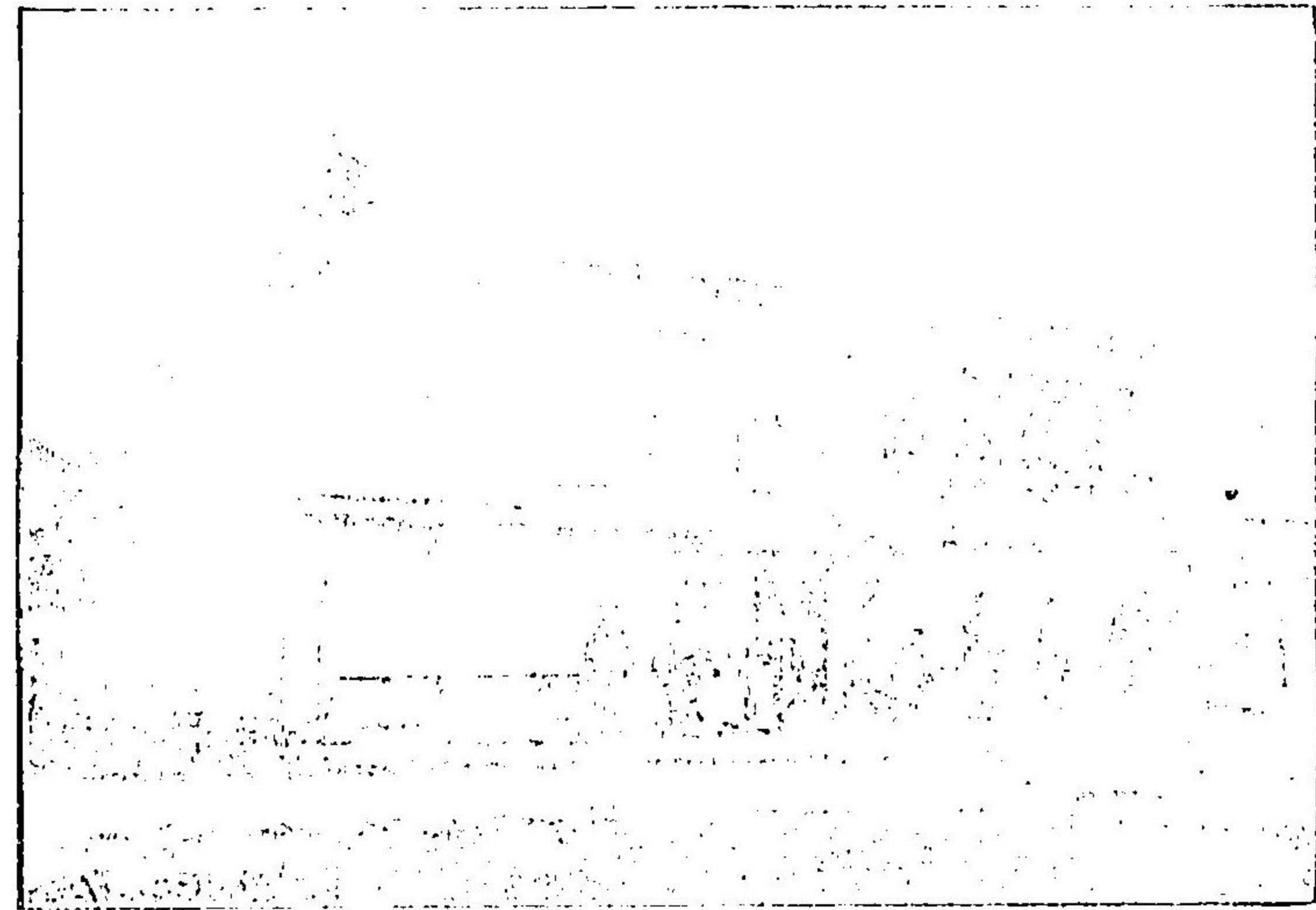
料理店 (和洋)

一、第一樓

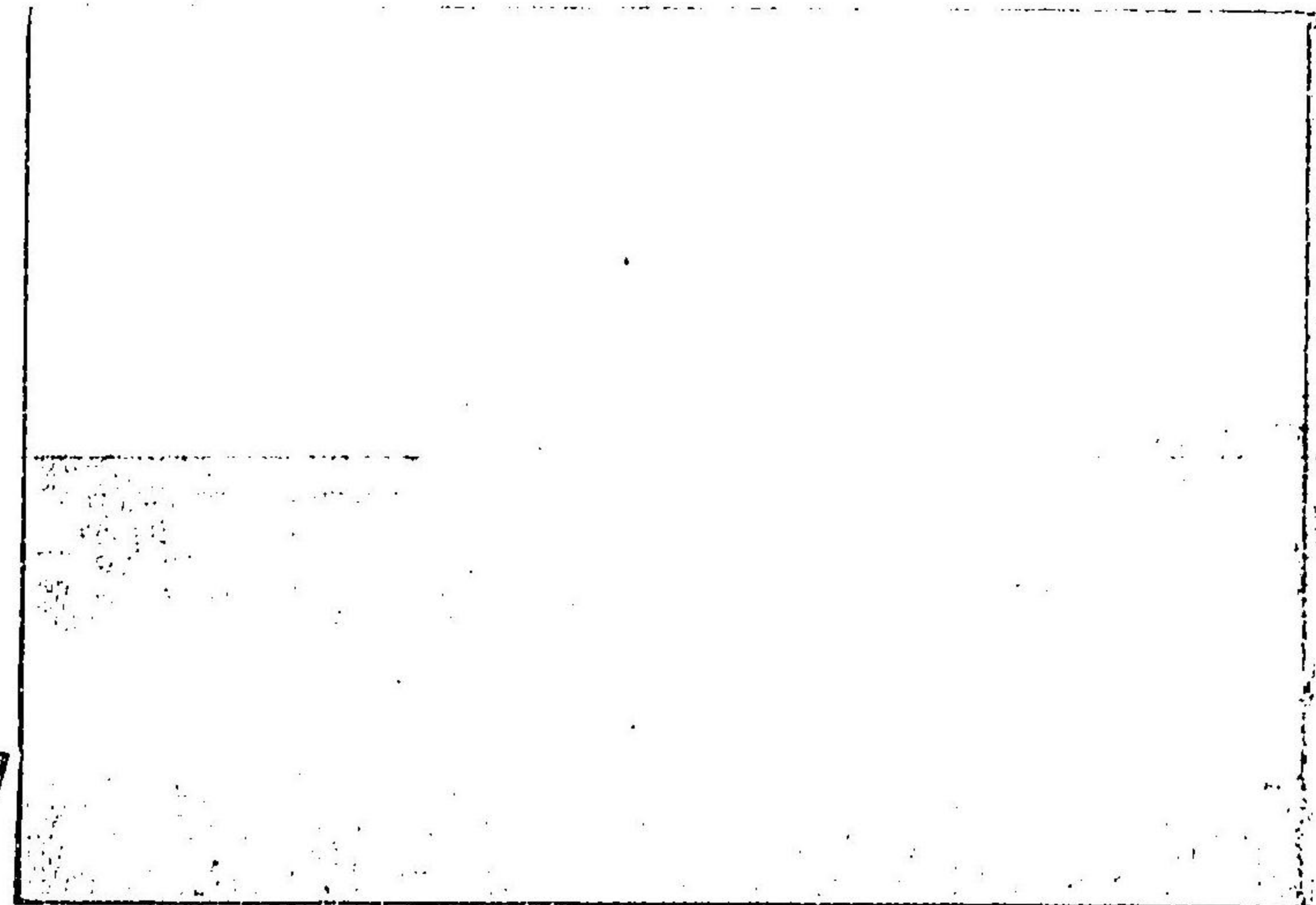
●料理店として旭川の天地に聳々たるものを第一樓とす一條通六丁目左三號にあり大小數十の客間を有し室内総べて清緻閑雅なり就中離れ座敷は幽靜閑寂精美善悉にして人一度此室に足を踏まんか不識して快哉の聲を發せざるものなし料理は衛生に注意し殊に器具等は新調器を用ふ客を遇すること亦親切丁寧なるを以て四六時中弦歌の聲絶ゆることなし多人數の宴會は實に當樓の特有とも云ふべく樓主辻廣駒吉氏義俠を以て名聲噴々たり。

一、忘歸樓

●本樓は旭川停車場前にあり二層樓にして眺望絶佳室内亦清壯麗美にして一夕の快をなすに余りあり當樓は開業日淺きも樓主三久保氏斯業界の多才子にして氣宇廣大臨機の處置に富み顧客に接する懇切なり諸器の完備せる料理の珍味なる他店の比にあらず殊に女將は内政快腕の聞は高く客の氣受けよきこと旭川町に比肩するものな



紀國屋旅館



第一樓

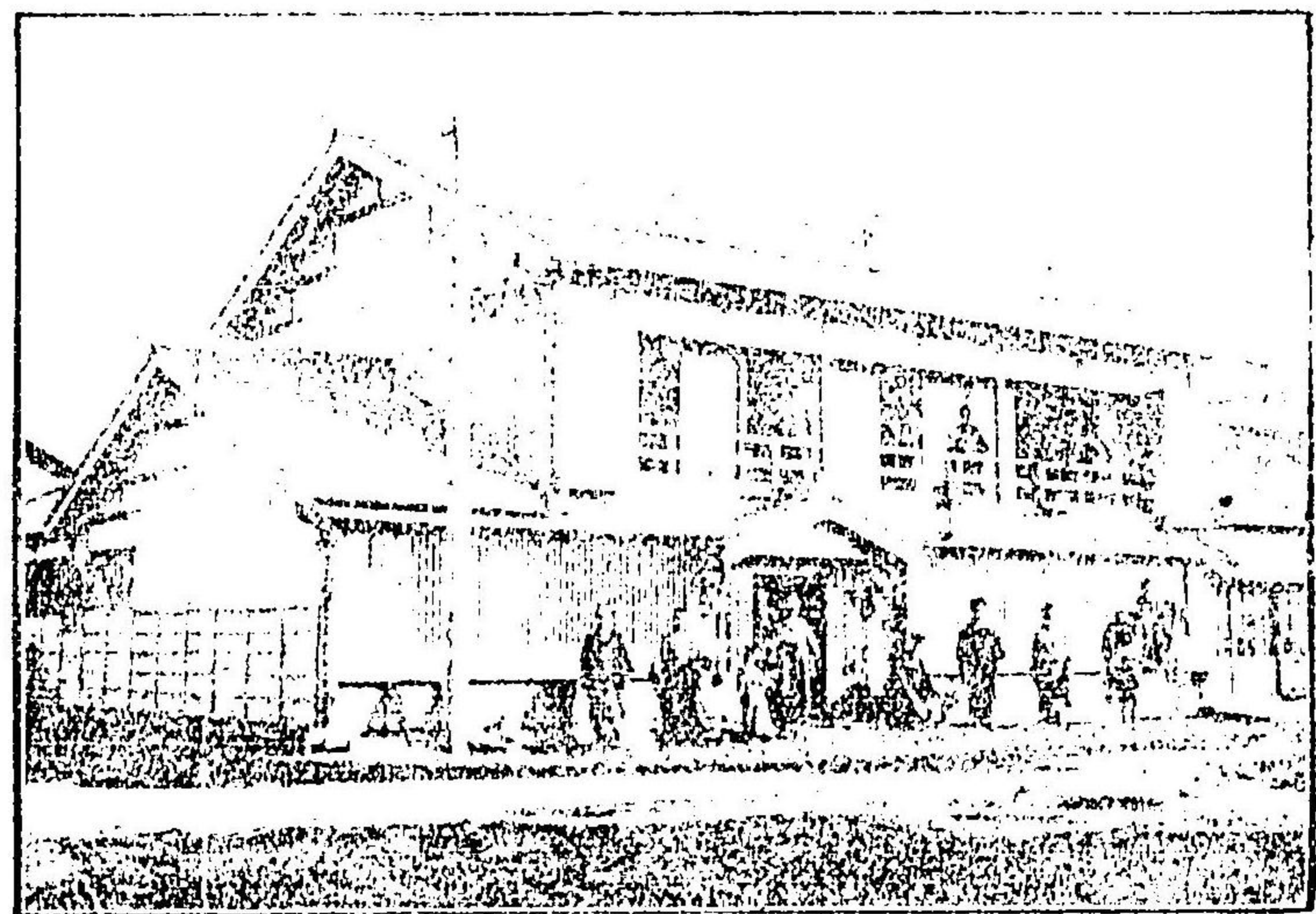
料理店 (和洋)

一、第一樓

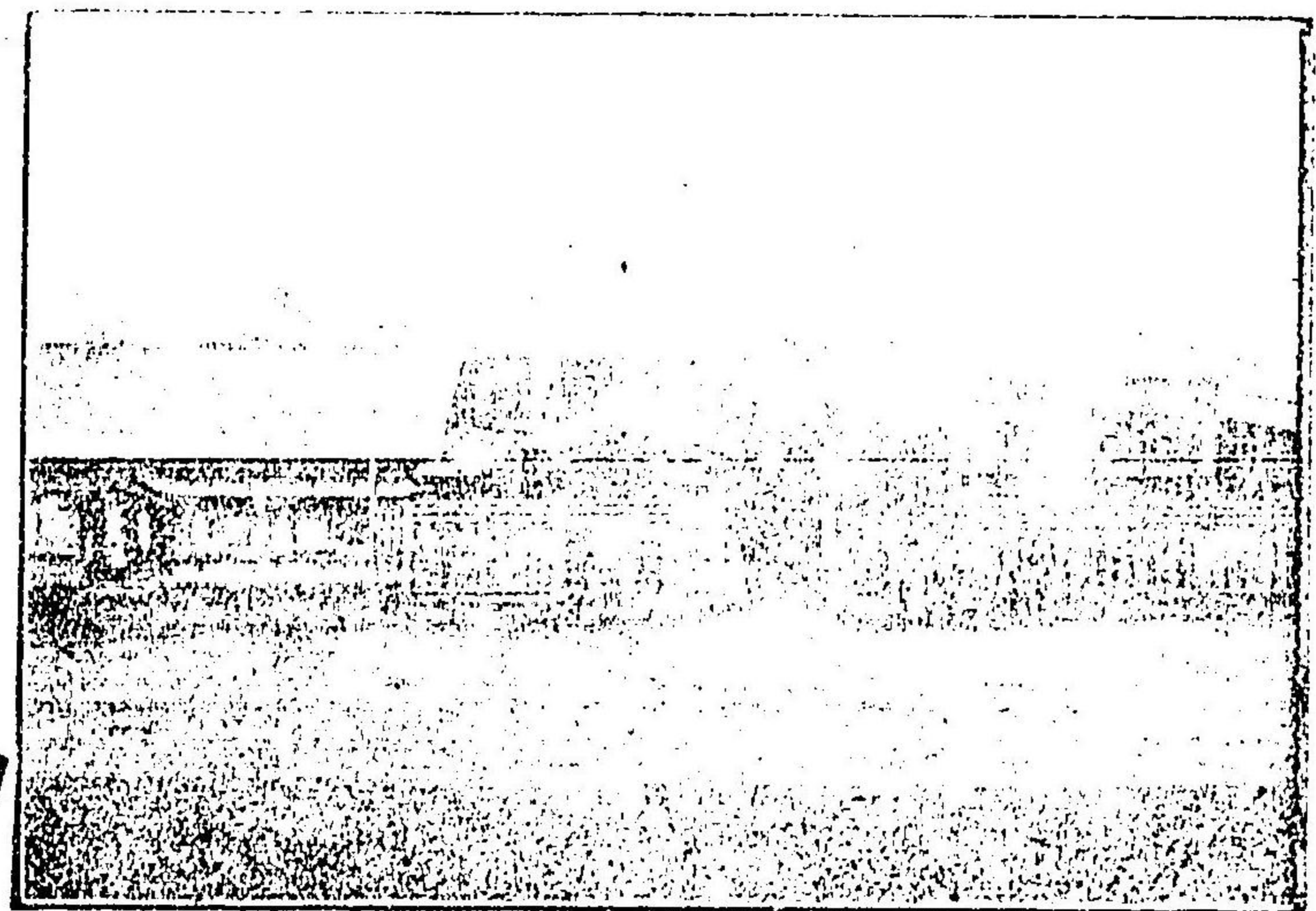
●料理店として旭川の天地に聳々たるものを第一樓とす一條通六丁目左三號にあり大小數十の客間を有し室内総べて清緻閑雅なり就中離れ座敷は幽靜閑寂精美善悉にして人一度此室に足を踏まんか不識して快哉の聲を發せざるものなし料理は衛生に注意し殊に器具等は新調器を用ふ客を遇すること亦親切丁寧なるを以て四六時中歌の聲絶ゆることなし多人數の宴會は實に當樓の特有とも云ふべく樓主辻廣駒吉氏義俠を以て名聲噴々たり。

一、忘歸樓

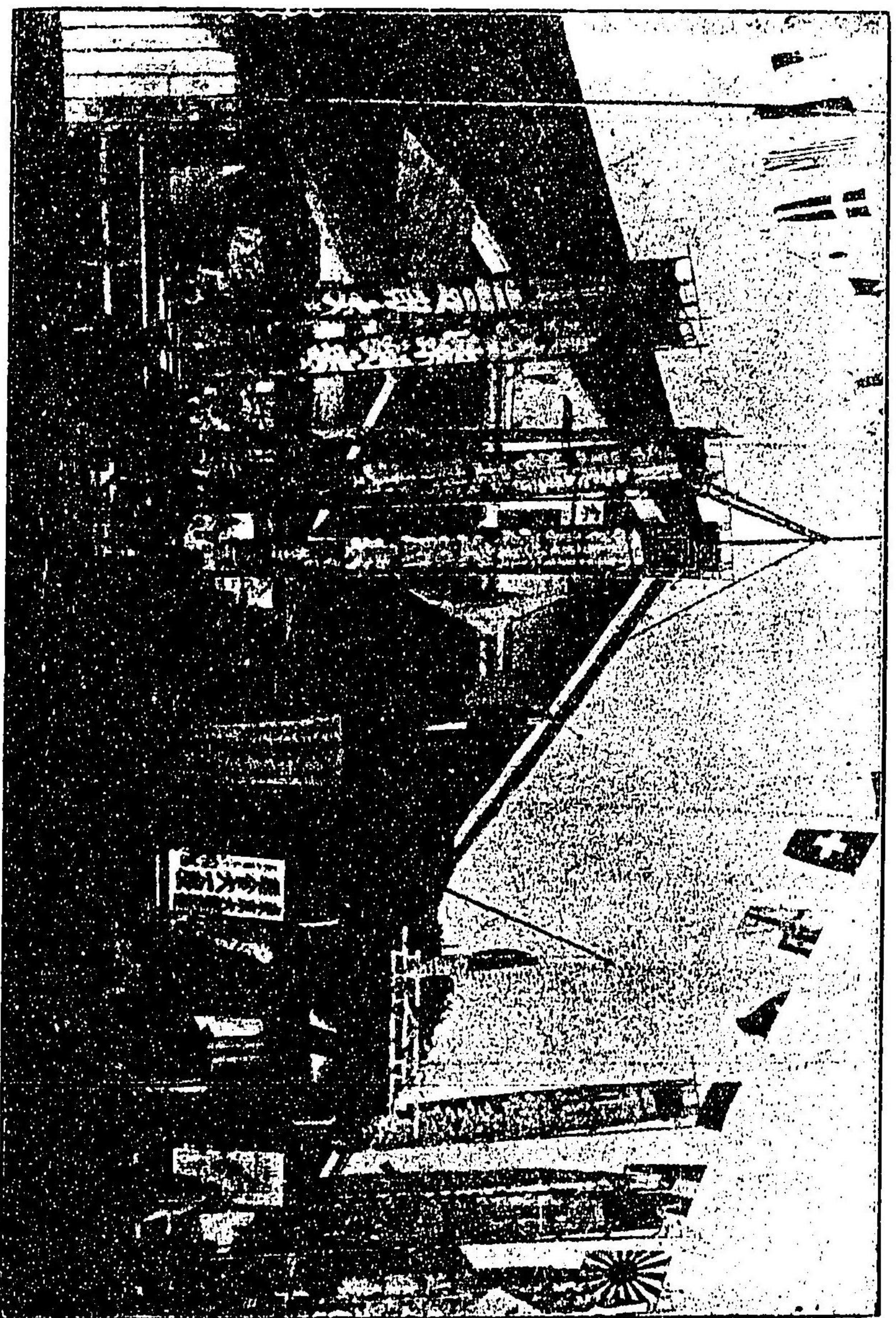
●本樓は旭川停車場前にあり二層樓にして眺望絶佳室内亦清壯麗美にして一夕の快をなすに余りのり當樓は開業日淺きも樓主三久保氏斯業界の多才子にして氣宇廣大臨機の處置に富み顧客に接する懇切なり諸器の完備せる料理の珍味なる他店の比にあらず殊に女將は内政快腕の閑は高く客の氣受けよきこと旭川町に比肩するものな



紀國屋旅館

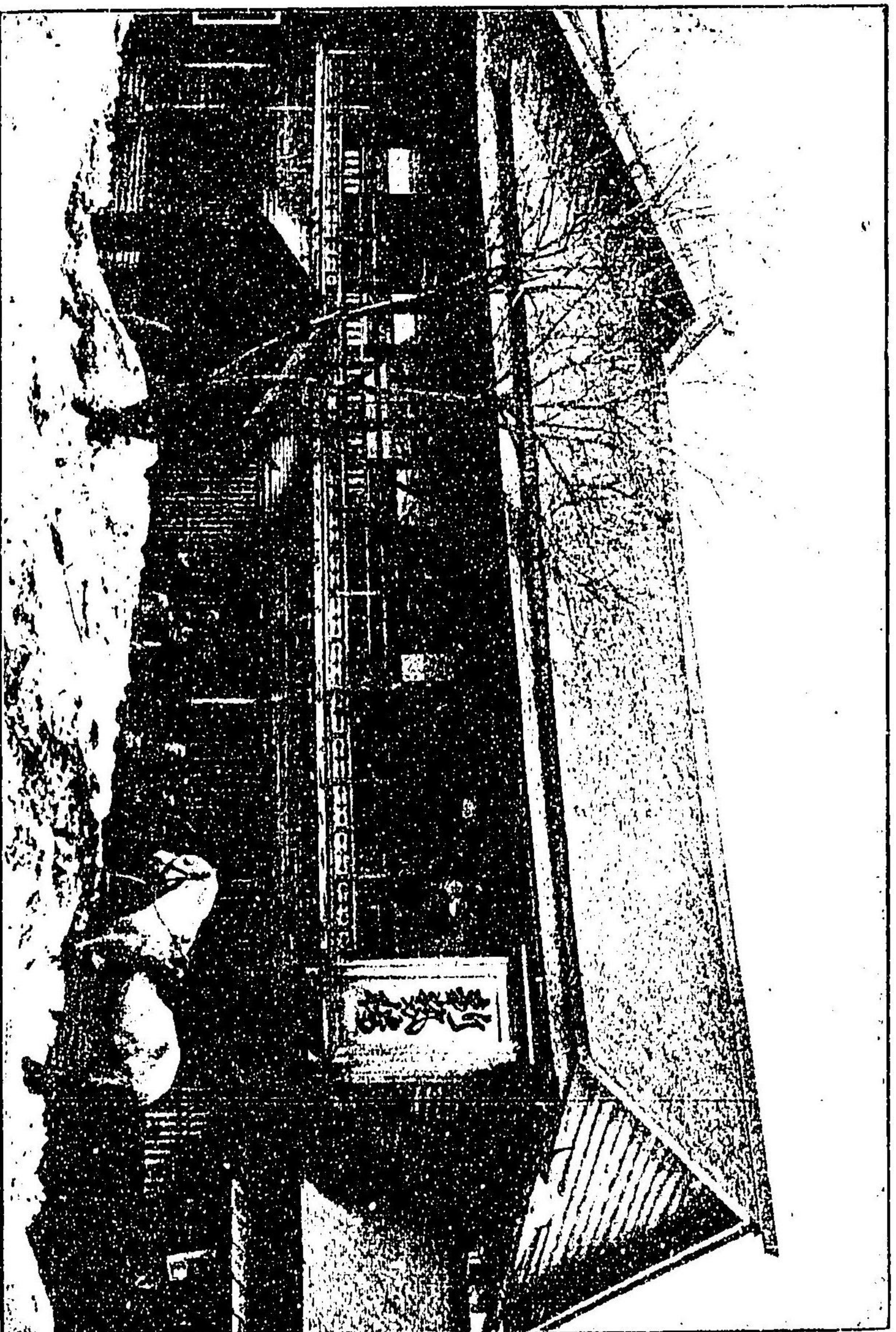


第一樓



旭川佐々木座





旭川新勢樓